

(様式2)

神奈川県立神奈川近代文学館

事業計画書

団体名	公益財団法人神奈川文学振興会
-----	----------------

団 体 の 概 要

(令和元年12月現在)

ふりがな 団体名	こうえきざいだんほうじん かながわぶんがくしんこうかい ざいだんほうじん かながわぶんがくしんこうかい 公益財団法人 神奈川文学振興会 (旧称 財団法人 神奈川文学振興会)		
所在地	〒 231-0862 横浜市中区山手町 1 1 0	電話番号	045-622-6666
代表者	理事長 村上 博 (筆名：辻原 登)	F A X	045-623-4841
設立年月日	平成 2 3 年 4 月 1 日 (旧法人設立 昭和 5 7 年 1 月 2 5 日)		
沿 革	<p>昭和57年 1月 財団法人神奈川文学振興会設立発起人会開催。</p> <p>〃 4月 神奈川近代文学館の運営団体として設立許可。第1回理事会。</p> <p>昭和58年 7月 機関紙「神奈川近代文学館」創刊。(現在146号まで発行)。</p> <p>〃 尾崎一雄文庫、木下杢太郎文庫などを受贈。(現在文庫数47)</p> <p>昭和59年 6月 文学館貸会議室の利用開始。</p> <p>〃 10月 文学館開館、「開館記念展」開催。(現在まで83回の特別展を開催)</p> <p>昭和60年 4月 神奈川県博物館協会、神奈川県図書館協会加盟。</p> <p>昭和61年 3月 収蔵文庫目録(1)「尾崎一雄文庫目録」刊行。(現在第19集まで刊行)。</p> <p>〃 4月 「友の会」発足。</p> <p>昭和62年 4月 日本博物館協会加盟。</p> <p>昭和63年 1月 第1回「神奈川文学散歩展」(三浦)開催。(以後「箱根、県央」まで7回を開催)。所蔵資料総数30 万点を超える。</p> <p>〃 11月 図書データ電算入力開始。</p> <p>平成 3 年 4 月 雑誌、肉筆資料データ電算入力開始。</p> <p>〃 日本図書館協会加盟。</p> <p>平成 4 年 3 月 国立国会図書館マイクロ化事業に協力。</p> <p>平成 5 年 所蔵資料総数50 万点を超える。</p> <p>平成 6 年 3 月 文学館維持管理も財団に委託され全面委託となる。</p> <p>〃 増改築工事竣工。</p> <p>〃 10月 「開館10 周年・増築落成記念 収蔵コレクション展」開催。</p> <p>平成 7 年 幹事館として全国文学館協議会創設に参加。</p> <p>平成 8 年 8 月 文学館ホームページ開設。</p> <p>平成12年 「神奈川近代文学館をサポートする経営者の会」発足。</p> <p>〃 所蔵資料総数80 万点を超える。</p> <p>平成16年 10月 「開館20周年記念収蔵コレクション展」開催。</p> <p>平成17年 3月 指定管理者制度導入に伴う神奈川近代文学館条例改正 4 月施行。</p> <p>〃 所蔵資料総数100 万点を超える。</p> <p>平成18年 4 月 指定管理者 (第 1 期) として神奈川近代文学館の運営開始。</p> <p>平成21年 4 月 初の館蔵資料画像目録「中島敦文庫直筆資料画像データベース」を刊行。</p> <p>平成23年 4 月 指定管理者 (第 2 期) として神奈川近代文学館の運営開始。</p> <p>〃 公益財団法人神奈川文学振興会に移行</p> <p>平成28年 4 月 指定管理者 (第 3 期) として神奈川近代文学館の運営開始。</p> <p>平成31年 3 月 所蔵資料総数126 万点に達する。</p>		

業務内容	(1) 文学資料に関する調査研究、文学資料の収集、保存及び公開 (2) 文学の振興と文化の発展に寄与するための展覧会及び講演会、講座の開催 (3) 文学資料及び研究成果に関する各種刊行物の編集及び発行 (4) 神奈川県が設置する神奈川近代文学館の管理運営 (5) 神奈川県内における文字活字文化振興事業の実施 (6) その他目的を達成するために必要な事業				
主な実績	35年にわたり近代文学資料の収集を継続し、約126万点の所蔵を実現。うち80%以上が寄贈である。肉筆資料及び図書、雑誌など所蔵する資料のほぼ100%を電算化しており、ほぼ全資料がインターネットを介して検索が可能である。体系的なコレクションの総覧である文庫目録を19集刊行したほか、平成24年度には所蔵する夏目漱石資料の画像アーカイブを公開。自主企画の文学展を1984年以来140回（うち特別展83回）を開催。2004年には常設展をリニューアルしたほか、館蔵資料を紹介するコレクション展を18回開催。そのほか講演会、講座、朗読会、文芸映画会、巡回パネル文学展など毎年度多くの企画を実施。近年は若年層への働きかけにも注力している。				
財政状況	年 度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
(過去3年間に ついて記入して ください)	総収入	444,191,479	435,363,585	437,417,256	
	総支出	444,169,835	435,353,884	437,410,212	
	当期損益	21,644	9,701	7,044	
	累積損益	91,066	100,767	107,811	
応募に関する担当連絡先					
氏 名	[REDACTED]		部署・職名	[REDACTED]	
電話番号	[REDACTED]	F A X	[REDACTED]	電子メール	[REDACTED]

目 次

団体の概要	3
I サービスの向上について	
I-1 指定管理業務実施にあたっての考え方、運営方針等について	7
I-1(1) 指定管理業務全般を通じた団体等の総合的な運営方針、考え方	7
I-1(2) 業務の一部を委託する場合の業務内容等について	16
I-2 施設及び設備の維持管理について	17
I-2(1) 施設及び設備の維持管理業務についての実施方針	17
I-2(2) 文学資料の保存環境、展示環境の維持管理についての考え方	19
I-2(3) 施設及び設備の老朽化への計画的な対応についての考え方	21
I-3 利用促進のための取組、利用者への対応、利用料金について	22
I-3(1) 資料の調査・収集・整理に関する業務について	22
ア 資料収集の方針等	22
イ 寄贈者への対応	23
ウ 資料の整理保存の方針等	23
I-3(2) 展示・閲覧等に関する業務について	26
ア 事業の実施方針、内容等	26
イ 広報・PR活動の内容等	34
ウ 利用者ニーズ・苦情の把握及びその内容の事業等への反映の仕組み等	35
エ 障がい者への配慮（手話言語条例への対応など）	38
オ 施設の特性を活かすために行う自主事業の内容等	38
カ 利用料金の設定、減免の考え方	41
I-4 事故防止等安全管理について	43
I-4(1) 通常時の安全管理について	43
I-4(2) 緊急時の対応について	44
I-5 地域・教育と連携した魅力ある施設づくりと地元企業への業務委託等について	45
II 管理経費の節減	
II-1 節減努力について	46
節減努力に関するアピールポイント	46

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

Ⅲ-1 人的な能力、執行体制について	47
Ⅲ-1 (1) 執行体制及び委託業務のチェック体制について	47
ア 法人としての専門性の状況	47
イ 人員配置等の状況について	48
ウ 業務の一部を委託する場合の管理・指導体制	50
Ⅲ-1 (2) 人材育成、労働環境確保等について	51
Ⅲ-2 財政的な能力について	53
Ⅲ-3 コンプライアンス、社会貢献について	53
Ⅲ-3 (1) コンプライアンスのための体制について	53
Ⅲ-3 (2) 環境への配慮について	53
Ⅲ-3 (3) 障がい者等への配慮について	54
ア 法定雇用率の達成状況、未達成の場合の今後の対応	54
イ 障がい者雇用促進の考え方と実績	55
Ⅲ-3 (4) 社会貢献活動等への取組について	55
ア 外国人等に対するコミュニケーションにおける支援	55
イ SDGs (持続可能な開発目標) (目標3 (保健)、目標4 (教育)) への取組、社会貢献活動等、CSRの考え方と実績について	55
Ⅲ-4 事故・不祥事等への対応、個人情報保護	57
Ⅲ-5 これまでの実績	59
Ⅲ-5 (1) 展覧会の開催	59
Ⅲ-5 (2) 講演会等の開催 (平成18-令和元)	67
Ⅲ-5 (3) 文字活字文化振興事業 (平成18-令和元)	75
Ⅲ-5 (4) 資料収集 (平成18-令和元)	94
Ⅲ-5 (5) 維持管理事業	100
Ⅲ-5 (6) 自主事業 (管理費) = 財団本部事業	104

I サービスの向上について

I-1 指定管理業務実施にあたっての考え方、運営方針等について

■ I-1(1)指定管理業務全般を通じた団体等の総合的な運営方針、考え方

◆基本的な考え方◆

神奈川近代文学館は令和2年で開館36年を迎えました。神奈川という近代文学にきわめてゆかりの深い地域に建つ当文学館は、財団の設立趣意書にもあるとおり貴重な文化遺産である近代文学資料を散逸から守り、文学の多面的な魅力を広く紹介して様々な文学や芸術の振興を図るための総合的な文学館として設置されました。今後も設置目的を遵守し、IT化、キャッシュレス化など技術革新への対応も進めつつ、館の使命を果たすために積極的な事業の展開を図っていきます。

【重点ポイント&基本的活動】

設置目的を達成するため、当財団では従来から近代文学資料の収集、整理、保存、公開を事業の基本に据え、文学展を通して文学の普及と裾野を拓げる活動を実施して来ました。加えて指定管理第3期からは、類縁機関、中・高・大学など教育機関、マスコミ、民間企業など外部組織との連携をさらに深め、コミックス、アニメなど他ジャンルとのコラボレーションによる若年層の集客、教育現場への文学の普及と文字・活字文化の振興を目的としたパネル文学展の巡回活動などを進め、従来より一層幅広い年齢層への浸透を図り、知名度を向上させてきました。第4期指定管理期間においても資料の収集・整理・保存・公開などの根幹事業を維持し、さらに文学の魅力を広く伝えていくため、以下の重点ポイントを提案します。

- 重点ポイント**
1. すべての層に開かれた文学館を作ります
 2. 外部とのつながりを強化していきます
 3. 館蔵資料の活用を推進します

- 基本的活動**
1. 資料の収集・整理・保存・公開を継続します
 2. 展覧会を開催し文学の魅力を発信します
 3. 講演会、朗読会などのイベントを開催し、文学の奥行きを伝えます

I サービスの向上について

重点ポイント1

すべての層に開かれた文学館を作ります

- ① 文学愛好家から専門家まで、幅広い層へ文学に親しむ場を提供します。
- ② 幼児から中高年層まであらゆる年齢層に対して文学の面白さを伝えます。
- ③ 小説、詩歌、演劇、評論、児童文学など幅広い分野を事業の対象としていきます。
- ④ 文学に関する各種イベントにより、文学の楽しさを提供します。
- ⑤ 共生社会の実現を目指す文学館としてバリアフリーに配慮します。
- ⑥ SNS、ネットなどを活用し、広報普及活動を一層強化して情報発信します。

その具体策として

① 文学に親しむ場の提供

- ◇ 画像アーカイブ等の充実により誰もが手軽に館蔵資料を検索閲覧し、利用できる環境を提供します。
- ◇ インターネットでのデータ公開を充実させ、学校教育等による活用を推進し、より文学に親しみやすい環境を整備していきます。
- ◇ 美術、音楽、映画、コミック、アニメなどとのジャンルを超えたコラボレーションによって老若男女あらゆる層を対象とした企画を実施します。
- ◇ 貴重な所蔵資料を有効に活用し、プライバシーや著作権等に配慮しつつ資料公開を進め、研究発表などの利用を促進していきます。
- ◇ 生涯学習の拠点として、文学に深く親しめる場として文学館を活性化していきます。
- ◇ 共生社会を推進するために、障がい者の方が文学に親しむ機会を提供できるようサービス向上に努めます。



夏目漱石展会場（平成28年春）会期中の来場者数は約3万人に達した。

② あらゆる年齢層への文学の普及

- ◇ 児童文学展の開催と連携した子ども映画会、読み聞かせ、紙芝居、ワークショップなど関連イベントを実施して、幼児から小・中学生までの世代とその親の世代による利用を促進し、将来の文学館リピーターを増やして行きます。
- ◇ 中学、高校、大学など段階に応じたパネル文学展を提供し、イベントの共催などを通じて教育現場と連携して若年層が文学館に親しむ機会を提供していきます。
- ◇ ライトノベル、コミック、アニメなどとコラボレーションすることで中高生から30代ま

I サービスの向上について

での活動的な年齢層の集客力を一層向上させます。

- ◇ 文学展、著名な講師や俳優などを起用した関連イベント、さらに文学散歩などの友の会活動を通じて、中高年層の生涯学習のなかに文学を位置づけていきます。
- ◇ 展示解説やキャプションなどの文章は平易な表現、難読漢字にはふりがなをふり、わかりやすさを心懸けます。
- ◇ シニアや視力の弱い方にも読みやすいようにキャプションや解説パネルの文字をできる限り大きなサイズで製作しています。

③ 幅広いジャンルの文学事業

- ◇ 純文学、歴史小説、ミステリー、SF、児童文学、詩歌、演劇、評論、エッセイなどあらゆるジャンルを事業の対象とし、それぞれのファンの要望に応じていきます。

④ 文学の楽しさを提供する

- ◇ 講演会、朗読会、映画会、講談会、連句会、ワークショップ、キャンペーン、文学散歩などさまざまなイベントを催し、文学に親しみ、楽しむ場として文学館を位置づけます。
- ◇ 展示等で紹介した作品を気軽に読書できるよう、閲覧室に開架読書コーナーを設けます。
- ◇ 資料保存やセキュリティに万全の注意を払いつつ、バックヤード見学や施設・事業の説明会を実施し、誰もが親しめる文化施設として文学館への理解を深めていただきます。

⑤ 障がい者の方へのサービス向上

- ◇ 障がいのある方にも自由に文学館施設を利用し、催事に参加していただけるよう、各々のニーズに合わせたサービスや対応を行っていきます。
- ◇ 車椅子利用者には駐車場を提供し、展示会場等へ移動する経路では介助者なしで利用いただけるよう誘導等を行っていきます。また、色覚障がいの方にも判りやすいサイン等を館内に導入し、利便性を高める工夫を図ります。
- ◇ 講演会等では聴覚障がいの方が聴講し易いように手話通訳または要約筆記等を導入していきます。

⑥ SNSの活用やその他の具体策

- ◇ SNSなどを積極的に活用し、他ジャンルとのコラボレーションや広報普及活動を推進して、文学により深く親しむ場として当館の知名度向上を目指します。
- ◇ 会議室の提供に関しては、まず設置目的に合致した文学関連の利用を促進する一方、それ以外の目的の利用であっても公平なサービスの提供を行います。
- ◇ 国内屈指の総合文学ミュージアムとして他の文学館や美術館等への収蔵資料の提供はもとより、共催や後援などの事業協力を積極的に行っていきます。

I サービスの向上について

重点ポイント2

外部とのつながりを強化していきます

- ① 学校教育との連携をさらに促進します。
- ② 地域との連携をすすめます。
- ③ 類似施設との連携をすすめます。
- ④ メディアの枠を超えた連携をすすめます。

その具体策として

① 学校教育との連携

- ◇ 県内の小・中・高校の学校図書室、文化祭などへパネル文学展を提供し、国語の授業をサポートして生徒の読書意欲の活性化を図ります。
- ◇ 国語科教員や学校司書を対象に県総合教育センターとの共催研修会や文学館活用研修会を開催し、展覧会への集客やアーカイブの授業での活用を促します。
- ◇ 神奈川県高等学校文化連盟図書専門部と連携し、図書館報コンクール、ビブリオバトル、POPフェスタなどを共催し、高校生の利用を促進します。
- ◇ 県内の大学を中心に共催イベントの開催や博物館実習生、インターンシップの受け入れを行い、当館への理解を深めます。
- ◇ 県内公立中学・高校教員による社会体験研修を受け入れ、教育現場との連携を図ります。

② 地域との連携

- ◇ 隣接する大佛次郎記念館のほか山手地区にある博物館や周辺の洋館を管理する横浜みどりの協会、元町商店街、横浜中華街などと連携し、冬季の山手芸術祭へ積極的な協力をを行い、地域の活性化を図ります。
- ◇ 県立歴史博物館、横浜開港資料館、新聞博物館、人形の家など中区、西区の博物館と連携したクイズラリーやミュージアムツアーを実施し、集客を図ります。
- ◇ 風光明媚な立地のメリットを活かし、港の見える丘公園を管理する横浜市（環境創造局）と連携して利用者へのアピールを工夫します。



横浜市（環境創造局）の協力を得て港の見える丘公園内の各所にレンガのオブジェを展示（平成30年秋 寺山修司展）

I サービスの向上について

③ 類似施設との連携

- ◇ 全国文学館協議会加盟の文学館と連携し、企画展の共催、巡回、(夏目漱石展ほかの) 展示パック提供などに積極的に取り組みます。また、資料の収集、保存、公開など共通する課題について情報共有し、問題の解決が効率的に図れるよう協力していきます。
- ◇ 富山県立高志の国文学館や福井県ふるさと文学館、高知県立文学館など各地の文学館に対する共催や展示協力などを通じて、先進館としての運営ノウハウを情報提供し、全国の文学館と協調していきます。
- ◇ 鎌倉文学館、町田市民文学館ことばらんど、世田谷文学館などの近隣文学館とスタンプラリーなどを共催して相互に広報協力を行い、集客力の向上を図っていきます。

④ メディアの枠を超えた連携

- ◇ IT化やペーパーレス化が一層進みつつある現状を踏まえ、ネットワークを介した様々な媒体との連携を模索していきます。例えば動画サイトやネット企業など外部民間組織との連携の道も探っていきます。
- ◇ 国内外の文学者の顕彰団体や学会、類似施設と協力、連携し、さらに資金援助、展示協力などを得て幅広いジャンルの先進的な企画やイベントを実施していきます。
- ◇ 出版社や民間団体との連携を今後も広げていきます。近年関係を深めているコミック、アニメ、ライトノベルなどの制作会社などと連携し、若者に近代文学を知ってもらう機会と場所を提供します。
- ◇ 有識者による人的ネットワークとして構成された「文学館懇話会」、企業メセナ的な支援組織「文学館を支援する会」、文学館利用促進のための会員組織「友の会」などを積極的に運営していきます。

重点ポイント3

画像アーカイブ等による館蔵資料のさらなる活用

- ① 画像アーカイブの構築とインターネットでの公開。
- ② 学校教育での画像資料の活用をはかります。

その具体策として

① 画像アーカイブとインターネットでの公開

原稿、書簡、書画などの肉筆資料や遺品等のデジタル画像アーカイブ構築は資料の保存と利用の両面で有効な手段です。館蔵の夏目漱石、中島敦資料についてはほぼ全資料全頁の画像アーカイブ化が完了し、さらに他の作家の肉筆資料類についても順次デジタル化を行い、高精細画像アーカイブの拡充を図っていきます。

また、「夏目漱石デジタル文学館」はインターネットに全面公開し、誰でも閲覧利用が出来ます。他の資料についても著作権や画像複製のセキュリティに十分配慮し、Web版の画像アーカイブを公開するための準備を進めています。

② 学校教育での活用

教科書に掲載される夏目漱石、中島敦などの作家の肉筆資料の画像データを巡回パネル展と一緒に学校へ提供し、国語の授業で活用して貰い、作品の背景や内容の理解を深めてもらうことで、生徒の興味を喚起して文学に親しむ素地を養成します。

また、学校等へ巡回するパネル展ではより柔軟な利用ができるよう画像データでの提供を進めていきます。

I サービスの向上について

基本スタンス1

資料の収集・整理・保存・公開

- ① 寄贈を中心とする収集を継続し、所蔵資料の充実を図ります。
- ② 収集スペースの効率的な利用をすすめ、同時に外部収蔵施設等の可能性を検討します。
- ③ 所蔵資料のデータ化を進め、データ活用の利便性を高めていきます。
- ④ 展示施設と閲覧室を有機的に連携させ展示観覧者の学習意欲に応えるよう努めます。
- ⑤ 肉筆資料等の収集、整理、保存に力を入れ、同時に電子データの保存活用も研究します。

□寄贈を中心とする収集の継続

理事、評議員、文学館懇話会会員をはじめ出版関係者、類縁機関など財団の持つ人的ネットワークとこれまでの実績によって得られた信頼などをもとに、今後も寄贈による資料の充実を図ります。

□収蔵スペースの対応

設計上の収蔵能力の限界に近づきつつある状況ですが、保存棚の増設や配架方法の工夫でスペースを確保し、さらに収集段階における厳選によって資料を選別し、収蔵スペースの問題に対処していきます。また県と協議し、貸しスペースも含めた外部の収蔵空間、または一時保管施設の確保など次善の策を講じていきます。

□資料保存と利用のバランス

所蔵する資料を良好な状態で後世に遺すために保存技術や知識の習得に努めます。自然災害に対処し、落下防止などの耐震対策、防火・防水対策などを行い、備えをしています。また、資料の利用と保存のバランスに配慮し、貸し出す際は厳格な基準による管理を継続していきます。

□資料データの洗練

現在、館蔵資料の98%が既にデータ化されていますが、今後も100%を目指して努力を続けます。また、データは利用者の利便性を考えて検索機能が高く、かつ正確なものを作成していきます。同時に効率的で迅速な整理作業を行い、外部のニーズに充分応えられるよう努力します。

□肉筆資料を中心とした特別資料の収集、保存、整理の促進

肉筆資料類は館蔵コレクションの中核であり、今後も収集や利用機会の増加が見込まれるので十分な保存スペースが確保できるようレイアウトしていきます。また整理作業では専門性の高い独自のデータベースを構築し、検索効率を高め、利便性を向上させます。さらに電磁的形式の資料など従来にない形態の資料についても保存、利用の方法を検討していきます。

□専門性の保持

近代文学専門の資料館として専門家の要求に応じる水準を保ちます。また、専門図書館として公共図書館での対応が難しい稀少資料の閲覧や資料調査などに協力します。

□閲覧室の活性化と利用者増

開催中の文学展と連携した読書コーナーを閲覧室内に設け、来館者の展示観覧後の読書意欲を満たす環境を提供することで収蔵資料の利用を促進します。読書コーナーで実際に書籍を手にとることは、知的好奇心を満たし、生涯学習活動の増進につながります。

I サービスの向上について

基本スタンス2

展覧会の開催

- ① 集客をめざすため人気のある作家を特別展に配します。
- ② 一年を通して、子どもから大人まで幅広い層をカバーします。
- ③ 豊富な館蔵資料を活かした独自性のある展示を行います。
- ④ 県内外の文学館など類似施設との交流を深め、共催展等を企画します。
- ⑤ 神奈川ゆかりの視点を保持しつつ、日本や世界も視野に入れていきます。
- ⑥ 他ジャンルの芸術とのコラボレーションの可能性を考えていきます。
- ⑦ より効果的な展示方法を工夫し、新しい展示技術も取り入れていきます。

□あらゆる世代に親しまれる文学館を目指して

春と秋には大規模な特別展を実施し、夏休みには親子で楽しめる児童文学展、その間に中規模、小規模の作家展、収蔵コレクション展などを織り交ぜ、特定の受容者層に偏らない、さまざまなジャンルの展覧会を構成していきます。

□神奈川近代文学館ならではの魅力的な文学展の開催

集客力のある特別展を行う一方、文学を専門とする公益財団法人として、民間レベルでは採算ベースに乗らず、企画することが難しい当館ならではの中・小規模の作家展や関連イベントを開催し、文学の多面的な魅力を発信します。

□豊富な館蔵資料を活用した展示

館蔵資料を活かした収蔵コレクションによる文学展を開催し、寄贈者への顕彰と同時に幅広いジャンルの文学を対象とすることをアピールします。また、これまでに得られた知的蓄積や人的資源を有効に活用し、展示内容に反映させていきます。

□他の文学館など類似施設との共催、連携、協力

館の設置目的であり、財団の使命でもある文学の裾野を広める活動として、県内外を問わず、文学館や美術館、類似施設などと共催、連携、巡回展、展示協力、企画編集などを行っていきます。

□神奈川ゆかりを重視しつつ広がりを持たせた展示

県ゆかりの文学と同時に、国内全般の文学または世界の文学と日本といった視点も加え、利用者のニーズを探ります。

□展示のさらなる演出

立体的な展示、3Dオブジェ等による演出、動画による展示、劇場型の演出など新要素を加えた技法により、来場者を飽きさせない趣向を凝らしていきます。



「寺山修司展」会場写真（平成30年秋）



「中島敦展」会場写真（令和元年秋）

I サービスの向上について

基本スタンス3

講演会、朗読会などのイベントの開催

- ① 展覧会に関連した魅力的なイベントを開催します。
- ② 作家や研究者による文学の講演会を開催します。
- ③ 作家の周年記念の講演会、講座、文芸映画会などを開催します。
- ④ 人気俳優を起用し、ライブ感のあるイベントを開催します。
- ⑤ 連句会、講談会、朗読コンサートなどバラエティに富んだイベントを開催します。
- ⑥ 若年層向けの講演会や外部と連携したイベントを開催します。
- ⑦ イベントにおけるバリアフリーの整備を推進します。

□展覧会関連した魅力的なイベント

特別展、企画展のテーマに合わせた講師陣を選び、講演会や対談などのイベントを開催します。また夏の児童文学展開催に合わせてエントランスでの工作コーナーや読み聞かせ会、紙芝居、ワークショップなどさまざまな子ども向け（子育て世代向け）のイベントを催します。

□文学の奥行きを実感できるイベント

文学者が作家を語り、作品解釈を行う講演会は文学の奥行きを実感できる行事として好評を得ています。また、文学講座では研究者が丁寧に展示内容を解説することで今後も企画内容に合わせた講師やテーマを設定し、文学愛好者のニーズに応じていきます。



講演中の上野千鶴子氏
(江藤淳展／令和元年)

□作家の周年記念イベント

神奈川ゆかりの作家を中心に、生誕、没後などの周年を記念した講演会、講座、映画会などを開催します。

□ライブ感のあるイベント

人気俳優を招いた朗読会、トークイベント、講談会などを実施することで常に好評を得ています。今後も展示内容とテーマに合わせた行事を開催することで集客を図っていきます。



野村萬斎氏朗読イベント
(中島敦展／令和元年)

I サービスの向上について

□バラエティに富んだイベント

文芸映画会、連句会、朗読コンサートなど様々な行事を開催し、好評を博しています。一般参加型の連句会、音楽や演劇と作品朗読を融合した朗読コンサート、大学生による作品朗読会などさまざまなイベントを企画します。さらに美術や音楽、演劇など他ジャンルと文学の関連を探るイベントにも取り組んでいきます。

□若年層に向けて

児童文学展及び春・夏休みの児童向け行事（映画会、読み聞かせ、紙芝居、ワークショップなど）は親子連れが文学館へ訪れる機会を増やしています。県内の各種児童団体と協力し、県の次世代育成事業とも連携して将来の文学館リピーターの育成に力を注ぎます。

小・中・高等学校へのパネル文学展の巡回、県高等学校文化連盟高等学校文化連盟とのイベント共催、教員や司書を対象とした文学館活用研修会の実施などにより教育普及活動を積極的に支援していきます。また、県高文連図書専門部の協力を得た「高校生による高校生のための文芸講演会」や県立図書館と協力した「子ども読書活動推進フォーラム」など共催によるイベントも実施していきます。

同時にコミックやアニメ、ライトノベルなどと連携したイベントやキャンペーンを行い、若年層の集客も図ります。



高校生による高校生のための文芸講演会で高校生と対話中のヨシタケシンスケ氏（正面中央／平成28年）

□バリアフリーへの配慮

車椅子によるイベント聴講に対応し、常に車椅子利用者のための専用スペースを会場に確保しています。また、聴覚に障がいのある方にも講演会を聴講していただくため、要約筆記または手話通訳などの導入を進めていきます。

障がいのある方が文学館を利用するために必要な施策を講じ、県手話言語条例等に沿って専門団体等から協力を得ながら、利用者の視点に立ったサービスの向上を目指します。



要約筆記を用いた講演会で講演する鈴木まもる氏（子ども読書推進フォーラム／令和元年）

I サービスの向上について

■ I-1(2) 業務の一部を委託する場合の業務内容等について

業務一部委託に関する方針

- * 財団諸規程及び神奈川県財務規則に則り、県内中小企業を委託先として競争を促進することで適正な価格で契約し、契約の透明性確保を今後も維持します。
- * 専門性の高い分野については外部へ委託し、文学館事業を支える根幹業務については財団職員が持つスキルやノウハウを活かして、高いレベルのサービスを提供します。
- * 専門性の高くない一般的な業務については、環境への配慮や障がい者雇用を適正に行う企業を優先し、業務に見合う適切なランクの県内企業を中心に契約業者を選定します。
- * 障がいのある方への対応業務に関しては専門団体と連携して適切な方法で委託を行います。

□委託の内容と選定方法について

- ・文学館の運営は、展示、資料管理の博物館・図書館事業に加え、広報普及や施設の維持管理業務を含む総務全般の事業など多岐にわたります。このうち警備およびビル管理などの維持管理業務、展示設営および工芸など専門スキルを要する業務についてはその一部を外部へ委託しています。
- ・委託先の選定にあたっては、財団経理規程及び県規程等を遵守し、委託額や内容、専門性などに応じて指名競争入札、随意契約などを適切に実施しています。また入札業者等の選定にあたっては、高度な専門性を必要とする業務を除いて、県内に本社または支社があり、環境問題や障がい者雇用などに積極的に取り組む企業を優先的に指名しています。さらに工事等はその規模に応じて、県内の中小企業へ優先的に見積の依頼、発注等を行っています。

①「展示業務」について

- (1)会場設営、資料の運搬、額装、美術品の輸送、展示飾り付けなど学芸以外の業務や、立体物の撮影など専門的な技術を要する作業は外部へ委託しています。

②「資料管理の電算業務」について

- (1)館内外のネットワークやデータベース、アーカイブなどの日常的な管理はスキルを持ち、経験を積んだ職員が対応しています。なお、電算システムおよびネットワークの構築と保守、サイト管理やセキュリティ対策などの専門的なIT技術を必要とする業務については外部へ委託しています。

③「広報業務」について

- (1)展覧会ポスターの駅貼り、車内掲出などについては、広告代理店へ作業を委託しています。
- (2)イベントなどのチケットが入手し易いようにローソンチケットと提携し、ネット予約やコンビニ店頭での委託販売を行っています。

④「施設維持管理業務」について

- (1)来館者に安心・安全な環境を提供するため、保守管理、法令点検、電気工事などの専門業務は各種法規、政令、条例、または電気設備、ビル管理、防災など業務ごとの規則に従って外部業者へ委託し、経験豊富な技術者を常駐させています。
- (2)時間外の配備が必要な警備や清掃業務、または日常の受付業務などを円滑に実施するため専門業者へ委託しています。

当財団は施設運営の根幹業務と上記の部門業務を有機的に結びつけ、これからもバランスのとれた運営に努めます。

I サービスの向上について

I-2 施設及び設備の維持管理について

■ I-2(1)施設及び設備の維持管理業務についての実施方針

施設等維持管理に関する基本実施方針

- * 文学館の設置目的の実現に向け、職員と委託業者が一丸となって取り組んでいます。
- * 開放型公園に設置され、公共性の高い県有施設であることを従業員全員が認識しています。
- * 利用者にとって最適な環境を維持しつつ、効率的な運営によって節電や経費節減が実現できるように努めていきます。

上記を踏まえ、委託業者に対し、文学館に求められる以下のような高い意識を持つよう指導しています。

■清掃等に求められていること

- ◇ 来館者に快適に過ごしていただけるよう衛生面の管理や安全性に配慮します。
- ◇ 公園設置者（横浜市）と協力し、周辺環境の整備や公園の美観、安全性の確保に努力しています。
- ◇ 除草や中低木の剪定・整備を行い、館周辺の設備や環境の保全に努めていきます。

■文学館の設備管理に求められていること

- ◇ 文学館事業にとって施設や設備を常に良好な状態に保つことは重要な問題です。資料の保存環境を整備し、来館者に快適な環境を提供することが求められています。これらの実現に努力すると同時に経費を縮減し、効率的運用を図り、環境に配慮しつつ施設運用を行っていきます。

□財団に求められる課題

- ・ 収蔵庫及び施設全体の温湿度コントロールに最大限配慮をした運用に努めること。
- ・ 経費節減に努めるため、温湿度のバランスを効率的に調整できるよう日々の管理を重視すること。
- ・ 施設と設備の特性を充分理解し、ビル管理者や専門業者と技術的なコミュニケーションをとりながら課題を解決するほか、重大事項は所管課とも協力して最良の対策を練ること。
- ・ 文学館の施設や設備、館周辺の管理区域での事故を未然に防ぐこと。
- ・ 老朽化した施設や設備の延命措置や取替など具体的な措置を図ること。
- ・ 危機管理（停電、火災、地震、台風等による被害への対応と復旧など）のための体制を整えること。

□設備点検対象・内容の精査

各業務ごとに詳細な業務仕様書を整備し、効率的かつ効果的な運営を継続します。

□建物や設備に不具合が生じた場合の対応

機器や設備に不具合が起きた場合でも、来館者及び文学館事業に悪影響を与えないよう最大限配慮して管理を行います。

(1)問題が発生した時には

- ・ 現状を調査し、原因や問題点を洗い出して対応策を速やかに検討します。

(2)工事の実施時には

- ・ 仕様書等の立案と作成
- ・ 工事实施中の状況を把握し、問題点の明確化とその解決方法を検討
- ・ 改修・補修工事・委託作業の工程案の作成・日程の調整、若しくは所管課との交渉
- ・ 所管課に企画提案書を提出して交渉（小破修繕を超える内容や重要度の高い事項）
- ・ 工事後の評価、関連設備を含めた調査と検討、再発防止策の実施

I サービスの向上について

□建物の把握と施設管理上の工夫

設備の経年劣化や収蔵資料数の増加などによる内部環境の変化に対応するため、各室の温湿度変化のデータを蓄積してビル管理業者と検討を行い、機器の運用に工夫をこらすことで安全性と効率性を向上させてきました。また、県各所営繕工事での展示ケース照明LED化に加え、複数年かけて全室照明のLED化を進捗させており、電力量の低減、経費節減等に大きな効果を発揮しています。なお、部品供給期限を過ぎ老朽化の懸念されるエレベータ設備3基については、県営繕工事での円滑な更新にむけ、第4期指定管理でも引き続き現場情報の共有を行います。

□職員による電算機器の管理

館内電算システム及びネットワーク全体の管理とセキュリティー監視、端末の設定などは、職員が保守委託業者と協力しながら行っています。これまで職員が専門業者とともに蔵書管理システムを構築し、その使い勝手を向上させてきましたが、今後も継続していきます。

□蓄積したノウハウの活用

財団は文学館施設の設計段階から参画しており、これまで38年間に蓄積された豊富なデータとノウハウがあります。これを活用して今後も十全な管理を継続します。また、国内外の諸団体が施設を見学する際には運営方法などの課題について丁寧に回答し、相談に乗っています。

■警備に求められていること

- ◇ 閑静な住宅街に隣接した港の見える丘公園に建つ文学館は、近隣住民の方や一般の公園散策者からも公の施設として責任ある対応
- ◇ 公園内の文学館管理区域や館内における異常事態への迅速で的確な対応のほか、一部の来館者による迷惑行為等に対しても厳正かつ適切な対処
- ◇ 利用者を正確かつ安全に目的地に誘導すること
- ◇ 来館者には礼儀正しく対応し、文学館の関係者に対しては失礼のないよう顔と名前をきちんと認識すること
- ◇ 車椅子利用者や歩行に介助が必要な方の館利用について丁寧かつ親切な対応と誘導

■受付に求められていること

- ◇ 文学館の窓口として利用者の質問や要望に的確に対応すること
- ◇ 開催中の文学展のみならず近代文学についての一定以上の知識
- ◇ 歴史や文化の香りが高い横浜に愛着を持ち、山手周辺に関する豊富な知識を有すること
- ◇ 利用者割合の高い高齢者への丁寧な対応
- ◇ 公共施設利用予約システムの参加施設として適切な対応
- ◇ 要介護者の方や同行の介助者への免除制度の丁寧な説明や親切な対応

当財団には、ビル管理から工事業務まで、各専門分野をとりまとめ、適切にコントロールできる豊富な経験の蓄積があります。

財団がこれまで集積したデータをもとに温湿度管理や施設維持のノウハウを活かし、限られた予算のなかで資料や設備を最良な状態で保持できるように様々な取り組みを実施しています。

I サービスの向上について

開館日及び開館時間の柔軟な設定、申込手続き、窓口対応等、 スムーズな貸館業務実施のための考え方

- * 開館日及び開館時間について利用状況に合わせた柔軟な運用を行っています。
- * 申込手続き及び窓口対応は、親切丁寧を旨に対応しています。
- * 要望に耳を傾け、利用者サービス向上に向けた取組みを行っています。

□開館日及び開館時間の柔軟な設定

文学館条例第9条に基づく休館日（月曜日）と祝日等が重なる場合は、振替なしで開館し、開館日が増えるように努めます。また開館、閉館時間についても条例を遵守しつつ、利用者のニーズに出る限り合わせ、柔軟な対応をとるようにしていきます。

□申込手続き及び窓口対応

①施設利用予約システムの充実

従来どおり県公共施設利用予約システムに参加し、申し込み手続きの簡略化などを進め、利便性の向上を図っていきます。

②予約等への個別対応の継続

同予約システムのルールを遵守しつつ、利用者の立場に合わせた柔軟な対応を行います。ネット予約に不慣れな高齢者には電話等で代行予約を行い、丁寧でわかりやすい対応を行います。生涯学習支援施設として幅広い県民のニーズに応えられるよう努力を継続します。

■ I-2(2)文学資料の保存環境、展示環境の維持管理についての考え方

保存環境及び展示環境に関する基本方針

- * 資料の保存については、文学史上重要であり県民の共有財産でもある貴重な資料を、後世に確実に残すために、その性質に適した保存方法を取り、環境を整備します。
- * 展示環境に関しては観覧者の利便性を確保しつつ資料への負担を最小限に抑えた環境を整えます。

□保存・展示環境について

①環境の保持について

収蔵資料の大部分を占める紙資料の保存について、先行する姉妹館の日本近代文学館から協力を得て、温湿度データ等を蓄積。それを活用して保存のためのノウハウを更新してきました。また、国内最大規模といえる当館の設備を円滑に運用していくため、今後も新技術の吸収等につとめていきます。

②保存に関する委託業務について

良好な保存環境等を維持して行くため、複数の業務について再委託を行います。内容は以下のとおりです。

(1)資料庫等の空調システムについて

資料庫内の良好な環境を一年を通じて保てるように、館全体の空調システムの管理を徹底し、文学館の資料保存の根幹を為す温湿度管理を徹底します。

(2)虫や黴等に対する保存環境の維持に関する業務について

I サービスの向上について

虫や黴による害を収蔵庫内へ持ち込まないため、外部から資料が搬入される際に財団職員が燻蒸を行っており、今後も継続して水際での虫害等の防止を図っていきます。燻蒸システムの保守と安全性の確保、殺虫・殺黴効果の確認、資料保存に関する最新知識の取得、燻蒸・保存技術等の向上を図るため、専門の業者に一部の業務を委託します。また、資料庫内の虫黴等の確認検査については外部の専門業者に委託し、より安全性を高めています。



燻蒸釜 一回の燻蒸で約4000冊の書籍を燻蒸可能。

(3) 軸、絵画等の修復について

収蔵時にすでに傷みの見られる軸、絵画等については、その後の資料活用で状態が悪化しないよう、順次専門業者に処置を委託します。

委託先の選定に際しては、技術力・安全性・信頼性を重視します。

I サービスの向上について

■ I-2(3)施設及び設備の老朽化への計画的な対応についての考え方

施設及び設備の老朽化対応に関する基本方針

- * 築35年を迎えた館施設を末長く健全に維持運営して行く為に、管理委託業者等と緊密に連携を保ちながら予防的な修繕等を実施して行きます。
- * 利用料金収入等の増収益を設備の保全や将来を見据えた予防的修繕に充当し、文学館の長寿命化を一層図ります。

□施設及び設備の老朽化対応について

①老朽化について

文学館は竣工から35年を経過し、エレベータ設備や空調機器等の老朽化が顕著になっています。今後は、施設の構造的な老朽化の影響で、雨漏り等が発生する場合も考えられます。日頃から施設及び設備の状態をよく点検し、予防的な対策をとる必要があります。

また、施設や設備に不測の事態が生じないように日頃から、施設管理会社や県所管課と連携し、共同して十分な備えをしていきます。

②施設の長寿命化に向けて

(1) 県有施設長寿命化指針の遵守

「神奈川県庁舎等施設長寿命化指針」に従い、危険防止、財産価値保全を目的とした適切な維持管理を継続実施していきます。

(2) 設備の予防保全の実施

設備の予防保全の対象をよりきめ細かく洗い出し、早めに適切な措置を実施することで、特定の年度に大規模修理が集中しないよう、ライフサイクルコスト（建築物の建設から運営、維持、解体までのトータルコスト）の縮減と平準化を目指しています。

(3) 将来に備えた予防的修繕の実施

利用料金収入等の増収益を設備の保全と将来に備えた予防的修繕経費に充て、館施設の長寿命化を図ります。

(4) 安全・安心な施設の運営

施設の長寿命化にとって不可欠な県営繕工事等の円滑な実施のため、現場からの視点や蓄積した情報を共有します。利用者の安全を最優先に、老朽化したエレベータ設備等の更新を求めています。

(5) 快適な環境の整備

費用が嵩むため指定管理者だけでは更新が難しい空調機器等の大型設備については、県所管課等との適切な情報の共有により、営繕工事の実施を求め、貴重な所蔵資料の保存環境を最良な状態に整備するとともに、来館者が快適な状態で施設を利用出来るよう心懸けていきます。

I サービスの向上について

I-3 利用促進のための取組、利用者への対応、利用料金について

■ I-3(1)資料の調査・収集・整理に関する業務について

ア 資料収集の方針等

資料収集の具体的な方針

- * 役員や文学館懇話会会員をはじめとする人的ネットワークを通じて寄贈による資料収集を推進します。
- * 収蔵スペースの有効な利用を図るため、全国文学館協議会、県内公共図書館や大学図書館と連携し、図書、雑誌の副本について共同受贈を進めます。
- * 既存の受贈資料へ追加寄贈をいただくことで、より完璧なコレクションの形成を図っていきます。すべての寄贈者と良好な信頼関係を今後も保っていきます。
- * 今後も大手出版社7社から新刊書を受贈（年間約1,800冊）し、蔵書を充実させます。
- * 雑誌の欠号を地道に補充し、バックナンバーの全揃いを目指します。そのために財団では専門の古書業者と永年にわたり信頼関係を培ってきました。
- * 収蔵資料の不完全部分、展示専用の資料などを購入により適切に補充していきます。

1. 寄贈中心の収集を継続

- 著名な文学者を理事、評議員、懇話会員に擁する豊富な人脈
理事・評議員など財団役員や作家遺族、編集者、学者、出版社、新聞社などとの緊密な関係のもとに貴重なコレクションの寄贈による収集を継続していきます。また、文学関係者による支援ネットワークである「神奈川近代文学館懇話会」についても新規会員を増やし、協力体制を強化します。
- 寄贈者とのコミュニケーション
寄贈の申込みを受けた場合は必ず下見と交渉を行い、蔵書内容を確認したうえで受贈を決めます。重複資料の選別などの方針を説明し、寄贈者の意向を尊重しながら受贈を進めていきます。
- 信頼の継続
寄贈者から財団の管理体制について十分な理解と信頼を得ることで、貴重資料の寄贈が実現しています。二世代にわたり追加の資料受贈が行われたり、他の寄贈者をご紹介いただくなど信頼に基づいて関係が広がっています。また古書店との信頼関係も継続しており、稀覯資料の情報をいち早く得ることができるなど、必要な資料の収集に役立っています。
- 資料に応じて対応
質量ともに大規模な寄贈、または作家の創作活動全域に及ぶ文学資料のコレクション等については、文庫として一括保存しており、稀少書籍が数多く含まれています。また作家の原稿、日記、書簡などの肉筆資料や遺品類はほかに代え難いものです。これらについては、断簡やメモに至るまで慎重に取り扱い、作家の創作活動の全容が判るよう大切に保存しています。
- 寄贈資料の精選
新たな受贈については副本の有無、重要性、利用頻度、保存状態、収集対象、稀少性、館蔵資料とのバランスを十分に見極めてから判断します。限られた収蔵スペースを有効に利用するための工夫を続けていきます。

I サービスの向上について

□ 出版社からの新刊寄贈

公益性の高い文学専門の保存図書館として認知が進み、大手出版社以外からも新刊書を受贈する機会が増え、購入経費の節減にもつながっています。新刊の文学書をほぼ全て寄贈していただいている大手出版社に対しては、館蔵資料を利用する際に便宜をはかることで良好な関係を築いています。

□ 購入による補充

寄贈で形成された収蔵コレクションの不完全な部分を購入によって補い、より完全なコレクションにしていきます。また、展示などに必要な資料や寄贈では補いきれない雑誌の欠号などを的確な購入で補充します。

2. 神奈川ゆかりの作品の充実

明治以降の日本近代文学全般を収集の対象としていますが、特に神奈川ゆかりの作家、作品に関する資料は重点的に集めてきました。資料の必要性、重要度の判別には、職員の経験則が要求されます。

3. 児童文学、大衆文学資料の重点的収集

設立当初より財団では児童文学、大衆文学関連の資料収集に力をいれてきました。その結果双方の分野で多数の寄贈をいただき、全国的にも極めて特色のある貴重なコレクションとなっています。例えば散逸が著しい大衆文学系の雑誌や児童雑誌の蔵書は今後さらに重要な文化的資産になると考えています。今後もこの方針を堅持し、一層の資料充実を図ります。

4. 類似施設との連携強化

手狭になってきた収蔵庫の有効利用も兼ねて重複する図書・雑誌を整理し、県立図書館をはじめとする県内図書館、全国の文学館などへ移管して有効活用を図っていきます。

5. 専門館としての位置付け

肉筆資料類、貴重な図書・雑誌の収集を重点的に行いながら、専門資料館としての性格づけを強め、県内外の図書館、文学館との相互支援、補完機能を強化していきます。

イ 既寄贈者、将来の新たな寄贈者への対応

□ 信頼関係の継続に向け、保存・整理など寄贈資料の管理体制の充実、強化に一層努めるとともに、資料の利用に際しては寄贈者をはじめ関係者の著作権、個人情報保護にも充分配慮します。

□ 質量ともに充実したコレクションは文庫として保存していますが、この資料については寄贈者顕彰のため部数限定の冊子体目録と一般利用に供するデジタル版目録を作成して目録事業を継続していきます。

□ 収蔵スペースが手狭になっていますが、配架方法の工夫やレイアウト変更、収集段階での蔵書内容の吟味、副本等の精査、他館への資料移管などによって収蔵庫内にスペースを確保し、貴重資料の寄贈申込みにいつでも応えられる状況を堅持します。

ウ 資料の整理保存の方針等

□ 文学資料に合わせて独自に作成した分類法・入力規則に従って資料整理を行っています。使いやすだけでなく専門的なニーズにも応えられる文学館独自の検索データベースの充実を引き続き図っていきます。

□ 文学者が生涯をかけて形成したコレクションを多様な研究視点からの利用に対応できるよう整理す

I サービスの向上について

るには、まず資料群の特性を見極めることが必要です。財団ではデータ作成の効率化、迅速化を図ると同時に、文学館ならではの専門的な資料整理も長期的なタイムスパンの中で実施します。

- 原稿、日記、書簡などの肉筆資料については断簡、メモ類に至るまで慎重に取り扱い、作家の創作活動の全容を保存・整理するよう努めます。また肉筆資料を中心とする特別資料は館蔵資料の中核を成すもので、今後も利用の増加が見込まれます。経験に裏打ちされた専門性の高い整理作業を進め、独自のデータベースを構築するとともに、調査を通じて把握した資料内容を機関紙やデジタルコンテンツなどの場でも紹介していきます。
- ここ数年増加しているデジタルデータ原稿についても、収集資料の対象とし、整理、保存、公開について研究を重ねていきます。
- 資料が死蔵されることのないよう閲覧や展覧会等に活用すると同時に、劣化防止のため「利用」と「保存」とのバランスに配慮した運用管理を継続します。
- 資料を良好な状態で後世に伝えるため、収蔵書庫内の温湿度を厳密に管理します。耐震対策として書架の固定や落下防止ネットを設置していますが、東日本大震災発生時にも資料の落下被害は殆ど見られず、引き続きこの対策を強化していきます。
- 黴や虫卵等が資料とともに収蔵庫へ持ち込まれないよう、搬入前に財団職員が清掃と燻蒸を実施します。地球環境保護の観点から全館燻蒸に代わり広く行われるようになったIPM（総合的有害生物管理）を取り入れ、化学薬剤の使用を最小限に抑えながら収蔵庫への害虫等の侵入やカビの発生を未然に防ぎます。
- 中性紙を用いた保存箱やフォルダー、ブックカバーなど装備品の材質にも気を配り、安全性が確認された品質の物だけを採用しています。製造業者と協力して独自に開発し全国の文学館のスタンダード仕様として定着した装備品もあります。今後さらに有効な用品について研究、検討を重ねていきます。
- 「保存」と「利用」、双方の観点から肉筆資料や稀覯雑誌などのデジタル化を推進し、資料データと画像を組み合わせたデジタルアーカイブを構築するなどコンテンツを充実させ、利便性の向上を図ります。デジタルコンテンツのインターネット上での公開にあたっては、画像の不正な二次使用による著作権侵害等を防ぐため、複数のセキュリティ対策を組み合わせ実施します。



公開中の館蔵資料デジタルアーカイブ「夏目漱石デジタル文学館（Web版）」のオープニング画面

I サービスの向上について

- 展示の利用頻度が高い資料については劣化を防ぐために業者と連携して、引き続き複製を製作します。
- 蔵書には一般の図書館では所蔵していない稀覯図書・雑誌も数多く含まれます。財団では図書、雑誌もすべて原形のまま（図書のカバーやオビも廃棄することなく）恒久的に保存していくことを第一義に取り組んできました。これは一般の公共図書館はもとより国立国会図書館でもなされていない保存方法です。装幀デザインを含め出版文化を正しく後世に伝えるため、今後もこの根幹的な業務をより充実させていきます。
- 既存寄贈資料の評価方法とスケジュールについては以下のとおり計画しています。
 - （評価方法と方針）
 - ・出版社寄贈の新刊書及び備品外の図書と雑誌は定価を評価額とし、一般的な古書については刊行年等を参考にランク分けを行い、一律に評価を行います。また、高額（50万円以上）の古書及び肉筆資料は選別準備の期間を設けて市場取引価格を参照しながら資料個々に評価を実施します。
 - ・資料の評価及び評価額等の情報は慎重に取り扱います。
 - ・一旦定めた評価額であっても市場価格の大幅な変動等により評価額変更の必要が生じた場合には、適宜見直しを行う予定です。
 - （スケジュール）
 - ・既存の寄贈資料（約100万点）の評価は手順が整い易いものから順次着手し、概ね10年を目途に、年間あたり10万点程度を目安に遡及評価を行います。
 - ・肉筆資料など一部の貴重資料については選別及び鑑定に数年程度の準備期間を設け、場合によっては専門家の意見を求め、慎重かつ正確に評価を行う予定です。
- 職員自ら研鑽を積むとともに各種研修等にも参加し、最新の保存技術・知識の習得に努めます。懸案となっている脱酸処理についても情報を収集し、複数ある処理方法からいずれを採用すべきかなど検討を進めます。

I サービスの向上について

■ I-3(2) 展示・閲覧等に関する業務について

ア 事業の実施方針、内容等

事業実施の基本方針

- * 春と秋の特別展を中心に年間を通じて来館者が得られる魅力的な催事を実施する。
- * 商業ベースでは出来ない当館ならではの企画を実施することで差別化を図る。
- * 幼児から大学生まで世代に合わせた企画内容で教育機関とも連携し、集客を図る。
- * 若年層への浸透を進めるため、文学のジャンルに拘らず、各種メディアを通じて出版社等の民間企業と積極的にコラボレーションを図る。

【事業の実施方針等】

□実施事業について

上掲の基本方針に沿って、第4期指定管理以降も積極的に事業の展開を図って行きます。具体的な特別展の企画としては、近代文学史上で重要な活動をした文学者を中心に配していきます。4期の初年度の春に生誕125年を迎える樋口一葉を予定し、その後は周年を迎える大岡信、川端康成、西脇順三郎、坂口安吾らの個人作家展を各年度に配して集客増を図り、事業運営全体の根幹を安定させます。また、個性的な文学活動により人気のある庄野潤三、橋本治、吉田健一、河野多恵子らの中規模企画展、さらに各年度の夏休み期間に合わせたヨシタケシンスケ、堀内誠一、いぬいとみこなどの児童文学展も計画しています。さらに特別展、企画展の会期中に展示内容と関連した講演会や朗読会、映画会などのイベントを集中的に実施します。春から秋の行楽シーズンに企画を連続することで、展覧会と関連行事双方の相乗効果によって来館者増を図っていく予定です。

なお、令和3年度以降の特別展、企画展等の開催内容については具体的な作家名を挙げて後段に記述してあります。

【数値目標】

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
利用者数 (展示・閲覧・会議室)	60,400人	60,600人	60,800人	61,000人	61,200人
若年層向け行事 (定例イベント) 参加者数	1,120人	1,140人	1,160人	1,180人	1,200人

【設定の考え方】

□利用者数について

展覧会観覧者、(主催行事参加者を含む)ホール・会議室の利用者、閲覧室使用者に対して質の高いサービスを提供できる文化施設である点を積極的に周知し、あらゆる世代を対象とした「開かれた文学館」として利用機会を増やすことで、集客力を高めたいと考えています。

具体的には、来場者アンケートでも女性に圧倒的な人気があり、幅広い世代にファンを持つ樋口一葉の特別展を令和3年春に開催し、従来の読者層に加えて、コミックとのコラボレーションや学校連携などによって若年層にアピールし、集客増を目指す予定です。その後も作家ごとの読者層に合わせた周知活動などによって利用者層の拡大に努め、指定管理期間5年の平均値が前期5年のそれを上回るよう利用者増を実現して行きます。また令和6年には開館40周年の記念として収蔵コレクション展の開催も予定しております。

I サービスの向上について

さらに若年層に文学館への親しみを持ってもらうため、令和元年秋の中島敦展でも若年層の集客に大きな成果を上げたコミックやアニメ、映画など他分野との連携を図り、出版社等とコラボを実施します。さらに県高等学校文化連盟図書専門部との共催による図書館報コンクール、ビブリオバトル、POPコンクールなどを実施し、文学館を拠点とした中・高校生向け行事の充実させることで、若年層集客の取組みをさらに強化し、将来にわたる文学館利用者の育成をはかります。

□若年層向け行事について

児童文学展の開催によって若年層が文学に親しむ機会を増やすと同時に、教育現場で文学館への関心を図るため、中・高等学校等へのパネル巡回文学展を開催していきます。また、小学生を対象に製作した佐藤さとるとコロボックル物語などのパネル展巡回も行って低学年に対する浸透を図っていきます。28年度の没後100年に合わせてリニューアルした夏目漱石展、29年度から新たにラインナップに加わった森鷗外展、30年度製作の与謝野晶子展、令和元年に内容を刷新した中島敦展など人気作家を中心に常に内容を更新し、利用増進を図っています。巡回パネル展はアニメとのコラボレーションもあって学校図書室、文化祭等で人気があります。

a) これまでの実績

1. 高い実績と柔軟な構成員

- 開館から平成30年度末までの35年間に82回の特別展を実施。さらに平成18年度の指定管理制度導入以後は中規模企画展を42回実施しました。中規模展の導入により、夏季の児童文学展、収蔵資料を活かした中堅作家やゆかり作家の紹介展、他の文学館との交流を目的とした共催展などを頻繁に開催しており、バラエティー豊かな展示を年間通じて実施してきました。
- 展示テーマの選択、会場構成、資料の所在調査、出品交渉、借用・返却、飾り付け、解説図録の製作に至るまで全工程を財団職員が行い、資料に関する専門的な知識や文学展のノウハウなどを活かして質の高い展示を提供してきました。近年はデジタル撮影やDTP印刷、画像・動画編集などにも習熟し、解説・写真パネル、キャプション、解説動画なども含めてほぼ全てを職員が製作しています。
- 外部から大量に貴重資料を借用する特別展等が成立する背景には、これまでの実績と文学者で組織した財団に対する作家の遺族、関係者、各種団体からの厚い信頼が力となっており、積極的な出品協力、情報の提供等を受けることができます。
- 企画展のみならず、イベント等の企画・編集力は文学愛好家、研究者、全国の文学館など類似施設からも高い評価を得ています。このため、当財団が企画構成した展覧会の他館への巡回や共催イベントの開催を要請されることが一層多くなって来ています。
- 開館以来、借用資料、展示物、収蔵品等の管理に関して事故はなく、出品者や資料所蔵施設の厚い信頼を獲得しています。
- 類似施設や民間企業など外部組織との連携も毎年増加し、展覧会の共催や企画協力、スタンプラリーやキャンペーンの連携などあらゆる普及活動に対応しています。

2. 幅広いテーマの展開

- 純文学、大衆文学、児童文学、詩歌、評論、エッセイなどジャンルを問わない文学展、美術や演劇、映画など他ジャンルの芸術と融合した企画展を製作してきました。近年は民俗学者・柳田国男の回顧展、「詩人大使ポール・クローデルと日本展」のような外国作家の企画展、館全体を劇場に見立

I サービスの向上について

てた「寺山修司展」など従来とは異なるタイプの文学展を開催し、新たな観客層の獲得を図っています。

□他の類似施設との交流により出品協力を得た企画展、子どもたちを対象に絵本を中心とした児童文学展などをバランスよく開催し、幼児から中高年層まで幅広い年齢層の観覧者増に繋がり、結果として安定した入館者数を得ることができました。

3. 神奈川ゆかりの作品、作家に対する目配りと調査

□横浜、鎌倉など神奈川県を7つの地域に分け、地区ごとにゆかりのある作家や文学作品を紹介した文学散歩展を昭和62年から平成8年にかけてシリーズで開催し、資料や文学関連情報などを収集し、データを蓄積しました。また、その際制作した展覧会図録7冊は、神奈川ゆかりの文学を総覧できる大変利用価値の高い資料となっています。

□常設展(1)「神奈川の風光と文学」では、文学散歩展等で集積した情報をもとに県内を横浜、川崎、県央・県西、三浦・湘南、鎌倉の5地域に分け、ゆかりの作品をジオラマやイメージ演出を用いて立体的に紹介しています。また、常設展(1)は、中島敦、芥川龍之介、夏目漱石らの固定常設があるため、コミックやアニメのファンにとっては「聖地」となっており、常設展を観覧する目的で遠方から来場する方も見受けられます。

□常設展(2)「文学の森へ 神奈川の作家たち」展では、神奈川とのゆかりが深く、同時に文学史上でも重要な作家36人をとりあげ、その人生と代表作の魅力を紹介しています。明治から現代までを関東大震災と敗戦で区切って3部門に構成し、特別展以外の時期に部門単位で展覧しています。

□今後も「神奈川の文学」の紹介を軸に、新しい研究成果を反映し、また新収蔵資料を差し替えるなど常設展の更なる充実をめざします。また、企画展でも作家と神奈川の関係にスポットをあてたコーナーを設け、解説に神奈川との関係について必ず記述に加えるよう心懸けています。

4. 豊富な収蔵資料の活用

□これまでに開館以来寄贈された、中島敦、広津柳浪・和郎・桃子、吉野秀雄、吉屋信子、大岡昇平、野間宏、井上靖、埴谷雄高、堀田善衛、安岡章太郎、中村光夫、荻原井泉水、黒岩重吾、中野孝次などの文庫や夏目漱石、富永太郎、中野重治、福田恆存などのコレクションを活用して個人作家展等を開催しました。所蔵資料に精通した当財団が寄贈資料を活用して作家の顕彰を積極的に行うことで、遺族や関係者から館への寄贈が一層促進されています。また、同時に資料借用料や運送費など開催経費の節減ができたことで、企画展開催数の増加や展示内容の充実に成果を上げています。

□22年度から収蔵コレクション展の予算を増やして企画展へ拡大したことで、遺族・関係者からの借用が可能となり、展示内容がより充実しました。同時に広報宣伝にも費用がかけられるようになり、集客力もアップしています。また、県ゆかりの文学者、寺田透、富士川英郎、角野栄子、花田清輝、獅子文六らの企画展を開催し、当館ならではのユニークな企画として高い評価を得ています。

5. 経費の効率化や増収への取り組み

□春から秋にかけて特別展や企画展を連続して開催し、資料の借用と返却を同じ便で共有し合うことで経費を抑制しました。また、企画展・コレクション展のパネルやキャプションの製作作業を職員が行い、費用を軽減しました。

□夏目漱石展、安岡章太郎展、中島敦展などの所蔵資料を多く活用した特別展を再構成し、資料と展示企画、パネルなどをパック化して他館へ提供し、収入を得ています。

I サービスの向上について

- イベント等の集客を図るため低価格でチラシができるオンデマンド印刷を導入。費用を抑えてフルカラーのチラシを作成し、イベントや展覧会の広報に成果を上げています。また展示会ポスターを県内コンビニ等の掲示板に大量配布する際にもオンデマンド印刷を活用しています。

6. 他の類似施設、団体との連携・協力

- 森鷗外展、正岡子規展、与謝野晶子展、松本清張展では県外の各個人記念館からの全面協力により、資料の出品などで便宜を得られただけでなく、関連行事の開催や広報活動においても大きな支援を得ることができました。
- 県内の施設との連携では、県立博物館を中心に県博物館協会に属する中区・西区の博物館が連携して夏休みのミュージアムミッション（クイズラリー）を実施しており、当館はプレゼント配布を行うなど拠点施設として参画し、集客に成果を上げています。また、夏休みから9月末までの児童文学展開催に合わせて、鎌倉文学館、町田市民文学館ことばらんどなどと共同した文学館スタンプラリーを実施。相鉄線などの協力を得てポスター掲出を行い、親子連れの来館者の増加などで徐々に成果をあげています。令和元年夏のスタンプラリーでは、約600人の親子連れがラリーに参加しました。

b) 特別展・企画展・常設展の今後の構想

さらに多くの来館者を獲得するために、県民の様々なニーズに応じた展示を企画、開催していきます。また観覧者からの要求にも対応する双方向の企画立案をこころがけます。

■ 集客をめざす展示 ■

① 人気のある作家の個人展を開催します。

- 個人作家展は、テーマ展やジャンル展に比べて一定のファン層があり、多くの来場者が望めます。
- 来場者から開催希望が多く寄せられた場合は、神奈川ゆかりや物故作家などの枠をはずし、話題性のある作家の個人展を開催していきます。また過去に開催し、人気を博した作家も再度取り上げていきます。

(年度)	展覧会名	以下は特別展の候補となっているもの
令和3	(春) 樋口一葉展 (没後125年)、(秋) 茨木のり子展 (没後15年)	
令和4	川端康成展 (没後50年)、大岡信展 (生誕90年)、 橋本治展 (生誕75年/没後3年) などから春秋2回	
令和5	小津安二郎展 (生誕120年/没後60年)、吉田健一展、伊丹十三展 (生誕 90年)	
令和6	西脇順三郎展 (生誕130年)	
令和7	坂口安吾展 (没後70年)、藤沢周平展、辻邦生展 (生誕100年) など	

② 幅広い年齢層を意識した企画を考えます。

- 夏休みに合わせて親子連れを対象とした児童文学の絵画・挿絵展を開催します。
夏休みの集客対象である小学生、中学生、高校生と（親子三代まで含めた）家族を対象に展示とイベントを実施します。絵本や原画を活用して、文学館の展示に親しみやすい演出等を多用します。また、当館ならではの要素も盛り込んだ企画を毎夏開催していきます。

I サービスの向上について



「わたしのワンピース」50周年 西巻茅子展（令和元年夏）では13,421人の親子連れが来場しました。

(年度)	展覧会名
令和3	ささめやゆき展
令和4	堀内誠一展（生誕 90年）
令和5	ヨシタケシンスケ展
令和6	いぬいとみこ展（生誕100年）
令和7	原ゆたか展 など

■ 独創性のある展示 ■

独自のテーマによる企画展を展開していきます。

□特定のテーマやジャンルを扱った総合展は経費や集客の面から企画が難しくなっていますが、館蔵資料を中心に中・小規模なテーマ展を実施し、文学への様々なアプローチを試みます。

展覧会テーマ

- ・作家の書簡、弔辞、筆墨展
- ・挿絵と装幀展
- ・作家の文房具（遺愛品）展
- ・作家の趣味、余技展
- ・近代文学の稀覯本展 など

■ 外に広がる展示 ■

①外部と共同で創る展示を推進していきます。

□他の文学館、個人記念館などと協力して展覧会を企画、編集し経費の効率化を図ります。また制作した展覧会を巡回させ、企画編集による収入を得ることで次の企画への財源確保を図ります。さらに出版社やマスコミ、文学団体など外部組織との共催の今後も行なってレパトリーを拡げる努力を行います。



仏大使館やアンスティチュ・フランセ日本など外部組織との連携、協力等によりP・クロードル展を開催。（平成30年）

I サービスの向上について

②パッケージ展の提供や巡回展（展示協力等）に力を入れます。

- 館蔵資料のみではほぼ構成できる文学展を企画編集し、展示資料と写真・解説パネル、キャプション（データ）等をセットにした「パッケージ展」として全国の文学館、博物館へ提供します。提供で得た収入を財団自主事業の財源に充て、新たな展示パッケージの企画を製作していきます。また、先行する公益財団として、質量共に充実した当館の展示企画を他館へ提供し、展示協力（指導）なども行うことで、国内の文学館の博物館としてのレベル向上を支援します。
- 日本近代文学館と共同でパッケージ化した夏目漱石展のほか、令和元年秋に当館で開催した中島敦展もすでにパッケージ化されており、今後その販売提供に努めるとともに、館蔵資料を中心とした特別展は今後も終了後、パッケージ化して巡回していきます。



富山県立高志の国文学館へ巡回した中島敦展
（令和2年）

③ 学校との連携を強化していきます。

- 当館企画展を再構成したパネル文学展の学校への無償提供により、総合学習、調べ学習等へ協力して、小・中・高等学校の教員または司書教諭など教育現場に携わる方々とも連携していきます。また現場との連携を深めるために毎年度文学館活用研修会や県総合学習センターとの共催研修会を当館で開催し、当館が学校側へ提供できる教材やサービス等への要望を聞き、具体的なプランを提案していきます。
- 過去に開催した展覧会で製作した解説・写真・地図パネルなどの提供、または学校から要望がある当館製作の作家展の解説ビデオなど貸し出しにも応じています。

■ 神奈川近代文学館ならではの展示 ■

所蔵資料をフルに活用し、文学愛好家を引きつける作家の個人展を開催します。

- 館蔵資料を多く展示することで借用経費の節減を図ると同時に寄贈者への顕彰を行うことができます。また展示公開することで館蔵資料についての研究を促し、館蔵資料の活用率を伸ばすこととなります。
- 所蔵資料の内容を熟知することで実現できるのが収蔵コレクション展です。また、資料課によるデータ入力の結果を展示に活かし、館全体の業務を連携させて活性化します。
- 館蔵資料で構成された展示はパッケージ化しやすく、他館へ巡回展を行うことで当館の知名度向上を図ることができます。すでに夏目漱石をはじめ、安岡章太郎、中島敦などがパッケージ化されて巡回されています。

（年度）	展覧会名
令和3	庄野潤三展（生誕100年）
令和4	清岡卓行展（生誕100年）
令和5	吉田健一展
令和6	河野多恵子展

I サービスの向上について

■ 展示のさらなる演出 ■

① 来館者への展示説明を充実させていきます。

□特別展では毎週、企画展では隔週で来場者向けのギャラリートークを開催しています。また、教育機関などによる団体見学の際も展示への理解を深めてもらえるよう、担当者が解説する展示説明会を行います。

② 内容の濃い展示図録を刊行します。

□特別展の手引き、総覧として、また研究のための基礎文献として図録を製作していきます。当財団は主催する全ての特別展で図録や解説リーフレットを製作してきた実績があります。また、中・小規模の企画展の開催時には、来場者全員へ無償で解説リーフレットを配布しています。

③ コーナー展示、スポット展示、ワークシート配布などをさらに工夫していきます。

□コラボレーション等による印象的なスポット展示を活用し、展示コンセプトを深く理解して貰う一助としています。またコーナー展示によって新鮮な視点を提供することで、来場者の読書意欲を増進させることも工夫しています。さらにワークシートについても、展示内容の理解に役立つと好評を得ており、各展示毎に配布を行っています。

④ 動画を用いた展示、空間演出など展示手法をさらに工夫していきます。

□モニター、プロジェクター等を会場内に配置し、動画を組み込んだ展示など技術革新による新たな手法を積極的に取り入れることで演出力を高めます。

□バナーや3Dオブジェなどを用いた空間演出による展示を活用し、来場者を飽きさせない工夫をしていきます。

□文学館の外壁や柱で展示演出をしたり、港の見える丘公園内にオブジェを設置するなど館外も展示空間として視野に入れていきます。



「寺山修司展」で館外円柱部分を利用した演出展示（平成30年秋）

⑤ バリアフリー化への十分な配慮を行います。

□解説パネルやキャプションの文字サイズを出来る限り大きくし、高齢者や視力の弱い方にも読みやすいように配慮をすることで文学展のバリアフリー化を促進します。また、解説パネルやキャプションの文字を大きくし、高齢者にも読みやすいように配慮をすることでバリアフリー化を促進します。

I サービスの向上について

【参考】

上記で提案した今後5年間の展示候補

令和3年度 (2021)	特別展	樋口一葉展 (没後125年)、 茨木のり子展 (没後15年)
	企画展	庄野潤三展 (生誕100年)、 ささめやゆき展
令和4年度 (2022)	特別展	川端康成展 (没後50年)、大岡信展 (没後5年)、 橋本治展 (生誕75年/没後3年) などから春秋2回
	企画展	清岡卓行展 (生誕100年)、堀内誠一展 (生誕 90年) など
令和5年度 (2023)	特別展	小津安二郎展 (生誕120年/没後60年)、吉田健一展など春秋2回
	企画展	伊丹十三展 (生誕 90年)、ヨシタケシンスケ展 など
令和6年度 (2024)	特別展	西脇順三郎展 (生誕130年)、開館40周年記念展など春秋2回
	企画展	河野多恵子展、いぬいとみこ展 (生誕100年)
令和7年度 (2025)	特別展	坂口安吾展 (没後70年)、藤沢周平展など春秋2回
	企画展	金子光晴展 (生誕130年/没後50年)、辻邦生展 (生誕100年)、 原ゆたか展 などから2回程度

I サービスの向上について

イ 広報・PR活動の内容等

広報・PR活動の基本方針

- * 広報・PR活動による文学館事業の発信に力を入れています。
- * マスコミとの連携による広報活動に努めています。
- * 館周辺地区での周知活動を積極的に展開しています。
- * インターネットを利用した予約システム等の充実を目指しています。
- * 広報手段の多様化を積極的に行っています。
- * 教育機関との共催等による広報連携を継続します。

□広報業務、交通広告等の継続

県内主要私鉄各社の協力を得て、おもに特別展の広報を中心にポスター駅貼りなどを無償または低コストで実施しています。東急電鉄、横浜高速鉄道（みなとみらい線）では全駅へのポスター、チラシ等の掲出、配架を無償または低価格で行い、京急と相鉄では実費程度で駅貼り、車内吊りのポスターなどを掲出しています。合わせて東急線では特別展期間に車内ポスターを有償で掲出。東急の車両が副都心線、西武線、東武東上線に乗り入れるため、都内から埼玉県まで幅広く広報が行われ、県外からも多くの観覧者を迎えることが出来ています。

また、平成28年から県内公共施設としてはいち早く展覧会入場料のSuicaやPasmoのカードによる決済を導入しました。関東圏JR全駅で配布されるSuica利用ガイドブック約30万冊に夏目漱石展、正岡子規展の案内広告が無償で掲載されるなど、効果的な交通広告を展開しています。今後もこの路線を継続していきます。

□マスコミ等への対応の充実

展覧会情報のマスコミへのリリース、職員による記事執筆等により広報活動を行い、関東圏を中心に全国への周知を徹底しています。県政記者クラブを介して各新聞社へ働きかけるほか、近年は職員が出演、解説してNHK横浜のFM朗読番組の公開録音を当館で行い、特別展の紹介を行っています。また、読売、朝日、毎日など各紙に展覧会の有料広告を掲載するほか、毎日、東京、中日、神奈川など各新聞の協力を得て、展覧会の記事広告を兼ねた招待券の読者プレゼントを行なっています。

□県所管課と協力したマグカル事業広報に参加

おもな主催事業を県の広報誌「マグカル・カレンダー」に掲出し、関東及び中部地方の主要な公共施設で配布を行うほか、マグカルサイトへの記事の掲出、県が主導するカナちゃんTVの動画による広報活動へも積極的に協力していきます。

□館周辺地区での周知活動

①周辺地区での周知活動の充実

館周辺地区での周知活動としては、みなとみらい線各駅でのポスター掲示、チラシ配布など駅改札付近での恒常的な広報活動をより強化しました。平成29年からは横浜高速鉄道（みなとみらい線）の後援を得て、有償の広告掲出以外に無償で横浜駅等でのポスター駅貼り協力も受けており、今後も横浜市内での周知活動を一層充実させていきます。

I サービスの向上について

②元町・中華街駅及びアメリカ山公園内の掲示版等の設置

元町・中華街駅の駅ビルと屋上公園を管理するアメリカ山公園パートナーズ（西武造園）とビル内にある保育園に協力を要請し、ビルの掲示版や保育園の入口等に展覧会や行事のチラシを掲示しています。また、横浜市環境創造局が設置したアメリカ山公園及び港の見える丘公園内の各案内板に県所管課の協力で当館の表示が常時掲示されています。さらに丘公園内の要所要所に大佛次郎記念館と共同で道案内を兼ねた掲示版を設置しており、来場者の誘導に役立っています。

また、近年は横浜市の協力により、丘公園内掲示版に企画展のポスターが常時掲出されています。

□インターネット、コンビニエンスストアを利用した予約等の充実

ネット環境の整備が進み、ITの利便性が浸透している現況を踏まえ、ローソンなどコンビニエンスストアのサイトを介したネット予約システム及び販売網の活用を促進しています。将来的にはネット予約と電子決済双方への対応を推進していきたいと考えています。

□広報手段の多様化

神奈川芸術プレス、マグカルカレンダー、横浜市のアートナビ、かながわマリオンなどの広報誌等に積極的に働きかけて展示や関連行事の紹介を行って貰うほか、ラジオ、テレビ、ミニコミ誌などへも広報を積極的に働きかけていきます。

□教育機関との連携

県教育委員会、横浜市教育委員会の協力を得て、市内の公立小・中学校全校の全生徒へ児童文学展割引ミニチラシを逡送便を使って届けています。毎回チラシ持参の来場者が多数あり、展示情報の周知に役立っています。同時に小中高校へのパネル文学展巡回、高等学校文化連盟との共催事業、県内大学とのイベント共催などを実施し、将来のリピーター育成と若年層の集客強化を図っていきます。

さらに県内の保育園、幼稚園あてに夏の児童展のチラシ送付を積極的に行っています。

ウ 利用者ニーズ・苦情の把握及びその内容の事業等への反映の仕組み等

利用者ニーズ・苦情の把握及び事業等への反映の仕組み

- * 来館者アンケートを常時行い、利用者の意見をリアルタイムに把握しています。
- * 「施設利用満足度調査」を年1回実施して、利用者の実態把握に努めています。
- * 「友の会の集い」を毎年開催し、利用者から生のご意見、要望を直接伺っています。
- * 施設利用に当たっての苦情処理には、利用者の声に真摯に対応しています。
- * トラブル発生時は、まず担当者が初動対応を行い、状況を把握したのち速やかに責任者に報告したうえで対応マニュアルに従い、処置にあたります。

【利用者ニーズ・苦情の把握】

□「来館者アンケート」等による利用者ニーズの把握

年間を通じて行う展示来場者アンケートの統計結果をもとに催事に対する利用者の要望を把握し、各世代のニーズに合わせた展覧会、講演会等の行事を立案するよう心懸けています。例えば展覧会を希望する作家もアンケート結果をもとにスタッフ、担当部署、事務局会議、役員会等で検討、審査を行い、次年度以降の企画展等の計画を練っています。

なお、指定管理導入後の展覧会、行事等に関する評価アンケートでは肯定的意見が8割以上を占めています（平成31/令和元年度実績）。

①好意的な意見

I サービスの向上について

- (1) 清張は最も好きな作家です。福岡の記念館のことは知っていますが、遠方なので諦めていました。今回こちらで特別展が開催されて嬉しいです。(松本清張展)
 - (2) 文豪ストレイドッグスのコラボで来館。中島敦の展示は何度か行きましたが、当館ほどわかりやすく、量が多い展示はありません。人となりがよくわかり、本人のファンにもなりました。(中島敦展)
 - (3) 今回の展示は本当に沢山の作品原画が飾られ、家族について触れられていてとても良かったです。はるばる来て良かったです。(「わたしのワンピース」西巻茅子展)
- ②工夫を求める意見等
- (1) 展示会場でのワークシートは理解を深めるのに役立つと思うが、夢中になりすぎて他の方への配慮がなくなる参加者が見られる。(中島敦展)
→ワークシート参加者には会場内で静粛にするよう注意書きを追加しました。
 - (2) エントランスのモニターの音声が展示会場までに聞こえる。改善してほしいと思います。
→会場内に聞こえないよう音量を調節しました。将来的には音漏れの少ない指向性の高いスピーカーへと改修の予定です。
 - (3) 入館するまでの経路の汚れが気になりました。
→館周辺や来場者の通路の清掃や落葉の除去を徹底しました。また雨の日に滑りやすい路面の苔を高圧洗浄と薬品洗浄により除去しました。
 - (4) 展示内容が豊富で、もう少し途中で休息エリアが欲しかった。
→展示会場内のソファの数を増やし、休憩できる場所を提供しました。

□「施設利用満足度調査」について

「来館者アンケート」に加え、非来館者からの意見集計を目的としたHP上で「Webアンケート」を実施しています。同アンケートは文学館に来館した経験のない方からも参考意見を得ることができ、活用しています。

Webアンケートで集められた意見

- (1) 文豪ストレイドッグスとのコラボレーションで、それまで馴染みの薄かった文学の面白さに気付き、今では文豪の記念館や講演会に足を運び、読書や文学の楽しさに気付くことができました。
→今後も適宜他ジャンルとのコラボによる企画を行っていきます。周辺類似施設や横浜市観光局等との連携を行ってキャンペーン等も継続する予定です。
- (2) 東急線に展示会のポスターが掲出されていて情報を得やすい。(柳田國男展)
→県内各私鉄の協力を得て、東急線全駅に全ての企画展のポスター掲示とチラシを配架。みなとみらい線も全駅無償でポスター掲出。特別展の際はこれに加え、相鉄線全駅及び車内と京急線主要25駅に少額の負担でポスターを掲出していただいています。(更に特別展は有償で車内吊りや駅貼りのポスターも掲出。)
- (3) 企画展で扱う作家の著書を沢山販売して貰えると有難い。読書意欲が高まっている時にその場で購入できるから嬉しい。(寺山修司展ほか)
→入手可能な著書や関連書籍を多数揃えて、ミュージアムショップで販売しています。展示によっては20種類近い書籍を販売するほか、関連するグッズ等も用意し、来場者が文学に親しむ機会の増大を図っています。
- (4) 展示は素晴らしいが、展示物の撮影が禁止されていて残念。(松本清張展、寺山修司展ほか)
→展示物については著作権や所有権の関係上、法律的に資料類の撮影が原則不可であることを説明し、理解を得ています。また、記念撮影用エリアの設置や撮影が自由にできるディスプレイ等を置くことで、来場者の希望に対して配慮をしています。

□「友の会の集い」について

毎年度1回会員を集めて「友の会の集い」を開催し、事業の説明と同時に会員からの要望や意見を聴取し、事業運営に反映しています。日頃から文学館に親しみ、行事に積極的に参加している会員

I サービスの向上について

ならではの具体的な意見は事業活動の活性化に役立っています。

□「苦情処理」について

寄せられた要望、苦情に対しては即座に検討して対処しています。

苦情内容に対して……

(1) トイレを洋式便器にして貰いたい。

→ 県各所営繕工事（バリアフリー化工事）により洋式便器への交換を実施。

(2) 会場内で観覧者による私語が多すぎる。注意して欲しい。

→ 受付の交代時などに会場内の巡回を実施。職員も随時見廻りを行いました。

(3) 展覧会の会場内で記念写真を撮影したい。

→ 各展覧会の実状に合わせて会場入口部分に記念撮影スポットを設置し、要望に応えています。また、平成30年秋に開催した寺山修司展では、出品者の意向で展示室内に飾られた演出用オブジェなどの撮影を許可するエリアを設けました。

□トラブル発生に対して

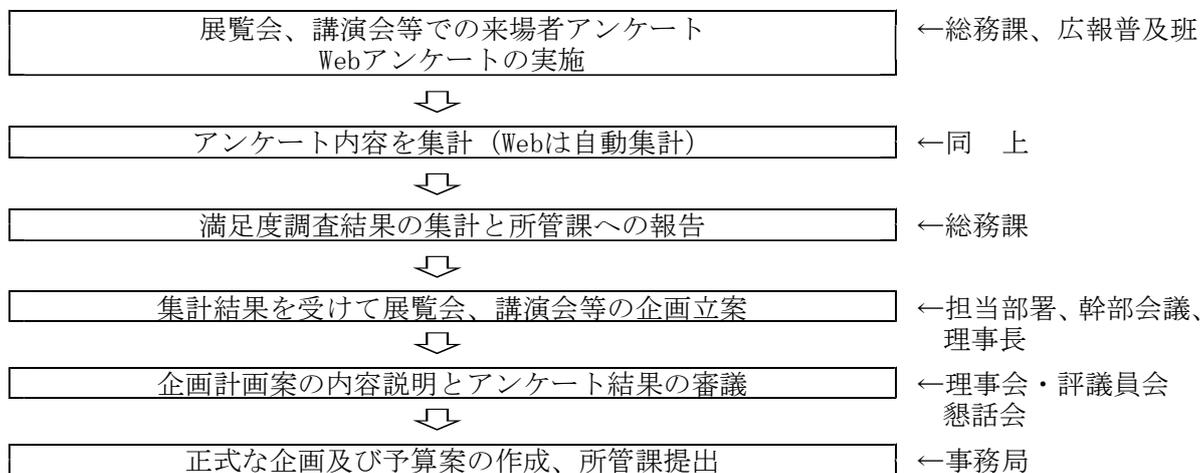
施設運用にあたっては、様々なトラブルが起き得ます。トラブル対策として、当財団は以下の対策を図っています。

- ① 不特定多数が集まる施設を運営するため、指定管理者用にセットされた総合保険に加入しており、個人情報漏洩やネット被害などのIT対象保険、盗難事故補償等にも対応出来ています。
- ② 土日祝のシフト勤務にも対応した防災時の責任体制、指揮系統の確保、自衛消防隊の組織的な運用に努めています。
- ③ 設備の不具合や事故発生時は、速やかに常駐技術員が初動対応を行い、専門性を要する修繕については、専門業者に連絡して迅速な対応を行います。
- ④ 災害や事故が起きた場合は、夜間や休日でも緊急連絡網によって責任者に速やかに報告が行われ、遅滞なく判断して処置ができる体制を備えています。

【事業等への反映の仕組み】

□来館者意見の事業への反映の仕組み

展覧会やイベントに関する来館者アンケートだけでなく、日常の事業活動の中で来館者から提起される様々な意見、または希望などにできる限り沿うことができるよう丁寧に対応しています。



I サービスの向上について

エ 障がい者への配慮(手話言語条例への対応など)

障がい者による文学館の利用促進について

□車椅子による利用及び介助者の減免について

車椅子利用者や歩行に介助を要する方については、貸出し用車椅子の常備や駐車場の利用予約、会場までの経路の誘導案内など利便性を高めています。また、介助者も手帳等の提示により無料で観覧できるよう利用料金減免基準を定めており、利用促進を図っています。

□視覚障がい者による利用の促進

視覚に障がいのある方への配慮として、霧笛橋から繋がる展示室入口までの経路に視覚障がい者用ブロックを設置し、利用者の利便性を高めて利用促進を図っています。

□聴覚障がい者による利用の促進

講演会や一部のイベントでは、県聴覚障がい者福祉センターに協力を依頼し、手話通訳者または要約筆記者を派遣して貰い、聴覚に障がいのある方へのサービスを充実させていきます。

オ 施設の特性を活かすために行う自主事業の内容等

近代文学館の設置目的を達成するために自主的に実施する事業等

□機関紙「神奈川近代文学館」の刊行と配布

機関紙として文学館の多面的な活動を逐次伝えると共に読む楽しさも満たせるような編集を心懸けています。企画展に合わせて著名作家の随筆や県ゆかりの文学者による連載エッセイ、県内文学関連行事や収蔵資料の内容紹介、収集状況の近況報告などを掲載しています。同紙の広報により、文学館事業の周知と文学活動の振興を推進していきます。

□開かれた文学館として親しめるイベントの開催

自主事業により講演会、講座を開催することで、文学の奥行きを実感できる場を提供します。創作や文壇の裏話、知られざるエピソードなどを交えた興味深い講演や、現役作家、評論家、研究者らが作家と作品、テーマについて語る講座が好評を得ています。今後も指定管理事業の講演会等とは一味ちがう独自の視点から講師やテーマを設定していきます。

① 作家や作品の核心に触れる講座

専門的なテーマや文学作品の解釈を著名作家や研究者の講師陣が一般読者にも解りやすく丁寧に解説し、文学の面白さを伝えていきます。

② さまざまなジャンルの講演会・対談の開催

作品朗読や映画上映と対談等を組み合わせた各種イベント、他館や各種文芸団体、教育機関と連携した講演会やフォーラムなど展示企画に合わせたさまざまな催しを行っていきます。また、高校生のための文芸講演会や参加者全員で半歌仙を巻く連句会など参加型イベントも毎年開催していきます。

③ ライブ感のあるイベント

特別展のテーマに合わせて実力派の俳優陣が朗読を行い、好評を得ています。講演会、朗読コンサートなど企画内容も豊富です。令和元年秋の中島敦展では狂言師・野村萬斎氏による朗読と作家・池澤夏樹氏との対談を交えたトークイベントを開催し、好評を博しました。今後もこのような多角的なイベントを展開していきます。

I サービスの向上について

④ バラエティーに富んだイベント

コミックやアニメ、文芸映画など文学との親和性が高い他のジャンルの芸術と連携し、文学に親しめる環境を提供し、文学の裾野を広げる活動を展開していきます。コミックとのコラボレーションによって中国、台湾や韓国などから若年層のファンが当館を訪れており、オリンピック・パラリンピックの期間はインバウンドによる集客が期待されます。

□若年層に対して

15年以上にわたり親子、子ども向けのイベントを「かなぶんキッズクラブ」として展開しています。定番の「子ども映画会」「読み聞かせの会」「紙芝居」などのほか、工作イベントなどを「かなぶんひろば」としてエントランスで開催し、好評を得ています。今後もこのようなイベントを強化、継続していきます。

□蓄積した文学情報の提供

① 県内文学情報に関する出版、または学校や図書館への情報協力

文学展の開催や資料収集によって蓄積した情報やスキルを類似機関や公共図書館、教育機関などへ積極的に提供していきます。また、貴重な所蔵資料については出版公開等に協力し、作家や作品研究の促進を図っていきます。昨今の例では、中島敦の会が製作、刊行した「中島敦『李陵・司馬遷』注解篇」「中島敦の絵はがき—南洋から愛息へ」へ資料提供、編集協力を行いました。

② 展示協力など文学展開催のための支援

学校での巡回パネル展の展示方法や他館での文学展開催における学芸的サポートを行っていきます。実績としては平成29年に「安岡章太郎展」を高知県立文学館へ巡回し、企画及び展示協力、令和2年には「生誕110年 中島敦展」を富山県立高志の国文学館へ巡回した際の企画編集、展示指導、出品協力などを行いました。

□文学への関心や文学館活動への理解を深めるための取組み

① 友の会活動の充実

財団自主事業である友の会活動では、文学館事業への参加を促すため、機関紙と展覧会や最新のイベント情報を年6回程度送付し、文学散歩や講座、「友の会の集い」などを開催しています。友の会講座では専門のテーマを持つ有識者や編集者、朗読家などを講師として招き、文学を楽しく学ぶ機会を今後も提供していきます。

② 支援する会と文学館懇話会によるサポート活動

文学振興に理解ある会社経営者や個人が資金面で財団事業を支援する「文学館を支援する会」、財団の役員、評議員を中心に文学者と有識者で組織する「文学館懇話会」の二つの組織を通じて、幅広く支援を得ることで、文学館活動と文学振興を一層盛り上げていきます。

③ 文学館の事業活動をPRし、国内外へ広めるための活動

資料の保存やセキュリティーに十分な配慮を払いつつ、バックヤード見学や団体見学などを受け入れていきます。また当館視察の海外からの見学者についても対応していきます。近年は文学館建設のための調査で韓国からの見学者が多く、事業活動の説明、準備段階での相談、バックヤード見学などを丁寧に行っています。

□全国文学館協議会との連携

全国の文学館で組織する全国文学館協議会では、姉妹館である日本近代文学館と共に幹事館を務めており、後発の文学館に対してサポートや助言を行うほか、文学館全体の知名度向上、企画会の巡回による支援などを行っています。今後も同協議会の中核として、全国の文学館活動と協調していきます。

I サービスの向上について

□教育機関との連携、実習生やインターンシップの受け入れ

①教育機関や国語教育の現場との連携

国語科教員、学校司書を対象とした文学館活用研修会と県総合教育センターとの共催研修会を毎年開催し、当館の巡回パネル文学展や資料収集保存などの事業について紹介し、バックヤード見学なども実施しています。また、神奈川県高等学校文化連盟図書専門部と共催で図書館報コンクール、ビブリオバトル、POPフェスタなどを毎年当館で開催しています。今後も教育現場とのつながりを強化していきます。

②博物館実習やインターンシップ、社会体験研修の受け入れ

毎年度夏に各大学から希望があった博物館実習生を受け入れるほか、各大学のインターンシップ実習生、高校生の社会体験研修、県内高校、専門学校の教員による社会体験研修などの受け入れを継続していきます。また大学のゼミ等による文学館の活用も働きかけていきます。

③教育現場や公共図書館との協力事業

パネル文学展は中・高等学校や公共図書館等で年間のべ40回程度巡回開催しています。国語授業の補助教材や図書館での生涯学習活動の支援に役立っています。また、貸出先の希望に応じて文学館の利用や所蔵資料についてのガイダンスなどにも対応していきます。

I サービスの向上について

カ 利用料金の設定、減免の考え方

利用料金設定、減免の基本方針

- * 「神奈川県立神奈川近代文学館条例」、「(同) 条例施行規則」、「(同) 利用料金要領」、「(同) 利用料金減免基準」に従い、利用料金の設定を行います。
- * 料金の設定にあたっては、若年層や高齢者層の優遇に配慮します。
- * 利用料金の減免にあたっては、「神奈川県立神奈川近代文学館利用料金減免基準」の各条項に照らして適正と判断される場合に限り、減免を実施します。
- * 中学生以下は無料。また、高校生、大学生については「減免基準」に従い、授業等による展覧会観覧等を料金免除としています。

【利用料金設定の考え方】

◇展覧会観覧料及び会議室使用料の設定について

神奈川近代文学館の観覧料及び使用料の料金設定は、「神奈川県立神奈川近代文学館条例」に定められている料金範囲のなかで、主に以下の状況を踏まえて設定しています。

- ① 利用料金収入（観覧料収入等）による年度内の収支バランスの見通し
- ② 近隣の類似施設や県立文化施設の利用料金の動向
- ③ 類似施設で企画展等がある場合はその利用料金
- ④ 県の施設使用料の状況や物価、消費税額等の動向
- ⑤ 近代文学館の維持運営費の状況
- ⑥ 来場者アンケート等による利用者の意識調査

【展覧会観覧料設定の考え方】

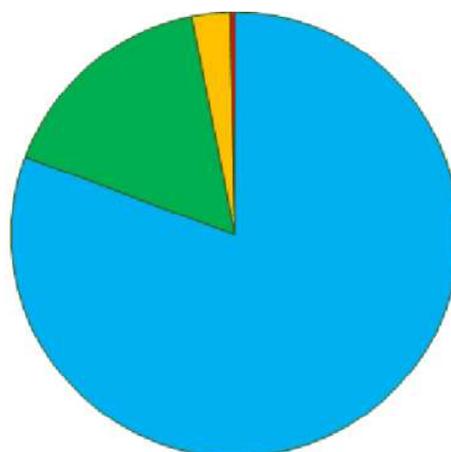
観覧料金の設定にあたっては、公益財団として負う社会的使命を果たすため、観覧者に過度の負担とならないよう充分配慮しています。特別展の一般料金については条例の上限額を遵守するなかで令和元年10月の消費税額改訂に伴い、約20年ぶりに値上げを実施しました。値上げ後の中島敦展で行った観覧者アンケートでは約97%の観覧者が「満足」または「どちらかという満足」と回答しています。また、前項に加えて以下に列記した条件を勘案し、若年層や高齢者層に対する配慮を手厚くしています。

- ① 学生及び若年層に対する教育的配慮
- ② 65歳以上の高齢者に対する負担軽減
- ③ 児童文学展等での子育て世代（親子連れ）に対する負担軽減（減額措置）

* 観覧料金についての満足度グラフ (中島敦展＝新料金)

- = 満足 (80.7%)
- = どちらかという満足 (16.2%)
- = どちらかという不満 (2.8%)
- = 不満足 (0.3%)

(有効回答290件)



I サービスの向上について

【料金減免の考え方】

◇展覧会観覧料の減免

「文学館条例」及び「協定書減免基準」に従い、次に示す条件に当てはまる観覧者、観覧日等は全て観覧料金の免除を行っています。

- ① 学齢に達しない者並びに学校教育法第1条に規定する小学校、中学校、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者
- ② 「文字・活字文化の日」の展覧会観覧者
- ③ 身体障がい者、精神障がい者及び知的障がい者及びその介護者
- ④ 母子家庭の証明を受けている者
- ⑤ 神奈川近代文学館友の会、神奈川近代文学館を支援する会、神奈川近代文学館懇話会の会員
- ⑥ 高校生及び大学生が、授業等の一環として観覧する時
高校生及び大学生が学校行事及び授業等で展覧会を観覧する場合、学校長等から当館館長へ申請を頂くことで引率者も含めて展示観覧料を免除しています。当館サイト上で申請用紙を公開し、多くの学校が利用しています。また、夏の児童文学展では児童同伴による割引特典が記載された学校配布のチラシを持参した方は、同伴者全員に団体料金を適用しています。親子連れの料金負担を軽減することで子育て世代に配慮していきます。

◇会議室使用料の減免

「協定書減免基準」に従い、次に示す条件により、貸し会議室の使用料免除を行っています。

- ① 指定管理者又は県の所管課が文学の振興を目的として、主催又は共催する催事等
使用料免除は原則として当館との共催を行う文学振興のための行事に限定されています。毎年行われる行事としては、県立図書館との共催による子ども読書活動推進フォーラム、または県高等学校文化連盟図書専門部、県内大学との共催イベントなどが挙げられます。各団体の代表者から提出された共催申請をもとに会議室使用料の免除を行っています。

I サービスの向上について

I-4 事故防止等安全管理について

■ I-4(1) 通常時の安全管理について

通常時の安全についての基本方針

- * 常に安全を最優先して、業務にあたっています。
- * 利用者の立場になって考え、各部署毎に取り組んでいます。
- * 組織的・系統的な管理体制を維持し、情報の共有化と職員教育を図っています。
- * 業務についての記録は正確かつ丁寧に行っています。
- * 工事にあたっては、安全管理について常に配慮し、工事業者を指導・監督しています。
- * 「危機管理マニュアル」を作成し、事故・トラブルや自然災害に備えています。

【事故防止対策の実施例】

□資料の盗難・汚損・破損防止

- (1) 鍵の保管・施錠管理、施設入退室管理を徹底しています。
- (2) 経験豊富な職員による指導や取扱いにより、紛失・汚損等の事故を起こさない作業方法と資料に対する安全管理上の高い意識を継承しています。
- (3) 資料の状態に応じた保存用品を整備することで、資料の汚損・破損を防止しています。
- (4) 外注せず職員自らが燻蒸から仕分け、カバー掛け、データ入力、閲覧の対応をしています。
- (5) 貸出先施設の設備面と管理体制、展示期間や展示方法を十分に事前確認をした上で、類似施設等に資料を貸し出しています。
- (6) 資料棚から貴重資料が落下しないよう落下防止ネットを設置しています。
- (7) 移動中にブックトラックから資料が落下しないよう資料室や事務所の出入口の段差を解消しました。
- (8) 館内全ての照明器具のLED化を推進すると同時に、資料に塵が付着しないよう定期的に棚や床の清掃を実施しています。
- (9) 特別資料庫の外扉の鍵を増やし、ナンバーロック式鍵にすることでセキュリティーを一層高めました。
- (10) 展示ケース内の酢酸やアンモニアの残留具合を調査しました。

□利用者に係わる事故防止

- (1) ノンスリップ加工を施した階段や玄関をこまめに清掃しています。
- (2) 床ワックスによる転倒防止のため、適時水モップをかけています。
- (3) 展示ケースや閲覧室の仕切りガラス等に飛散防止フィルムを貼っています。
- (4) 展示パネルやパーティションの軽量化と転倒防止措置に配慮しています。
- (5) 館周辺の経路の落葉清掃を徹底し、路面の苔や汚れを高圧洗浄等により除去しました。

□施設に係わる事故防止

- (1) 委託先ビル管理会社と協力し、管理区域や施設・設備の保守点検、毎日の巡回監視を実施しています。
- (2) 屋内外設備の施錠管理を徹底し、日々の確認を励行しています。
- (3) 安全管理の基準に基づき、業者を適切に指導しています。
- (4) 不審者・不審物を発見した場合や非常時においては、すみやかに警察への通報を行います。
- (5) 指定数量未満の危険物の保安・運用管理を徹底します。
軽油390ℓ (非常用発電機)、酸化プロピレン1.8ℓ (燻蒸用薬剤)

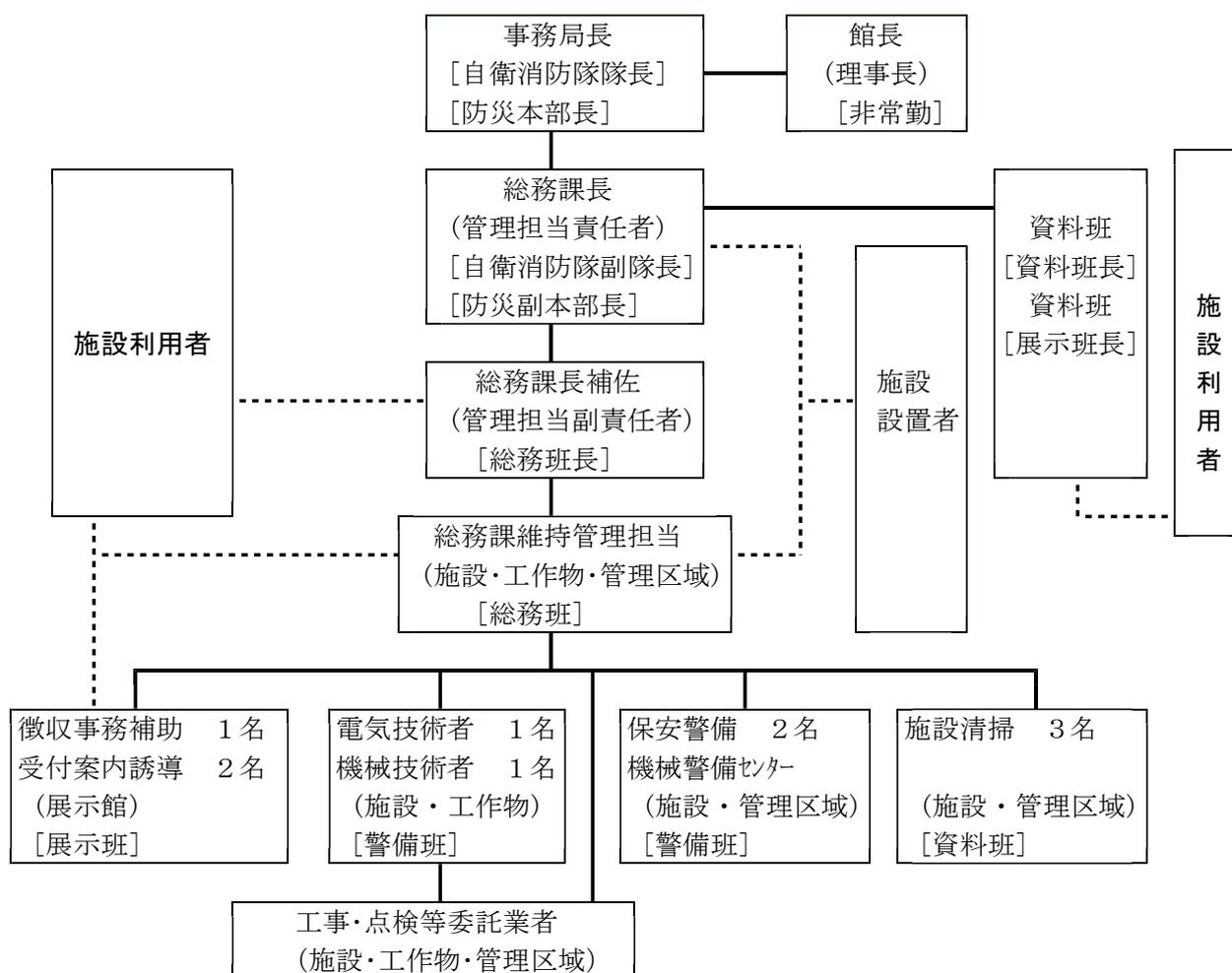
I サービスの向上について

■ I-4(2)緊急時の対応について

【自然災害への備え】

- 地震、火災、台風・大雪などの災害についてそれぞれ防災マニュアルを作成し、職員全員に配布して徹底を図っています。
- 大地震の発生が近い将来に予想されるため、特に地震については「激震発生当日マニュアル」を作成して罹災直後の行動も含めた職員及び施設としての対応について定めています。
- 近年、改めて防災体制の活動内容や役割分担を再編し、課単位で防災活動等を行うことで、正確かつ迅速な対応が可能となるよう組織体制を改めました。
- 各マニュアルに定めた防災組織は本部長・副本部長、総務班、展示班、資料班に分け、各班に連絡・通信、避難誘導、安全・点検、救護担当を置き、職員全員がいずれかに属し、非常時に備えています。
- 防災訓練を法定実施回数（年2回）を上回る頻度で実施し、職員の防災意識を高めています。

【業務遂行体制及び緊急時の体制】



- 非常時の権限委譲順位を定めています。（事務局長→総務課長→総務課長補佐）
- 夜間や休館日における緊急事態には直近の職員が当面の指揮権を代行します。
- 施設内異常警報発報→機械警備監視センター→総務課職員→必要な措置。

I サービスの向上について

I-5 地域・教育と連携した魅力ある施設づくりと地元企業への業務委託等について

地域・教育と連携した施設づくりと地元企業への委託等の方針等

① 地域との連携

- ◇文学館のある横浜・山手地区の類似施設、横浜みどりの協会とその管理下にある各洋館と連携し、冬季の山手芸術祭などを共同開催によって山手地区への集客を図ります。さらに、文学館を支援する会などによる広報協力を得て、元町商店街、横浜中華街での観光客や買い物客への周知を図ります。
- ◇県立歴史博物館、横浜開港資料館、新聞博物館、人形の家など中区、西区の博物館と連携してミュージアムミッション（ラリー）やバックヤード見学ツアー等を実施し、集客を図ります。
- ◇県博物館協会、県図書館協会と連携し、より地域に密接した共同事業の可能性を探ります。県図書館協会では専門図書館の部門に属しており、同協会加盟の専門性の高い図書館や大学図書館等と連携を継続していきます。

② 学校教育との連携等

- ◇県内小・中、高校の学校図書室へパネル文学展を巡回し、生徒の読書活動の推進に協力します。学校司書と国語科教員の協力に得て、パネル展を国語の授業のサブ教材として活用して貰うことで、授業内容の理解度を上げることに貢献しています。これまでパネル展を提供した学校では、文化祭や学校説明会でパネル展を開催し、PTAや地域住民向けに展示を行った例もあり、学校と地域の連携にも貢献しています。
- ◇国語科教員や学校司書を対象に文学館活用研修会を開催し、当館の施設や事業について理解を深めていただくことで、展覧会への集客やパネル文学展の授業での活用を促していきます。
- ◇県立総合教育センターと連携し、教員や学校司書を対象にした夏の研修会を共催し、当館の利用促進を図ります。
- ◇県高等学校文化連盟図書専門部と連携し、多様な共催イベントを当館で開くことで、高校生に文学館の事業を知っていただき、利用を促進します。
- ◇夏休み期間中に県内外の大学から学芸員課程の実習生を受け入れるほか、国内の大学からの学芸員課程の施設見学も積極的に受け入れていきます。
- ◇横浜国立大学大学院のゼミ生と意見交換の場を設定し、若い世代の視点を運営に生かしていきます。教育の視点からの文学館活用の可能性を探ります。
- ◇県内の中学、高校と連携して教員の定期的な研修（初任者研修、5年経験者研修など）に協力し、教員の文学館への理解を深めていただき、生徒の集客を促進していきます。
- ◇各大学のオリエンテーション等への協力、フェリス学院大学など県内大学と共催した朗読イベントなどを開催し、学生の文学館活動への理解を深め、集客を図ります。

③ 地元企業への業務委託の方針

- ◇県内事業者の育成に協力するため、当館事業に関わる委託業務の大半を地元企業に発注しています。
- ◇高度な専門性が求められる特殊な業務を除き、県内に本社または支社がある中小企業へ優先的に見積の依頼、発注等を行います。また、入札等の業者選定に関しては環境問題や障がい者雇用などに積極的に取り組む県内の優良企業を優先して指名を行います。

Ⅱ 管理経費の節減

Ⅱ－1 節減努力について

県が提示する節減目標を上回る電気料金の抑制、館内照明器具の全面LED化、DTPの活用によるデザイン料や印刷費の節減、オンデマンド印刷の導入による経費縮減など各業務ごとに支出を抑える努力を今後も継続し、限られた予算で最大限の成果をあげられるように事業運営を進めていきます。

経費節減によって生じる予算残額を建物や設備の老朽化に対する予防的な修繕等に充てており、結果的に施設の長寿命化及び大規模修繕費の軽減に貢献しています。なお、指定管理導入以降の13年間に当財団が施設などのメンテナンスに費やした経費の総額は約1億4千万円にのぼります。

【節減努力に関するアピールポイント】

□公益法人としての節減努力

当財団は公益法人として事業収益の増収分を全て文学館及びその事業を維持運営するための経費に充てています。指定管理者が営利企業であれば、内部留保の可能性が高い増収益を全額維持費や事業費などの自館公益事業に補正支出しています。県にとっては今後予想される多額の修繕費や施設維持経費を財団が将来を見越して予防的に実施しています。こうした予見的な措置は、館設備の長寿命化にも役立ち、同時に緊急工事や大規模修繕などによる県費支出の負担を軽減するなど、直接は目に見えないながら大幅なコストカットの実現に貢献しているものと自負します。

□各機関・団体からの経済的支援

新刊図書の収集については、大手出版社7社から新刊書の寄贈（年間約1,800冊）を得ています。また、財団発足当初から長年にわたり、文学資料の保存や扱いについて関係者の信頼を勝ち得てきたことで、寄贈中心の資料収集が実現しているといえます。

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

Ⅲ-1 人的な能力、執行体制について

■Ⅲ-1(1)執行体制及び委託業務のチェック体制について

ア 法人としての専門性の状況

□執行体制と諮問機関

執行機関として文学者を中心に構成される理事会が、専門家兼経営者としての立場から文学館の施設及び特性にあった組織と事業運営の方針を決定し、事務局がそれに従って事業を実施しています。同じく各ジャンルの文学者、有識者等で構成される監督・諮問機関の評議員会が事業の専門性や理事の業務執行内容を審査し、適正な運営が行われているかをチェックしています。同時に、アンケートなどを用いて一般利用者から要望や意見を事務局が集約し、事業内容について理事会（及び評議員会）へ提案を行い、その公益性や意義を充分検討して事業に反映させています。このほか、直接の執行、諮問に係わる機関ではありませんが、現旧役員や評議員など県内ゆかりの文学者、有識者で構成された支援組織「神奈川近代文学館懇話会」を事業のチェック機関として有しており、業務内容への専門家としての意見、法人運営の将来的な方向性の確認、講師出講などによる事業支援、旧財団が培ってきたネットワークの維持など多くの面で協力を得ています。（同懇話会の人員体制は現在約80人程度）

□事務局の構成

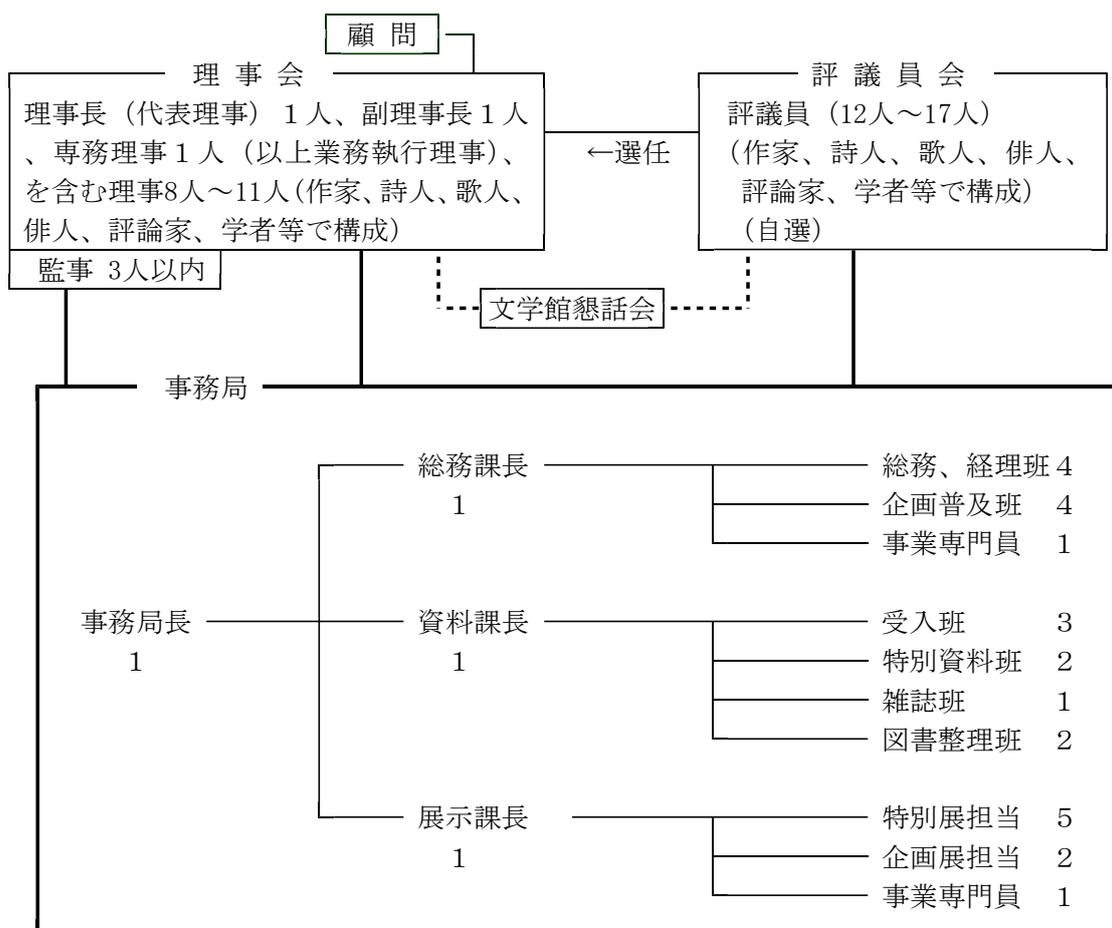
業務を執行する事務局は、開館前の準備室段階から35年以上にわたって文学館運営を推進してきた多様なスキルを持つ経験豊富なスタッフで構成されており、多角的な事業内容を連動させて実施しています。まず、事業部門は学芸業務中心の展示課と、主に図書館、資料館業務を行う資料課に大別されます。当財団は学芸員有資格者12名、司書有資格者12名（重複所有者4名）を有しており、各々の業務において高い専門性を維持できています。また、文学館業務は一般的な資格だけでは扱いきれない博物館、図書館双方の要素が含まれ、実務経験により習得される部分が多いため、年間を通じた文学資料の受贈や収蔵資料を中心とした展示活動、広報普及活動など各業務間で緊密な連携を図っています。さらに、資料課の館外貸出し担当者は、後発館の資料保存や展示業務への助言、指導という役割も担っています。また、総務部門は統括管理と企画普及の二つ業務を兼務しており、保存環境の維持に対する見識が要求されるなどすべての業務において文学および資料保存への高い意識が必要とされます。職員が一つの業務に精通するだけでなく、常に広い視野を持って文学館事業に関与しています。

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

イ 人員配置等の状況について

□組織図

専門家執行事務局は事務局長以下総務、資料、展示の3課によって構成され、各課に課長及びその補佐役を配し、分掌業務を遂行します。



*配置職員数は資料の寄贈状況、事業の実施状況等によって変動。

◇ 総務課 総務経理班

理事会、評議員会の運営、予算決算、電算管理、収支経理、販売管理、物品管理、視察対応、個人情報保護、情報公開、事業報告・年報作成 2人

施設の維持管理（ビルメンテナンス、警備、清掃、受付の指導管理）、会議室利用承認業務、給与福利厚生庶務、防火・防災管理 2人

◇ 総務課 企画普及班

講演会、講座、朗読会の企画、講師依頼、イベント開催（年間12～15回）ビデオ製作、展示や催事の各種媒体への情報宣伝活動、ポスター、チラシ製作 2人

友の会、文学館を支援する会の管理運営、文学散歩の企画開催、館報の編集刊行（年4回刊行）映画会、広報発送業務、ホームページの管理 2人

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

◇ 資料課全体

カウンター出納業務、レファレンス、コピーサービス(郵送も含む)、蔵書点検

◇ 資料課 受入班

寄贈者との連絡交渉、寄贈資料選定、収書搬入、燻蒸、購入資料選定、仕分け、カバー等の装備、修復、データ入力

4人

◇ 資料課 特別資料班

原稿、書簡、メモなどの肉筆資料や遺品、写真資料などのデータ化(プライバシー関連のチェックなど書簡内容、原稿内容の精査、調査照合等含む)、複製製作、館外への資料貸出

2人

◇ 資料課 雑誌班

雑誌のデータ化、補修、欠号補充、新刊雑誌発注管理、所蔵状況管理、寄贈雑誌整理

1人

◇ 資料課 図書整理班

図書の分類、精密データの作製、修復、OPAC(オンライン蔵書目録)の作成

2人

◇ 展示課

企画、調査、構成、館蔵資料調査、編集委員連絡調整、図録編集、キャプション作成、資料借用、返却、会場飾り付け、展示データ作成、展示説明会の実施、新聞紙上への紹介記事執筆、資料出品者との連絡交渉、広報との連絡調整

特別展5人、企画展2人

※事務局と理事、評議員とは寄贈仲介、講演会講師の依頼、館報、図録の執筆など直接の業務のうえでも随時密接な連携を図っています。

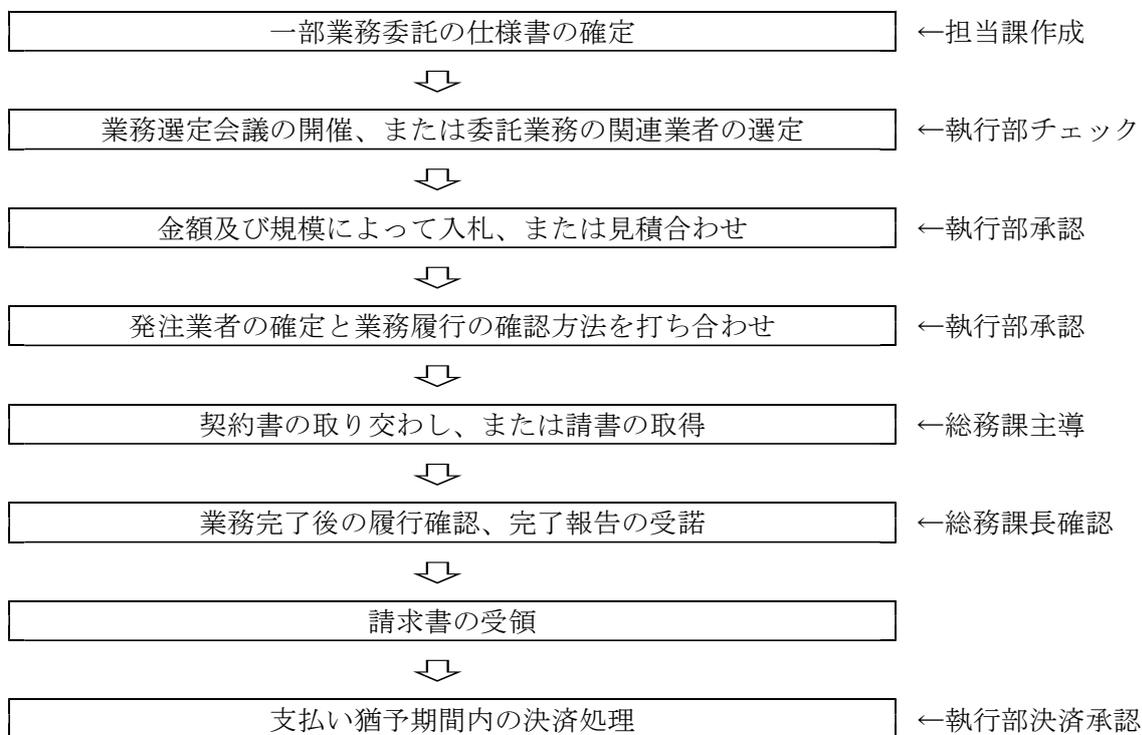
Ⅲ 団体の業務遂行能力について

ウ 業務の一部を委託する場合の管理・指導体制

□委託業務の履行確認体制

当財団は維持管理業務、展示業務等で複数の業務一部委託を行っています。業務委託について仕様書を作成し、予算額に応じて入札や見積合わせなど必要な処置を行い、業者選定を行った上で委託先業者と契約書を交わすか、または請書を取得して委託業務の発注後の履行状況を監視し、納期を守った上で十分な業務成果があげられるように業務全体を総務課主導で管理しています。業務の完了後は担当課職員だけでなく、総務課執行担当者、総務課長が履行確認を行い、納期内に事故なく、委託内容が仕様書どおりに完全に終了していることを見届けた上で、完了届を受諾し、支払い請求に応じております。以下は一連の業務の流れを図示したものです。

□委託業務の執行及び履行確認の流れ



Ⅲ 団体の業務遂行能力について

■Ⅲ-1(2)人材育成、労働環境確保等について

人材育成の考え方

□人材育成を通じた総合力の強化

当財団では、文学館業務のあらゆる面（資料関連、展示関連、企画普及関連、総務関連）に経験と知識を持ち、対応できる職員の育成を第一義に考えています。そのため部署間での異動を行い、総合的な視点を維持できるようにしています。館事業全般を経験することで文学館を管理運営するための広い視野を持つ人材の育成を目指します。例えば資料課での資料管理によって得た知識は展示業務に有用であり、展示事業での経験は企画普及業務を補強します。また展示や資料課での経験は予算執行を管理する総務部門での具体的な業務に欠かせません。各セクションの業務で得た知識や経験を基に、コストパフォーマンスに対する意識や事業総体へのバランス感覚を高め、総合的な運営能力を向上させます。

□専門能力の向上を目指した人材育成

総合的な視野と同時にスペシャリストとしての経験を積むことは文学館業務において極めて重要な点です。ひとつおりの各分野の経験が終了した後は各人の資質に応じ適材適所の配置を行いスキルをみがきつつ後進の指導に当たるといった基本構造を維持していきます。

□チーム作業による専門性の継承

肉筆資料の整理や展示製作といった専門性の高い業務は経験豊富な職員を配したチームで作業することでノウハウが円滑に継承されていく体制を維持していきます。またこのことで中堅職員のリーダーとしての自覚を促すようにしています。

□職員研修等の充実

館事業の質的な高さを維持するため、専門技術等の研鑽を目的に職員を外部研修等へ積極的に派遣し、育成に努めます。具体的には加盟する全国文学館協議会、日本図書館協会、日本博物館協会、神奈川県図書館協会、神奈川県博物館協会各組織が開催する研修会等に随時職員を派遣します。また神奈川県公益法人等連絡協議会が実施する研修講座にも職員を参加させています。

採用・雇用の考え方

□職員の採用について

採用は完全公募で、館ホームページ、学芸員採用サイトなどにより募集し、筆記試験と複数回の面接により選考しています。専門的知識に偏らない広い教養を持つ、協調性に富む人材を最優先しています。専門的知見は日常業務の過程で身につけていくというスタンスを基本としています。業務スキルやノウハウを継承していくために世代間で大きなブランクができないように配慮し、既卒者を含めた採用をしています。中長期的な展望に立った計画的な人員採用で世代間の平準化を図っていきます。

□経験者の活用

継続的に若い人材を採用していくことは第一に必要ですが、業務能力の維持と技術の継承のために専門能力の豊富な当財団再雇用者を活用していきます。

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

□再雇用について

高年齢者雇用安定法の改正に伴い、60歳以上定年後も希望者全員に65歳までの再雇用を実施しています。将来的には65歳定年制に段階的にシフトできるように雇用体制や関係規程の整備を行っていきます。

□柔軟な雇用

採用にあたっては、より合理的な雇用形態も考慮に入れ、柔軟な対応を行っていきます。

□館の使命遂行

継続的に退職者が生じる時期が到来し、文学館の使命を遂行するための将来にわたる業務量・事業規模と職員総数の兼ね合いを県とも協議しながら策定し、職員数・職員構成と採用の長期ビジョンを考えていきます。

労働環境確保等の状況

□労働時間短縮の取組

資料課ではスタッフ全員、年間を通じて時間外勤務はほぼゼロで今後も適正な労働時間を維持していきます。事故裁量権の大きい学芸的業務においても、計画的な業務配分により労働時間の意識を高めるように指導しています。その一環として土、日、祝日はノー残業デーとして定時勤務の自覚を高めるようにしています。

□年休取得の推進について

年5日の年次有給休暇取得の義務化に伴い、職員全員が有給休暇を取りやすい労働環境を整えていきます。展示課や総務課など繁忙期に偏りがある部署では余裕のある時期に計画的に年休を取得するよう指導するなど、労働時間の適正化に取り組んでいきます。

□子育てしやすい環境の確保

育児休業については県に準じて、男女とも最長、子が3歳に達する日まで取得が可能となっています。また、1日2時間までの部分休業の制度により育児休業からの復職後の負担を軽減しています。

□職場のハラスメント対策

ハラスメント相談の窓口となる担当者を置き、職員全員がいつでも直接アクセスできるようにしています。また、相談しやすい環境、雰囲気作りを常に目指しています。

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

Ⅲ-2 財政的な能力について

Ⅲ-3 コンプライアンス、社会貢献について

■Ⅲ-3(1)コンプライアンスのための体制について

□法令等の遵守と諸規程の整備

当財団は公益法人改革に対応し、平成23年度に新法人へ移行を果たしました。公益財団法人としての新定款及び諸規程に則り、運営の透明性、健全性、平等性に配慮した、迅速な意思決定を図るとともに、適切かつ組織的な対応を継続していきます。同時に関係諸法令等を遵守するための体制の維持、充実に一層取り組んでいきます。

(1) 公益法人改革に対応した役員及び評議員の体制の整備

当財団は新法制度に沿って公益的使命を充分果たし、有効かつ安全な体制を整備しています。公益移行後の体制は、執行機関としての理事会と諮問機関の役割を担う評議員会で構成され、両輪の機能によって公正かつ安全な組織ガバナンスの構築を行いました。新法に従い、役員(理事・監事)は評議員会で選任され、代表理事(理事長)及び業務執行理事(副理事、専務理事)は理事会から選出されます。また独立諮問機関である評議員会は理事の選解任権、定款及び諸規程の審議権を持つなど、指定管理を含む事業全体の公益性、有効性を検証し、審査します。

(2) 監査機関の設置

業務の監査機関として、監事による監事監査を実施しており、今後も公益法人の財産状態、資産管理及びその運営状況の適正な状態の確保に努めます。

(3) 指導監督機関との連携

施設設置者(県文化課並びに文書課)と、事業運営に関する意見調整を密に行います。

(4) 組織内管理

事務局の責任者による定例会議を週1回開催し、業務指示の伝達、各課の連絡調整を実施しています。また役員とも密接な連携をとっています。定例会議における決定事項は各課職員会議にて指示伝達され、職員はすみやかに事務に反映しています。

(5) 職員綱紀

諸規程の服務規程に職員の倫理に関する事項を設けています。

(6) 従事者の労働管理

労働基準関係法令についても職員教育など必要な措置を実施し、業務の安全推進に努めます。

■Ⅲ-3(2)環境への配慮について

□環境に配慮した事業の推進

①「環境への配慮」についての考え方

- (1) 環境に影響を与える可能性がある行為を検討
- (2) 影響を受けやすい環境要素を分析
- (3) 必要な情報を収集

②「環境への配慮」の方策

- (1) 省資源・省エネルギーの推進

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

(2) 二酸化炭素等温室効果ガス発生・抑制吸収

(3) 廃棄物の発生抑制・リサイクルの推進

③「環境への配慮」への取組み

◇省資源・省エネルギー、温室効果ガスの抑制

(1) 改正省エネ法の趣旨に従い、全県的な省エネに向け、文学館のエネルギー使用量の把握・管理を目的とした一覧表を作成しました。

(2) ペーパーレス化の一環として、コピー用紙の裏紙利用の促進、インターネットメールの活用、収書ダンボールの再利用などの取り組みを継続しています。

(3) トイレに人感センサーを設置しています。

(4) ロビーや廊下などにある節電用の電球型蛍光灯をLED灯に変更しています。更に事務室、会議室についても省電力化が可能なLED照明へ全館的な転換を図っています。

(5) 展示室内の白熱灯照明をLED照明に転換し、省エネルギー化を図っています。展示ケース内の照明についても所管課の協力を得てLED化を進めています。(ケースLED化を60%達成)

(6) 節水ゴマを使用した省資源化を実施しています。

(7) 「港の見える丘公園」というすぐれた自然景観の保全に配慮し、管理区域内の樹木を大切に保全し、年間を通じて管理しています。

◇廃棄物の発生抑制・リサイクルの推進

(1) グリーン購入法適合商品等を購入しています。

(2) 受益者負担を兼ねて、ゴミを排出する会議室利用者には専用のゴミ袋を販売しています。

(3) ゴミの分別排出、省資源・省エネルギー対策の展開、物品の利活用・リサイクルの推進及び廃棄物の削減などにより、公園内環境汚染の低減と資源消費の抑制に努めています。

(4) メモ用紙等の紙ゴミを古紙回収対象に組み込み、紙ゴミ排出量の低減に努めています。

(5) 大気汚染、水質汚濁、騒音、振動、悪臭、土壌汚染、化学物質による汚染などの未然防止に努めています。

■Ⅲ-3(3)障がい者等への配慮について

ア 法定雇用率の達成状況、未達成の場合の今後の対応

(7) 障害者雇用状況(募集の直前の6月1日現在)

法定雇用障害者数の算定の基礎となる労働者数 (A)	うち常用雇用障害者数 (B)	実雇用率(B)／(A)×100	不足数 (A)×法定雇用率※2-(B)
34人	0人		

※障害者雇用促進法の法定雇用率 報告義務 無

(イ) 未達成の場合の今後の対応

※報告義務 無

(ロ) 障害者雇用促進法に基づく国(公共職業安定所長)からの障害者雇入れ計画作成命令の有無
□有(計画作成命令を受けた後の対応について:)

■無

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

イ 障がい者雇用促進の考え方と実績

①障がい者雇用促進企業への支援の考え方

当法人は雇用する職員数も少なく、直接の障がい者雇用は行っていませんが、発注先企業の候補選定にあたっては、市町村の地域貢献企業認定制度などにより、障がい者雇用を積極的に行っている県内の民間企業への優先発注を行っています。

②障がい者雇用促進企業支援の実績

当法人は、業務委託を通じて障害者雇用促進を実践している県内企業を支援しています。以下のような実績があります。

(印刷) (株) 野毛印刷社

(施設維持) エヌ・ケイ・テクノ (株)、(株) 神奈川ナブコ、(株) 協同清美

(株) キュー・アイ

(清掃等) 横浜植木 (株)、武松商事 (株)

③障がい者等への配慮についての考え方

展示館、閲覧室それぞれへの入口に誘導用点字ブロックを、エレベータのボタンに点字シールを設置しています。また、展示館受付、閲覧カウンターに、筆談記を常備しています。

■Ⅲ-3(4)社会貢献活動等への取組について

ア 外国人等に対するコミュニケーションにおける支援

- 展示館受付に簡易翻訳機、筆談記を備えています。
- 案内看板に英語、中国語、韓国語の表記追加を進めるとともに、ホームページではアクセスに関して英語のページを設けています。
- 外国人観光客のため、Wi-Fiの整備に向けた準備をすすめます。

イ SDGs(持続可能な開発目標)(目標3(保健)、目標4(教育))への取組、社会貢献活動等、CSRの考え方と実績について

SDGsへの取組、社会貢献活動等、CSRについての基本方針

- * 来館者、職員双方にとって館内環境が健全であるように努めます。
- * 学校教育との連携を進めるとともに生涯学習活動についても、その機会を増大して行きます。
- * 公立施設の管理者・運営者として地域の社会活動、文化活動に対して積極的に関わり、貢献をして行きます。
- * 周辺地区での社会活動、文化活動、社会貢献活動などへの協力を通じて、公益法人として地域で果たすべき役割を全うし、周辺住民の安心、安全等の増大に貢献します。

①SDGsについての考え方

文学展を中心とする文学館事業全体が質の高い生涯学習機会の場ですが、さらに文学散歩、連句会などの参加型イベントを用意することで内容の充実をはかっています。学ぶ、調べる、知る、感じるそれぞれの喜びに文学のフィールドで応えていきます。同時に若年層向けにも展示やイベントを恒常的にセッティングし、世代に偏りなく文学と接する場を提供できるよう配慮しています。貸会議室においても、様々な団体による朗読会や、読書会、句会・歌会等生涯学習の分野での利用機会と場所を提供しています。

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

目標3の観点から館内の環境を定期的に検査し、常に清浄、快適に維持するよう努めています。「神奈川県公共的施設における受動喫煙防止条例」にもとづき館内完全禁煙を実施し、県が取り組む県民の健康増進を図る活動方針に沿った施設管理をしています。また、職員についても労働時間を含め、健全な労働環境を維持し心身の健康に配慮していきます。

②CSR（企業の社会的責任）について

県内における文学及び芸術普及活動の活性化と、文字・活字文化振興の一環である県子ども読書活動推進計画の効果的な実施のため積極的に活動しています。文学館事業における文学展、講演会等の開催により県民が文学作品や資料に触れる機会を増進すると同時に、専門資料館として地域の文学資料を収集、整理、保存、さらに公開することにより、普遍的な文化遺産の継承、振興を担うという大きな社会的責任を果たしています。

③地域に於けるCSR（企業の社会的責任）について

地域の文化・芸術の活性化を図るため、周辺文化施設や企業と合同で「山手芸術祭」に参加し、恒常的な催事活動を行う拠点施設として活動しています。

地域への奉仕としては近隣小学校の児童の救急施設、避難場所として「子ども110番」制度に登録しています。また、当館警備員が通学路周辺や公園散策路も含めた見回りを行って安全を確保するほか、登下校時の怪我や急病の際には、閲覧室を提供して職員が手当にあたり、先生方と連携して迅速に対処しています。積雪時には通学路のほか公園内の通勤・通学路・散策路の除雪を行っています。

さらに大規模災害が発生した場合には、一時避難者、帰宅困難者への宿泊場所の提供、毛布の貸出しや食料飲料水の配給などができるよう、約100人分の飲料・食料品を備蓄しています。令和2年度中には、横浜市とも帰宅困難者一時滞在施設の協定を締結する方向で協議中です。

④国際文化交流を通じた社会貢献

今後も従来のおり文学館の立場から、文化芸術の分野で国際交流に貢献していきます。平成20年度に開催された台湾文学展とその関連イベントなどで交流を深めた台湾文学館とは今後も協力関係を維持していきたいと考えています。また、中国、韓国の視察団の受け入れなどを通じ、国内のみでなく海外の文学館設立にも協力し、国際的な文化交流へ貢献していきます。隣接する大韓民国総領事館とは日常的に交流を行っています。

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

Ⅲ-4 事故・不祥事等への対応、個人情報保護

募集開始の日から起算して過去3年間に重大な事故又は不祥事はありません。

事故・不祥事への対応の基本方針

- * 事故・不祥事発生時には速やかに情報共有をし、関係各所との連携をはかります。
- * 危機管理マニュアルを整備し、事故や不祥事が起きた場合でも、初動の段階から迅速に職員が対応できるよう、日頃から体制を整えています。
- * 危機管理マニュアルに従い利用者の安全を第一に行動します。

□ AEDの設置

展示館エントランスにAEDを設置しています。職員は操作講習をうけ、館内及び港の見える丘公園など周辺地域での急病の方に対応できるようにしています。

□ 救急救命講習

防災訓練の一環として、横浜市消防局等の協力を得て、職員の救急救命講習を実施しています。

□ 緊急災害時の対応について

災害、事故等が発生した場合には、職員全員が速やかに情報共有できる緊急連絡網を整備しています。災害事故により、交通に支障が生じた際は、利用者へ速やかに情報提供し、待機場所として館を一時提供するなど臨機の対応を行っています。

□ 不測の事態への対応について

万一、器物損壊等の犯罪行為が発生した場合には、緊急対応後に県所管課、管轄警察署と協力し、速やかに法的な措置を講じます。

世上に感染症等が発生した場合には、拡大防止のため専門家の出した指針に従い、必要な措置を講じていきます。

個人情報保護の基本方針

- * 文学館施設及び文学館事業における個人情報の取扱いについて十全の配慮を行い、公益法人としての責務を全うします。
- * 個人情報保護法及び保護規程を遵守し、適正な処理を行っています。
- * 職員に対して個人情報保護に関する知識及び情報の周知徹底を図っています。
- * IT化社会に於ける不測の事態に対処するため個人情報等に特化した保険加入など次善の策を講じています。

財団では、平成2年に「財団法人神奈川文学振興会個人情報保護規程」を制定し、プライバシーの適正な保護と情報の漏洩防止に努めてきました。さらに平成17年の個人情報保護法施行に伴い、同法の遵守に取り組んでおり、今後も以下の内容を徹底して行きます。

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

①安全管理措置

電算処理による情報の運用時及び、窓口対応時における適正で安全かつ強固な保護措置を講じます。また、全課に個人情報保護推進担当者を設け、保護の強化に努めています。

②職員、業務従事者への周知監督措置

個人情報保護に関する知識や情報を従事者へ周知徹底し、漏洩等の事故を未然に防ぎます。

③業務委託先への監督措置

④個人データのデータベースの正確性・最新性の向上

⑤第三者への情報提供の禁止

本人の同意がある場合や法令等で定められた場合等を除き、第三者に開示又は提供しません。

⑥利用目的の範囲内での取得

⑦苦情についての迅速な対応

問い合わせや訂正、開示、使用停止の請求等についても迅速に対応します。

⑧不要になった個人情報の廃棄

所定の期間を過ぎた個人情報は規程に則り確実に廃棄します。

⑨個人情報保護に対応した保険の整備

個人情報に関する不慮の事故、訴訟等へ対応するため、今後も継続して専用の保険に加入します。

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

Ⅲ-5 これまでの実績

■Ⅲ-5(1) 展覧会の開催(h18-r元)(会場は全て文学館展示室)

神奈川近代文学館運営事業として、下記の内容で文学展を開催しました。
 ○特別展29回、企画展・常設展68回開催 総入場者数 543,552人 (うち有料 319,650人)

年度	展覧会名	会 期 等	観 覧 者 数 (うち有料者数)	1 日 平均
18	吉 屋 信 子 展	4月22日～6月4日 (39日間)	7,488人 (2,366人)	192人
	俳 句 その 魅 力 展	9月30日～11月12日 (39日間)	6,154 (1,373)	158
	常設展 (含企画展等)	(6 回) (205日間)	13,942 (5,590)	68
	年 度 計	8 回 283日間	27,584 (9,329)	97
19	中原中也と富永太郎展	4月21日～6月3日 (39日間)	8,202 (3,585)	210
	埴谷雄高『死霊』展	10月6日～11月25日 (45日間)	5,421 (2,618)	120
	常設展 (含企画展等)	(6 回) (202日間)	15,955 (8,408)	79
	年 度 計	8 回 286日間	29,578 (14,611)	103
20	澁澤龍彦回顧展	4月26日～6月8日 (39日間)	8,899 (5,299)	228
	堀田善衛展	10月4日～11月24日 (47日間)	8,380 (3,733)	178
	常設展 (含企画展等)	(6 回) (199日間)	17,619 (7,900)	88
	年 度 計	8 回 285日間	34,898 (16,932)	122
21	森 鷗 外 展	4月25日～6月7日 (39日間)	8,220 (2,623)	211
	大 乱 歩 展	10月3日～11月15日 (39日間)	9,453 (5,574)	242
	常設展 (含企画展等)	(6 回) (208日間)	18,047 (6,963)	87
	年 度 計	8 回 286日間	35,720 (15,160)	125
22	城 山 三 郎 展	4月24日～6月6日 (39日間)	8,292 (2,973)	213
	小 泉 八 雲 展	10月2日～11月14日 (39日間)	9,143 (3,322)	234
	常設展 (含企画展等)	(6 回) (206日間)	14,927 (6,281)	72
	年 度 計	8 回 284日間	32,362 (12,576)	114
23	遠 藤 周 作 展	4月23日～6月5日 (39日間)	12,360 (8,855)	317
	安 野 光 雅 展	8月6日～9月25日 (45日間)	15,130 (10,721)	336
	林 芙 美 子 展	10月1日～11月13日 (39日間)	6,098 (3,826)	156
	常設展 (含企画展等)	(5 回) (161日間)	11,760 (8,148)	73
	年 度 計	8 回 284日間	45,348 (31,550)	160

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

年	展覧会名	会 期 等	観 覧 者 数	平均
24	斎 藤 茂 吉 展	4月28日～6月10日 (39日間)	7,618人 (5,003人)	195人
	島 崎 藤 村 展	10月6日～11月18日 (39日間)	7,162 (4,135)	184
	常設展 (含企画展等)	(6 回) (208日間)	13,193 (7,587)	63
	年 度 計	8 回 286日間	27,973 (16,725)	98
25	井 上 ひ さ し 展	4月20日～6月9日 (46日間)	14,100 (10,606)	307
	泉 鏡 花 展	10月5日～11月24日 (46日間)	5,696 (3,572)	124
	常設展 (含企画展等)	(5 回) (198日間)	13,919 (7,841)	70
	年 度 計	7 回 290日間	33,715 (22,019)	116
26	太 宰 治 展	4月5日～5月25日 (45日間)	16,464 (12,156)	366
	須賀敦子の世界展	10月4日～11月24日 (47日間)	13,391 (9,828)	285
	常設展 (含企画展等)	(4 回) (196日間)	16,400 (8,837)	84
	年 度 計	6 回 288日間	46,255 (30,821)	161
27	谷 崎 潤 一 郎 展	4月4日～5月24日 (45日間)	12,398 (8,512)	276
	柳 田 國 男 展	10月3日～11月23日 (46日間)	8,378 (5,707)	182
	夏 目 漱 石 展 *	3月26日～3月31日 (5日間)	2,486 (1,790)	497
	常設展 (含企画展等)	(4 回) (192日間)	22,943 (15,124)	119
	年 度 計	6 回 288日間	46,205 (31,133)	160
28	夏 目 漱 石 展	4月1日～5月22日 (46日間)	26,944 (19,649)	586
	安 岡 章 太 郎 展	10月1日～11月27日 (51日間)	6,117 (3,395)	120
	正 岡 子 規 展 *	3月25日～3月31日 (6日間)	1,298 (769)	216
	常設展 (含企画展等)	(4 回) (185日間)	13,415 (7,787)	73
	年 度 計	6 回 288日間	47,774 (31,600)	166
29	正 岡 子 規 展	4月1日～5月21日 (45日間)	16,288 (11,807)	362
	山 本 周 五 郎 展	9月30日～11月26日 (51日間)	7,337 (4,832)	144
	与 謝 野 晶 子 展 *	3月17日～3月31日 (13日間)	2,934 (1,663)	226
	常設展 (含企画展等)	(3 回) (170日間)	21,298 (12,571)	125
	年 度 計	5 回 282日間	47,857 (30,873)	170
30	与 謝 野 晶 子 展	4月1日～5月13日 (38日間)	11,033 (7,641)	290
	寺 山 修 司 展	9月29日～11月25日 (51日間)	12,358 (9,029)	242
	松 本 清 張 展 *	3月16日～3月31日 (14日間)	1,949 (1,391)	139
	常設展 (含企画展等)	(4 回) (181日間)	16,994 (10,355)	94
	年 度 計	6 回 284日間	42,334 (28,416)	149

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

年	展覧会名	会 期 等	観 覧 者 数	平均
31 ／ 令 和 元	松 本 清 張 展	4月1日～5月13日 (38日間)	13,522 (9,138)	356
	中 島 敦 展	9月28日～11月24日 (50日間)	10,525 (5,980)	211
	企 画 展	(3 回) (180日間)	21,902 (12,787)	122
	年 度 計	5 回 268日間	45,949 (27,905)	171
総 合 計	97回	3,962日間	543,552人(319,650人)	137人

※うち特別展の開催は29回 入場者数311,238人(有料193,471人)

*年度を跨ぐ展示はおもな展示期間が属する年度で回数をカウント／令和元年は3月3日まで

○(特別展を除く)企画展等 13年間で45回開催 入場者数208,408人(うち有料112,885人)

(常設展と同時開催の展示のため企画展、コレクション展共に上表の常設展の人数に含まれます。)

年度	企画展及び文庫コレクション展等(*印は共催)	会 期 等	観 覧 者 数 (うち有料者数)	1日 平均
18	中 野 孝 次 展	18年6月10日～7月30日 (44日間)	5,339人 (2,089人)	121人
	露伴、茂吉、寅彦と小林勇展	18年11月18日～1月14日 (44日間)	3,427 (1,067)	78
19	収蔵資料展生誕100年記念井上靖展	19年6月9日～7月29日 (45日間)	2,600 (1,093)	58
	佐藤さとる コロボックル物語展	19年8月4日～9月30日 (52日間)	8,494 (5,142)	163
	コレクション展8『食道楽の人』村井弦斎展	20年1月19日～3月2日 (39日間)	1,943 (897)	50
20	文学館交流展1台湾文学館の魅力展*	20年6月14日～8月3日 (45日間)	1,879 (649)	42
	かこさとし『だるまちゃん とてんぐちゃん』展	20年8月9日～9月28日 (45日間)	9,259 (5,007)	206
	かながわの図書館 自慢のこの一点*	20年11月29日～1月18日 (38日間)	1,910 (676)	50
	文学館交流展2子規から虚子へ*	21年3月7日～4月19日 (38日間)	6,537 (1,690)	172
21	中 島 敦 展	21年6月13日～8月2日 (45日間)	5,060 (2,287)	112
	茂 田 井 武 展	21年8月8日～9月27日 (45日間)	4,118 (1,982)	92
	長 谷 川 時 雨 展	21年11月21日～1月11日 (40日間)	2,288 (671)	57
	コレクション展9 二葉亭四迷展	22年3月6日～4月18日 (39日間)	2,114 (769)	54
22	文学館交流展3「開高健の世界」展*	22年6月12日～8月1日 (45日間)	6,682 (3,230)	148
	長 崎 源 之 助 展	22年8月7日～9月26日 (45日間)	2,957 (1,030)	66
	コレクション展10 中山義秀展	22年1月15日～2月27日 (38日間)	1,784 (587)	47
	荻原井泉水と「層雲」100周年記念展*	22年3月5日～4月17日 (39日間)	1,092 (601)	28
23	「漱石と文人たちの書画」展	23年6月11日～7月31日 (45日間)	3,973 (2,564)	88
	作家と万年筆展	24年1月14日～2月26日 (38日間)	5,107 (3,915)	134
	コレクション展11 中 藺 英 助 展	24年3月3日～4月22日 (44日間)	1,882 (943)	43

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

年度	企画展及び文庫コレクション展等（*印は共催）	会 期 等	観 覧 者 数 (うち有料者数)	1 日 平 均
24	「中野重治の手紙」展	24年6月16日～8月5日(45日間)	2,356 (1,242)	52
	寺村輝夫『ぼくは王さま』展	24年8月11日～9月30日(45日間)	5,832 (3,264)	130
	福田恆存資料展	24年11月23日～25年2月24日(73日間)	2,619 (1,736)	36
	コレクション展12 添田啞蟬坊・知道展	25年3月2日～4月14日(38日間)	2,255 (1,348)	45
25	文学館交流展4『中原中也の手紙』展*	25年6月15日～8月4日(45日間)	3,898 (2,200)	87
	賢治+司修「注文の多い展覧会」	25年8月10日～9月29日(46日間)	5,705 (3,157)	124
	コレクション展13 黒岩重吾展	26年2月1日～3月30日(50日間)	2,233 (1,216)	45
26	装幀＝菊地信義とある「著者50人の本」展	26年5月31日～7月27日(51日間)	3,681 (2,049)	72
	ねずみくん40周年なかえしを +上野紀子の100冊の絵本展	26年8月2日～9月28日(51日間)	9,057 (4,662)	178
	コレクション展14 寺田 透展	27年1月31日～3月29日(50日間)	2,027 (1,145)	41
27	『銀の匙』の作家中勘助展	27年5月30日～7月20日(45日間)	4,093 (2,304)	91
	まると佐野洋子展	27年7月25日～9月27日(57日間)	15,197 (10,462)	267
	コレクション展15 文人学者・富士川英郎展	28年1月30日～3月21日(45日間)	1,844 (1,025)	41
28	鮎川信夫と「荒地」展	28年5月28日～7月18日(45日間)	2,798 (1,595)	62
	絵本作家・西村繁男の世界展	28年7月23日～9月25日(57日間)	6,521 (3,477)	114
	コレクション展16 全身小説家・井上光晴展	29年1月28日～3月20日(45日間)	2,190 (1,238)	49
29	生誕120年 宇野千代展	29年5月27日～7月17日(45日間)	6,235 (3,840)	139
	角野栄子『魔女の宅急便』展	29年7月22日～9月24日(57日間)	9,111 (5,065)	160
	山川方夫と「三田文学」展	30年1月27日～3月11日(39日間)	4,777 (2,818)	122
30	詩人大使ポール・クロードルと日本展	30年5月19日～7月16日(51日間)	3,911 (2,348)	77
	没後10年 石井桃子展	30年7月21日～9月24日(58日間)	9,639 (5,856)	166
	コレクション展17 花田清輝展	31年1月26日～3月10日(39日間)	2,082 (1,162)	53
31 令和元	没後20年 江藤淳展	元年5月18日～7月15日(51日間)	4,947 (2,765)	97
	『わたしのワンピース』 50周年 西巻茅子展	元年7月20日～9月23日(59日間)	13,421 (7,886)	227
	コレクション展18 没後50年 獅子文六展	元年12月7日～3月3日(70日間)	3,534 (2,136)	50
総 合 計		45回 2,110日間	208,408人(112,885人)	99人

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

【展覧会図録、解説書（リーフレット）類の製作】

特別展や企画展の開催に合わせて、展覧会解説のための図録等を製作、頒布しました。

年度	展覧会名	形態	頁数等	製作数	製作形態	備考
18	吉屋信子展	図録	B5/52p	2,500冊	製作/頒布	
	中野孝次展	図録	B5/36p	2,000	製作/頒布	
	俳句 その魅力展	図録	B5/64p	2,000	製作/頒布	
	露伴、茂吉、寅彦と小林勇展	図録	B5/24p	1,500	製作/頒布	
19	中原中もと富永太郎展	図録	B5/64p	2,000	製作/頒布	
	佐藤さとる コロボックル物語展	リーフレット	A5/8p(観音折)	10,000	製作/配布	無料配布
	埴谷雄高『死霊』展	図録	B5/64p	2,000	製作/頒布	
	コレクション展8『食道楽の人』村井弦斎展	リーフレット	A5/8p(観音折)	3,000	製作/配布	無料配布
20	澁澤龍彦回顧展	図録	B5/64p	3,500	製作/配布	
	かこさとし『だるまちゃんくてんぐちゃん』展	リーフレット	A5/8p(観音折)	15,000	製作/配布	無料配布
	堀田善衛展	図録	B5/64p	3,000	製作/頒布	共同製作
	子規から虚子へ	図録	A4/78p	2,000	協力/頒布	監修協力
21	森鷗外展	図録	B5/64p	2,500	製作/頒布	
	図説中島敦の軌跡	図録	A4/64p	—	協力/頒布	監修協力
	茂田井武展	リーフレット	A5/8p(観音折)	1,000	製作/配布	無料配布
	大乱歩展	図録	B5/64p	3,000	製作/頒布	
	長谷川時雨展	リーフレット	A5/8p(観音折)	3,000	製作/配布	無料配布
	コレクション展9 二葉亭四迷展	リーフレット	A4/8p(観音折)	3,000	製作/配布	無料配布
22	城山三郎展	図録	B5/64p	3,000冊	製作/頒布	
	文学館交流展3「開高健の世界」展	図録	B5/87p	—	協力/頒布	共同編集
	長崎源之助展	リーフレット	A5/8p(観音折)	7,000	製作/配布	無料配布
	小泉八雲展	図録	B5/64p	3,000	製作/頒布	
	コレクション展10 中山義秀展	リーフレット	A5/8p(観音折)	2,500	製作/配布	無料配布
23	遠藤周作展	図録	B5/64p	3,000	製作/頒布	
	「漱石と文人たちの書画」展	リーフレット	A5/8p(観音折)	5,000	製作/配布	無料配布
	安野光雅展*	図録	B5変形/48p	2,500	製作/頒布	無料配布
	林芙美子展	図録	B5/64p	2,500	製作/頒布	
	コレクション展11 作家と万年筆展	リーフレット	A5/8p(観音折)	11,000	製作/配布	無料配布
	中藺英助展	リーフレット	A5/8p(観音折)	4,000	製作/配布	無料配布

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

年度	展覧会名	形態	頁数等	製作数	製作形態	備考
24	斎藤茂吉展	図録	B5/64p	2,500	製作/頒布	
	「中野重治の手紙」展	リーフレット	A5/8p(観音折)	5,000	製作/配布	無料配布
	寺村輝夫『ぼくは王さま』展*	図録	B5変形/48p	2,500	製作/頒布	
	島崎藤村展	図録	B5/64p	2,200	製作/頒布	
	コレクション展12 添田啞蟬坊・知道展	リーフレット	A5/8p(観音折)	5,000	製作/配布	無料配布
25	井上ひさし展	図録	菊判/112p	4,200	製作/頒布	
	文学館交流展4『中原中也の手紙』展	図録	A5/40p	—	受託販売	
	賢治+司修「注文の多い展覧会」*	図録	A6/104p	2,000	製作/頒布	
	泉鏡花展	図録	B5/64p	2,500	製作/頒布	
	コレクション展13 黒岩重吾展	リーフレット	A5/8p(観音折)	5,000	製作/配布	無料配布
26	太宰治展	図録	菊判/112p	4,800	製作/頒布	
	菊地信義とある「著者11人の文集」	図録	四六判/64p	2,000	製作/頒布	含特装版
	ねずみくん40周年なかえよしお+上野紀子の100冊の絵本展*	図録	B5変形/56p	2,000	製作/頒布	
	須賀敦子の世界展	図録	B5/64p	4,500	製作/頒布	
	コレクション展14 寺田透展	リーフレット	A5/8p(観音折)	4,000	製作/配布	無料配布
27	谷崎潤一郎展	図録	菊判/112p	3,000	製作/頒布	
	『銀の匙』の作家中勘助展	リーフレット	A5/8p(観音折)	4,000	製作/配布	無料配布
	まるごと佐野洋子展*	図録	B5変形/48p	2,500	製作/頒布	
	柳田國男展	図録	B5/64p	2,500	製作/頒布	
	コレクション展15 文文学者・富士川英郎展	リーフレット	A5/8p(観音折)	4,000	製作/配布	無料配布
28	夏目漱石展	図録	A5/88p	6,000	製作/頒布	
	鮎川信夫と「荒地」展	リーフレット	A5/8p(観音折)	4,000	製作/配布	無料配布
	絵本作家・西村繁男の世界展*	図録	B5変形/48p	2,000	製作/頒布	
	安岡章太郎展	図録	B5/64p	2,300	製作/頒布	
	コレクション展16 全身小説家・井上光晴展	リーフレット	A5/8p(観音折)	4,000	製作/配布	無料配布
29	正岡子規展	図録	B5/88p	3,000	製作/頒布	
	宇野千代展	図録	B5/32p	2,000	製作/頒布	
	角野栄子「魔女の宅急便」展*	図録	B5変形/48p	2,000	製作/頒布	
	山本周五郎展	図録	B5/64p	3,000	製作/頒布	
	山川方夫と「三田文学」展	リーフレット	A5/8p(観音折)	5,000	製作/配布	無料配布

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

年度	展覧会名	形態	頁数等	製作数	製作形態	備考
30	与謝野晶子展	図録	B5/64p	3,300	製作/頒布	
	ポール・クローデルと日本展	図録	菊判/278p	—	受託販売	
	石井桃子展*	図録	B5変形/48p	2,500	製作/頒布	
	寺山修司展	図録	B5/64p	2,700	製作/頒布	
	コレクション展18 花田清輝展	リーフレット	A5/8p(観音折)	5,000	製作/配布	無料配布
31 /令 和 元	松本清張展	図録	B5/64p	3,000	製作/頒布	
	江藤淳展	リーフレット	A5/8p(観音折)	5,000	製作/配布	無料配布
	「わたしのワンピース」西巻茅子展*	図録	B5変形/48p	2,500	製作/頒布	
	中島敦展	図録	B5/80p	3,000	製作/頒布	
	コレクション展18 獅子文六展	リーフレット	A5/8p(観音折)	5,000	製作/配布	無料配布

*=財団一般会計予算による自主製作

【施設利用及び利用料金収入の状況】

令和元年度は見込み

(第1期指定管理期間内の実績) ※以下の表は、平均値の算出の関係上、合計欄が合わない箇所がある。

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平均
展覧会入館者数	27,584人	29,578	34,898	35,720	32,362	32,028人
うち有料入館者数	9,329人	14,611	16,932	15,160	12,576	13,722人
会議室利用件数	515回	634	637	744	717	649回
会議室利用者数	13,366人	22,952	18,050	23,192	19,866	19,485人

(第1期指定管理期間内の実績)

(単位：千円)

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平均
観覧料収入	3,868	6,244	8,220	7,068	5,699	6,220
会議室使用料収入	1,906	2,709	2,375	2,880	2,767	2,527
利用料金収入計	5,774	8,953	10,595	9,948	8,466	8,747

(第2期指定管理期間内の実績)

(単位：人)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平均
展覧会入館者数	45,348人	27,973	33,715	46,255	46,205	39,899人
うち有料入館者数	31,550人	16,725	22,019	30,821	31,133	26,449人
会議室利用件数	682回	778	771	703	674	722回
会議室利用者数	19,133人	21,966	22,898	20,494	18,963	20,691人

※H23年度から65歳以上、高校生が有料化

(第2期指定管理期間内の実績)

(単位：千円)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平均
観覧料収入	13,329	5,795	8,640	12,999	12,027	10,558
会議室使用料収入	2,505	3,101	2,991	2,436	2,464	2,699
利用料金収入計	15,834	8,896	11,631	15,435	14,491	12,865

※H23年度から65歳以上、高校生が有料化

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

(第3期指定管理期間内の実績)

(単位：人)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	平均
展覧会入館者数	47,774人	47,857	42,334	45,813	45,945人
うち有料入館者数	31,600人	30,873	28,416	28,853	29,936人
会議室利用件数	748回	735	818	705	752回
会議室利用者数	19,091人	21,388	22,382	20,791	20,913人

※令和は2月末の数値

(第3期指定管理期間内の実績)

(単位：千円)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	平均
観覧料収入	13,019	10,933	11,177	12,067	11,799
会議室使用料収入	2,503	2,648	2,991	2,822	2,741
利用料金収入計	15,522	13,581	14,023	14,889	14,504

※令和は2月末の数値

【事業収入の状況】

(第1期指定管理期間内の実績)

(単位：千円)

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平均
図録販売収益	3,035	2,517	3,505	3,416	3,254	3,145
講演会受講料収入	1,569	951	1,547	1,459	1,634	1,432
文字活字事業収入	1,453	1,652	1,207	1,075	1,053	1,288
事業収入計	6,057	5,120	6,259	5,950	5,941	5,865

※文字活字文化振興事業は20年度から指定管理事業に組み替え

(第2期指定管理期間内の実績)

(単位：千円)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平均
図録販売収益	2,339	2,479	4,526	5,965	3,843	3,830
講演会受講料収入	2,249	1,360	1,673	1,516	2,038	1,767
文字活字事業収入	1,006	809	1,280	1,087	539	944
事業収入計	5,594	4,648	7,479	8,568	6,420	6,542

(第3期指定管理期間内の実績)

(単位：千円)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	平均
図録販売収益	5,592	3,418	3,384	3,425	3,955
講演会受講料収入	2,130	2,420	2,106	2,375	2,258
文字活字事業収入	315	298	225	264	276
事業収入計	8,037	6,136	5,715	6,064	6,488

※令和元は2月末の概算数値

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

■Ⅲ-5(2)講演会等の開催(h18-R1)

観覧者に展示内容の理解を深めて貰うため、関連する講演会、講座等を実施しました。

○講演会・講座・朗読会・シンポジウム

会場=展示館ホール (受講料 800~1,000円)

	期 日	講 師	内 容	入場者数
吉屋展	18年4月30日(日)	五大 路子	『徳川の夫人たち』より(朗読)	206人
	5月3日(水・祝)	嶽本野ばら	「吉屋信子の少女小説—『花物語』を中心に」	218人
	5月6日(土)	新井 純	『鬼火』『童貞女昇天』(朗読)	116人
	5月13日(土)	伊藤かずえ	『あの道この道』から(朗読)	118人
中野	7月1日(土)	高橋 一清	「作家・中野孝次の生き方—担当編集者28年の思い出」(講座)	294人
俳句	10月14日(土)	長谷川 權	「闘う人、虚子」	286人
	10月21日(土)	村上 護	「山頭火の旅と俳句」	192人
小林	11月19日(日)	青木 玉	「小林勇さんのこと」	227人
		小松美沙子	「一本の道」	
中也	19年4月22日(日)	毬谷 友子	中原中也、富永太郎の詩ほか(朗読)	229人
	4月28日(土)	窪島誠一郎	「富永太郎の詩絵のこと」	179人
	5月6日(日)	高橋 睦郎	「なぜ中原中也か」	199人
埴谷	10月7日(日)	島田 雅彦	「100年後のぷふい」	208人
	10月13日(土)	立石 伯	「21世紀に生きる『死霊』」	101人
	10月20日(土)	寺田 農 奥澤 竹彦(音楽)	「死霊」第5章「夢魔の世界」から(朗読)	150人
澁澤展	20年4月27日(日)	三浦 雅士	「澁澤龍彦と小林秀雄」	122人
	5月3日(土・祝)	高橋 睦郎 澁澤 龍子(ゲスト)	「最高のホスト」 ゲスト対談「シブサワ素のまま」	273人
	5月5日(月・祝)	四谷シモン	「澁澤さんと人形」	304人
	5月10日(土)	平出 隆	「夢のかたち」	142人
台湾文学展	6月14日(土)	藤井 省三 紀田順一郎	対談「台湾文学の魅力」 (共催：国立台湾文学館、台湾行政院文化建設委員会)	103人
	6月15日(日)	張 良澤	「台湾における梁啓超と呉新榮」 —日本統治下のある中国知識人と台湾知識人の台湾新旧文学に対する影響(共催：同 上)	102人
	7月5日(土)	辻原 登	「台湾の文学と友人たちに寄せて」 (共催：同 上)	55人
	7月13日(日)	黄 英哲	「台湾の『藤野先生』—台湾における魯迅文学—」(共催：同 上)	49人
堀田展	10月11日(土)	宮崎 駿	「方丈記私記と私」	242人
	11月15日(土)	夏八木 勲	「方丈記私記」から(朗読)	215人
	11月16日(日)	紅野 謙介 堀田百合子(ゲスト)	「堀田善衛と上海」 ゲスト対談	204人
子規から虚子	21年3月7日(土)	稲畑 汀子	「虚子俳句の変遷」(共催)	270人
	3月20日(金・祝) (シンポジウム①)	有馬朗人、稲畑汀子 大串章、深見けん二	「花鳥諷詠」(共催) 稲岡長(コーディネーター)	223人
	3月28日(土)	小沢 昭一	「小沢昭一的俳句のこころ」(共催)	228人
	4月4日(土) (シンポジウム②)	稲畑廣太郎、今井肖子 岸本尚毅、筑紫磐井	「花鳥諷詠」(共催) 稲岡長(コーディネーター)	167人

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

○講演会・講座・朗読会・シンポジウム 2

	期 日	講 師	内 容	入場者数
子規	4月18日(土) (シンポジウム③)	今井千鶴子、金子兜太、辻桃子、安原葉	「虚子十句」(共催) 稲畑汀子(コーディネーター)	250人
鷗外展	4月29日(水・祝)	千葉 俊二	講座「鷗外を読む」 「雁」	120人
	5月4日(月・祝)	佐藤 慶	「舞姫」(朗読)	258人
	5月9日(土)	加賀 乙彦	「私の鷗外」	222人
	5月17日(日)	小泉浩一郎	講座「鷗外を読む」 「高瀬舟」	129人
	5月24日(日)	小川 康子	講座「鷗外を読む」 「文づかひ」	74人
中島展	7月5日(日)	紀田順一郎	「書齋派作家 中島敦－読書と散歩－」	180人
	7月18日(土)	加賀美幸子 有富裕子(解説)	「山月記」 「名人伝」(朗読) (共催：中島敦の会)	249人
	7月19日(月・祝)	吉崎 一衛	「中島敦の文学－中国文学との関わりから－」	190人
乱歩	10月3日(土)	小林 信彦	「乱歩の二つの顔」	174人
	11月1日(日)	寺田 農	「D坂の殺人事件」(朗読)	233人
時雨	12月13日(日)	平野 啓子	「烏瓜の花」(朗読) (共催：NPO現代女性文化研究所)	187人
二葉	22年4月3日(土)	十川 信介	「二葉亭の道」	112人
城山展	4月29日(木・祝)	井上 紀子 聞き手 野見山陽子(展示担当)	「素顔の城山三郎」	216人
	5月1日(土)	澤地 久枝	「語りつぐべきこと」	282人
	5月9日(日)	渡辺 淳一	「城山三郎の世界－熟年革命」	256人
開高展	6月27日(日)	奥本大三郎	「開高健とアマゾンの自然」 (共催：NPO 法人開高健記念会)	176人
	7月17日(土)	佐野 眞一	「開高文学の魅力」	241人
長崎	9月5日(日)	西本 鶏介	「長崎源之助文学の魅力」	73人
八雲展	10月9日(土)	東 雅夫	「小泉八雲と日本の怪談」	125人
	10月31日(日)	小泉 凡	「ラフカディオ・ハーンと21世紀」	236人
	11月3日(水・祝)	辻原 登	「多面立方体作家、ハーン －グロテスクな優しさの系譜」	216人
義秀	23年2月5日(土)	清原 康正	「峻烈の生と文学魂」	47人
	2月19日(土)	春名 徹	「絶筆『芭蕉庵桃青』の周辺」	46人
層雲	4月9日(土)	復本 一郎	「荻原井泉水著『自由律俳句入門』 を読む」	92人
遠藤展	4月29日(金・祝)	加賀 乙彦	「遠藤周作さんと私」	278人
	5月29日(日)	妹尾 河童	「河童が語る遠藤周作」	195人
	5月5日(木・祝)	兼子 盾夫 富岡幸一郎ほか	「遠藤周作を21世紀に読む」	218人
	5月14日(土)	森 一弘	「遠藤周作の、西欧世界との遭遇、キリスト教との遭遇－作品『留学』から『沈黙』へ『沈黙』から『深い河』へ－」	269人
	5月22日(日)	高橋千劔破 神田 蘭(講談)	「信長の愛した女たち 遠藤周作の歴史小説から」	189人
安野	8月28日(日)	池内 紀 松田 哲夫	「ミスタ・アンノの魅力と偉大」	182人

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

○講演会・講座・朗読会・シンポジウム 3

	期 日	講 師	内 容	入場者数
林 展	10月16日(日)	太田 治子	「林芙美子の愛のかたち 『浮雲』をとおして」	242人
	11月5日(土)	川本 三郎	「映画の中の女性たち－ 『放浪記』『晩菊』『浮雲』『めし』」	267人
万 筆	2月19日(日)	出久根達郎	「『文字を書く』ということ」 (兼:「私の本について話そう」37)	253人
中 蘭 展	24年3月18日(日)	立石 伯	「歴史と記録の闇を透視する眼 －蘇る中蘭英助の文学魂－」	70人
	3月31日(土)	新保 博久	「中蘭版スパイ・ミステリーを いま読む意義」	54人
茂 吉 展	5月3日(木・祝)	尾崎左永子	「茂吉先生の秀歌とわたくし」	233人
	5月6日(日)	三枝 昂之	「茂吉が生きた時代」	229人
	5月12日(土)	斎藤 由香	「イキイキと元気で生きる 『どくどくマンボウ家の素顔』」	304人
	5月20日(日)	岡井 隆	「斎藤茂吉とその師友たち」	266人
	5月26日(土)	品田 悦一 今野 寿美他	「『絵筆とことば』ゴッホ・ヤスパース ・茂吉 他」	147人
重 治 寺 村 展	7月14日(土)	林 淑 美	「中野重治の昭和十年代 『愛しき者へ』の時代」	67人
	8月18日(土)	和歌山静子	「王さまのなかの寺村さん」 (兼:「私の本について話そう」37)	78人
藤 村 展	8月25日(土)	永井 郁子	「寺村輝夫・永井郁子の おはなし会」	127人
	10月27日(土)	十川 信介	「夜明け前」	162人
	11月3日(土・祝) 11月10日(土)	下山 嬢子 堀江 敏幸	「家」 「言葉の『継立て』－藤村の散文 をめぐって」	86人 166人
ひ さ し 展	25年4月27日(土)	井上ユリ、松山巖	「ひさしさんとの23年」	266人
	5月19日(日)	小森 陽一	「『ユートピア』と井上ひさし文学」	251人
	5月26日(日)	扇田 昭彦	「評伝劇と音楽劇」	174人
	6月1日(土)	辻 萬長	「言語生涯」『ふかいことを おもしろく』他(朗読)	232人
中 也 展	6月16日(日)	安原 喜秀、 中原 豊	「人間・安原喜弘とその時代」	119人
	6月30日(日)	庄司 達也	「蓄音機、SPレコードで聴く －中原中也が愛でた音楽たち」	70人
	7月21日(日)	蜂飼 耳	「手紙から聞こえる言葉」	123人
賢 治 展	9月7日(土)	司 修	「賢治の絵本を語る」 (兼:「私の本について話そう」38)	186人
	9月21日(土)	司 修	「小さな絵本をつくりましょう」 ワークショップ(中会議室)	18人
鏡 花 展	10月13日(日)	吉田 昌志	「『風流線』の世界－鏡花の長篇小説－」	57人
	11月2日(土)	朝吹真理子、 松村友視	「鏡花を読むよろこび」	210人
	11月9日(土)	市川 祥子	「『天守物語』の演劇性」	46人
黒 岩	26年2月22日(土)	伊集院 静	「黒岩重吾の気骨」 (兼:「私の本について話そう」40)	238人
	3月9日(日)	清原 康正	「黒岩重吾の古代史への情熱」	101人

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

○講演会・講座・朗読会・シンポジウム 4

	期 日	講 師	内 容	入場者数
太 宰 展	4月26日(土)	柳 美里	「私が恋した太宰治」	240人
	5月3日(土・祝)	安藤 宏	「資料から見えてくる太宰文学の魅力」	217人
	5月11日(日)	平田 満	「ヴィヨンの妻」(朗読)	246人
	5月18日(日)	川上未映子	「太宰さん、あなたは何を待っていたのか」	225人
	5月24日(土)	鳥居 邦朗	「戦時下の太宰－浪漫的完成への道」	267人
菊 地 展	6月7日(土)	栗津 則雄	「菊地信義と装幀」 (兼:「私の本について話そう」41)	74人
	7月5日(土)	菊地 信義	「装幀の余白から」	202人
な か え 展	9月6日(土)	巖谷 国土	「絵本のシュルレアリスム－チョコと瀧口修造」	152人
	9月20日(土)	なかえよしを	「オブジェとしての絵本」 (兼:「私の本について話そう」42)	209人
須 賀 展	10月26日(日)	江國香織、湯川豊	「須賀敦子の魅力」 (兼:「文字活字文化の日」講演会)	214人
	11月3日(月・祝)	湯川 豊	「須賀敦子を読む」 (兼:「私の本について話そう」43)	217人
	11月8日(土)	竹下 景子	「ヴェネツィアの宿」から」(朗読)	235人
	11月16日(日)	松家 仁之	「須賀敦子の手紙」	226人
寺 田	27年3月1日(日)	桶谷 秀昭	「文人 寺田透の精神と仕事」	106人
谷 崎 展	4月11日(土)	平野啓一郎	「痴人たちの<恋>と<愛>」	223人
	4月18日(土)	NHK横浜放送局ア ナウンサーほか	「富美子の足」「二人の稚児」(朗読)	192人
	4月26日(日)	千葉 俊二	「『春琴抄』前後－谷崎の松子あて・ 佐藤春夫あて書簡を読む－」	222人
	5月10日(日)	寺田 農	「春琴抄」から(朗読)	244人
	5月23日(土)	金井美恵子	「谷崎潤一郎的幸福 ーあるいは、書 くことの幸福と作家たちー」	224人
中 勘 助 展	6月6日(土)	加賀 乙彦	「『銀の匙』の構造」	233人
	7月4日(土)	黒岩 祐治	「『銀の匙』の授業から学んだこと」 (兼:「私の本について話そう」44)	229人
	7月11日(土)	南谷 朝子	「『銀の匙』を読む」(朗読)	144人
佐 野 展	9月12日(土)	谷川俊太郎 広瀬 弦	「みんなの知らない佐野洋子」 (兼:「私の本について話そう」45)	229人
	9月19日(土)	工藤 直子	「『さのようこ』というひと」	214人
柳 田 展	10月17日(土)	吉増 剛造	「ほとんど遺言といってもよいでしょう (柳田國男の)声のトーンをめぐって」	133人
	10月31日(土)	山折 哲雄	「柳田國男さんの魅力童児のように歌 い、翁のように語るー」	222人
	11月7日(土)	京極 夏彦	「柳田國男の視点」 (兼:「私の本について話そう」46)	217人
	10月11日(日) 11月21日(土)	大平 悦子	遠野ことばで聴く「遠野ものがたり」 (朗読)	計146人 計238人

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

○講演会・講座・朗読会・シンポジウム 5

	期 日	講 師	内 容	入場者数
富士 子規 展	28年3月5日(土)	富士川義之 三浦 雅士	「富士川英郎・書物と詩の世界」	127人
	4月15日(土)	長谷川 權	「新しい子規」〈子規をつなぐ①〉	219人
	4月22日(土)	瀬戸口 郁	「子規 最期の一年」〈子規をつなぐ②〉	220人
	4月30日(日)	稲畑汀子、辻原登 長谷川權、藤沢周	子規創始の文章錬成会「山会」〈子規をつなぐ③〉	221人
	5月6日(土)	復本 一郎	「子規の芭蕉」〈子規をつなぐ④〉	215人
	5月20日(土)	三枝 昂之	「正岡子規—文学という夢」〈子規をつなぐ⑤〉	211人
宇野 展	6月3日(土)	奥泉 光 いとうせいこう	「宇野千代『色ざんげ』」(文芸漫談)	149人
	6月24日(土)	尾形 明子	「しなやかな抵抗の人・宇野千代の文学」(兼・友の会講座)	152人
角野 展	9月2日(土)	角野 栄子	「おばけも魔女もおもしろい」 (兼:「私の本について話そう」52)	204人
	9月16日(土)	角野 栄子、 横山眞佐子	「ことばの魔法—かく、きく、はなす」	220人
周五 郎 展	9月30日(土)	NHK横浜放送局アナウ ンサー、キャスター	「横浜サウンド☆クルーズ」公開録音山本周五郎作品朗読会(共催: NHK横浜放送局)	150人
	10月7日(土)	神田 蘭(講談)	周五郎原作「夕靄の中」、赤穂義士伝より「二度目の清書」〈周五郎遍歴①〉	162人
	10月21日(土)	山本 一力	「山本周五郎と私」〈周五郎遍歴②〉	210人
	10月28日(土)	清原 康正	「山本周五郎の魅力」〈周五郎遍歴③〉	100人
	11月12日(日)	五大 路子 (朗読とトーク)	「おたふく」〈周五郎遍歴④〉 トーク「山本周五郎の妻」と横浜と	205人
	11月23日 (木・祝)	戌井 昭人	「青べか物語」「季節のない街」〈周五郎遍歴⑤〉	180人
山川	29年3月4日(日)	坂上 弘	「山川方夫一人と文学の魅力」 (兼:「私の本について話そう」53)	205人
与謝 野 展	4月7日(土)	尾崎左永子	「『恋衣』そして晶子と古典」	206人
	4月14日(土)	竹下 景子	与謝野晶子「新訳源氏物語」から「桐壺」「若紫」	216人
	4月21日(土)	三枝 昂之	「近代を創る—鉄幹晶子の五十年」	227人
	5月5日(土・祝)	今野 寿美	「『みだれ髪』—もうひとつの読み方」	213人
ク ロ ー デ ル 展	5月20日(日)	辻原 登	「世界書物の系譜—繻子の靴はどこへ行ったか?」	108人
	5月27日(日)	山本 泰朗、 中條 忍(対談)	「詩人大使の創作を支えた山内義雄」	90人
	6月17日(日)	恩田侑布子、金子美 都子、夏石番矢、芳 賀徹(コーディネーター)	シンポジウム「今に生きる前衛としての古典—詩人大使クロードルの句集百扇帖」をめぐって」	176人
	6月24日(日)	渡邊 守章	クロードルの詩による創作能「薔薇の名—長谷寺の牡丹」上映会	247人

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

○講演会・講座・朗読会・シンポジウム 6

	期 日	講 師	内 容	入場者数
石井展	9月1日(土)	松岡 享子、尾崎真理子(対談)	「石井桃子から手渡されたもの」	233人
	9月15日(土)	尾崎真理子	「石井桃子と『幻の朱い実』」 (兼:「私の本について話そう」54)	215人
寺山修司展	9月30日(日)	J・A・シーザー、田中未知、祖父江慎、三浦雅士(司会)	「寺山修司の現場」	169人
	10月7日(日)	三上博史(朗読とトーク)、田中未知(トーク)	「地獄篇=悲しき自伝/長い遺書」	227人
	10月20日(土)	NHK横浜放送局アナウンサー、キャスター	「横浜サウンド☆クルーズ」公開録音寺山修司作品朗読会(共催: NHK横浜放送局)	140人
	10月21日(日)	J・A・シーザー、幾原邦彦、三浦雅士(聞き手)	「少年少女たちの行方—寺山修司の21世紀」	199人
	11月17日(土)	三浦 雅士	「ベジャール/テラヤマ/ピナ・バウシュ」	217人
花田	31年 2月9日(土)	四方田犬彦	「前衛と韜晦(ねこかぶり)」	112人
清張展	4月6日(土)	長塚 京三	「或る『小倉日記』伝」(朗読)	226人
	4月13日(土)	保阪 正康	「松本清張史観と昭和史」	220人
	4月28日(日)	阿刀田 高	「松本清張を推理する」	228人
江藤	元年6月1日(土)	上野千鶴子	「戦後批評の正嫡 江藤淳」	219人
	6月8日(土)	高橋源一郎	「江藤淳になりたかった」	216人
西巻	9月1日(日)	西巻 茅子	「50年以上絵本を描いてきて」	268人
	9月15日(日)	関谷 裕子	「西巻茅子先生とこぐま社の絵本作り」	253人
中島敦展	10月5日(土)	細田 守、池澤 夏樹	「映画『バケモノの子』と中島敦作品」	166人
	10月9日(水)	野村萬斎、藤原道山(伴奏)、池澤夏樹	「野村萬斎、『敦』を語る。」	210人
	10月20日(日)	阿部 公彦、中島 京子	「中島敦 あの名場面」(「日本文学 あの名場面」連載記念講演会)	122人
	11月4日(月・振休)	池澤 夏樹	「世界文学としての中島敦」	205人
	11月17日(日)	山下 真史	「中島敦と同時代の文学」	177人

○説明会及びギャラリートークの開催

会場=中会議室(展示説明会)及びエントランスホール(無料)

	展 示 名	解 説 者	期 日 等	入場者数
18	吉屋信子展	展示担当者	5月21日, 27日の計2回実施(展示説明会)	82人
	俳句 その魅力展	展示担当者	11月4日, 4日の計2回実施(展示説明会)	46人
19	中原中也と富永太郎展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計6回実施	262人
	佐藤さとる展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計8回実施	142人
	埴谷雄高『死霊』展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計7回実施	127人
20	澁澤龍彦回顧展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計6回実施	103人
	かこさとし展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計7回実施	132人
	堀田善衛展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計2回実施	19人

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

○説明会及びギャラリートークの開催 会場=中会議室(展示説明会)及びエントランスホール(無料)

	展 示 名	解 説 者	期 日 等	入場者数
21	森鷗外展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計4回実施	163人
	中島敦展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計4回実施	133人
	茂田井武展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計3回実施	34人
	大乱歩展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計6回実施	199人
	長谷川時雨展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計3回実施	12人
22	城山三郎展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計6回実施	175人
	開高健の世界展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計3回実施	81人
	長崎源之助展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計4回実施	70人
	小泉八雲展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計8回実施	372人
23	遠藤周作展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計5回実施	228人
	漱石と文人たちの書画展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計3回実施	76人
	安野光雅展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計3回実施	134人
	林芙美子展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計6回実施	196人
	作家と万年筆展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計3回実施	80人
	中菌英助展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計4回実施	49人
24	斎藤茂吉展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計6回実施	245人
	中野重治の手紙展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計3回実施	54人
	島崎藤村展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計5回実施	175人
	添田啞蟬坊・知道展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計3回実施	55人
25	井上ひさし展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計7回実施	383人
	『中原中也の手紙』展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計4回実施	83人
	賢治+司修注文の多い展覧会	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計2回実施	35人
	泉鏡花展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計7回実施	140人
	黒岩重吾展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計4回実施	31人
26	太宰治展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計7回実施	285人
	菊地信義展	展示担当者	開催期間中の日曜日 に計4回実施	147人
	なかえよしを+上野紀子展	展示担当者	開催期間中 に計2回実施	87人
	須賀敦子展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計7回実施	396人
	寺田透展	展示担当者	開催期間中の日曜日 に計4回実施	43人
27	谷崎潤一郎展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計7回実施	250人
	中勘助展	展示担当者	開催期間中の日曜日 に計3回実施	85人
	佐野洋子展	展示担当者	開催期間中 に計4回実施	198人
	柳田國男展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計8回実施	219人
	富士川英郎展	展示担当者	開催期間中 に計4回実施	46人
28	100年目に会う夏目漱石	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計7回実施	473人
	鮎川信夫と「荒地」展	展示担当者	開催期間中の日曜日 に計4回実施	73人
	西村繁男の世界展	展示担当者	開催期間中 に計3回実施	75人
	安岡章太郎展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計8回実施	144人
	井上光晴展	展示担当者	開催期間中 に計3回実施	36人

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

○説明会及びギャラリートークの開催 会場=中会議室(展示説明会)及びエントランスホール(無料)

	展 示 名	解 説 者	期 日 等	入場者数
29	正岡子規展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計8回実施	317人
	宇野千代展	展示担当者	開催期間中の日曜日 に計4回実施	124人
	角野栄子展	展示担当者	開催期間中 に計4回実施	146人
	山本周五郎展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計8回実施	238人
	山川方夫と「三田文学」展	展示担当者	開催期間中の土曜日 に計4回実施	98人
30	与謝野晶子展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計8回実施	355人
	ポール・クローデルと日本展	展示担当者 根岸 徹	開催期間中の日曜日 に計3回実施	107人
	石井桃子展	展示担当者	開催期間中 に計4回実施	186人
	寺山修司展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計8回実施	312人
	花田清輝展	展示担当者	開催期間中の土曜日 に計4回実施	57人
31 元	巨星・松本清張	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計8回実施	277人
	江藤淳展	展示担当者	開催期間中の日曜日 に計3回実施	125人
	西巻茅子展	展示担当者	開催期間中 に計4回実施	78人
	中島敦展	展示担当者	開催期間中の金曜日 に計8回実施	205人
	獅子文六展	展示担当者	開催期間中の土曜日 に計5回実施	29人

※令和元年は1月末まで

【その他の展示関連業務】

○展示複製資料の作成

館蔵資料を中心に常設展等の代替展示物として複製資料の作成を行いました。

年度	製 作 内 容 等	製作点数
18	開高健「日本三文オペラ」原稿など	8件17点
19	島尾敏雄「第一期魚雷艇学生」原稿など	10件19点
20	井上靖「しろばんば」原稿など	10件17点
21	谷崎潤一郎「痴人の愛」原稿など	10件22点
22	中島敦「弟子」原稿、中島敦画自画像など	13件19点
23	有島武郎「溺れかけた兄妹」原稿など	8件12点
24	島崎藤村「桜の実の熟する時」原稿 など	6件16点
25	夏目漱石「達磨渡江図」(旧蔵品・額) など	9件14点
26	太宰治 井伏鱒二宛書簡(結婚誓約書)など	7件14点
27	夏目漱石「三四郎」原稿など	6件10点
28	夏目漱石 [正岡子規へ送りたいる句稿二十二] 原稿など	6件 6点
29	夏目漱石旧蔵品 挿手硯など	8件 9点
30	夏目漱石「道草 十六、十七」原稿など	3件 5点

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

■Ⅲ-5(3)文字活字文化振興事業(h18-r1) (h18, h19は受託事業として実施)

県内の文字・活字文化振興のために講演会、朗読会、朗読コンサート、キッズクラブ事業、映画会等を実施し、読書文化の振興と若年層の活字離れ、文学離れの抑止を図り、同時に県内各所で生涯学習支援活動等を実施しました。

【講演会等】

○文化講演会・カルチャーイベント

共催：(財)はまぎん産業文化振興財団

会場=はまぎんホールヴィアマーレ (受講料 1,200~1500円)

期 日	講 師	内 容	入場者数
18年4月29日(土・祝)	永 六輔	「誰かとどこかで」	478人
19年4月30日(月・振)	浅田 次郎	「『中原の虹』をめぐって」	421人
20年4月19日(土)	長谷川 権	「『おくのほそ道』とは何か」	429人
21年5月16日(土)	平岩 弓枝	「横浜今昔」	322人
10月11日(日)	有馬 稲子	「六条の御息所」	428人
22年4月 4日(日)	岸 恵子	朗読『そうか、もう君はいないのか』 から トーク「ヨコハマ」	472人
10月16日(土)	有馬 稲子	源氏物語朗読会「若菜」 (瀬戸内寂聴訳「源氏物語」から)	406人
23年4月17日(日)	石坂 浩二 加藤 宗哉(聞き手)	「遠藤周作『侍』を読む」	457人
24年4月22日(日)	風間 杜夫	「北杜夫作『楡家の人びと』第1部 から」	392人
25年4月13日(土)	森 ミドリ、 太田 治子	「森ミドリ 文学コンサート 作家 太田治子さんをお迎えして」	367人

○講演会「私の本について話そう」

会場=展示館ホール (受講料 800~1000円)

期 日	講 師	内 容	入場者数
18年4月23日(日)	きむらゆういち	『あらしのよるに』(入場無料) (子ども読書活動推進フォーラム) (共催：県子ども読書推進会議、県教育委員会)	236人
9月18日(月・祝)	夏目房之介	『孫が読む漱石』	231人
19年3月3日(土)	梁 石日	『ニューヨーク地下共和国』	118人
3月18日(日)	斎藤 栄	『湘南太平記』	185人
4月21日(日)	なかえよしを	『ねずみくんのチョッキ』(入場無料) (子ども読書活動推進フォーラム) (共催：県子ども読書推進会議、県教育委員会)	181人
8月4日(土)	佐藤さとる 柴田祐規子(聞き手)	『本朝奇談 天狗童子』	224人
20年2月2日(土)	黒岩比佐子	「『食道楽』と日露戦争」	160人
3月8日(土)	半藤 一利	『昭和史』	239人
8月24日(日)	かこさとし	「あそびのはなし えほんのはなし かがくのはなし」	277人
21年1月17日(土)	出久根達郎	『御書物同心日記』	149人
2月1日(日)	村岡 恵理	『アンのゆりかご 村岡花子の生涯』	202人
8月15日(土)	松居 直	『松居直のすすめる50の絵本 大人のための絵本入門』	113人
9月5日(土)	津島 佑子 陳 玉慧	『あまりに野蛮な』(台湾文学講演会) (共催：国立台湾文学館 協賛：横浜国立大学)	77人

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

期 日	講 師	内 容	入場者数
22年2月28日(日)	三木 卓	『ほろびた国の旅』『懐かしき友への手紙』	96人
3月14日(日)	太田 治子	『明るい方へ 父・太宰治と母・太田静子』	220人
5月15日(日)	真山 仁	『プライド』	180人
9月23日(木・祝)	角野 栄子	『魔女の宅急便』	150人
23年1月29日(土)	尾崎左永子	『尾崎左永子の語る百人一首の世界』	218人
7月2日(土)	青木 奈緒	『幸田家のきもの』	180人
7月23日(土)	夏目房之介	「孫からみた漱石の書画」	197人
12月3日(土)	司 修	『本の魔法』	95人
25年12月15日(土)	江國 香織 鄭 梨賢 辻原 登	日韓文化交流基金創立30周年記念事業 日本と韓国で人気の女性作家による、自作朗読と鼎談 「ことばの調べにのせて」	199人
28年8月28日(土)	いしいしんじ	「『港、モンテビデオ』+その場小説「港」」	73人
29年6月10日(土)	山田 宗睦	「日本書紀のズイから世界をのぞく」	188人

○俳句大会の開催

「俳句 その魅力展」を記念して俳句大会を開催。

選評会会場=展示館ホール (投句料 一般の部2,000円 ジュニアの部200円)

期 日	講 師	内 容	受講者数
18年10月20日(金)	星野 椿	一般の部 投句選評会・講話	93人
10月22日(日)	復本 一郎	ジュニアの部 投句選評会・講話	48人

○子ども読書活動推進

共催：神奈川県子ども読書推進会議、神奈川県教育委員会、(財)はまぎん産業文化振興財団

会場=展示館ホール (入場無料)

期 日	講 師	内 容	受講者数
18年10月28日(土)	かこさとし	「子ども、遊び、絵本」	402人
19年10月27日(土)	中川李枝子	「たくさんのおともだち」	384人

○子ども読書活動推進フォーラム(新)

※h20～24は当館後援(会場=県民センター)、h25～当館共催 会場=展示館ホール (入場無料)

期 日	講 師	内 容	受講者数
25年12月21日(土)	末盛千枝子	「絵本はまだ子どもだけのものだと 思いですか?」+事例発表(県立図書館共催)	171人
26年12月6日(土)	山下 明生	「童話への旅」+事例発表(県立図書館共催)	134人
27年12月5日(土)	金柿 秀幸	「絵本をとりまく変化と対応」+事例発表(県立図書館共催)	140人
28年12月3日(土)	角野 栄子	「幼年童話の面白さ」+事例発表(県立図書館共催)	192人
29年12月9日(土)	内田 麟太郎	「わた詩の本」+事例発表(当館後援/会場=県立青少年センター)	
30年12月8日(土)	松居 友	「絵本は愛の体験です」+事例発表(県立図書館共催)	143人
元年12月8日(土)	鈴木まもる	「絵本と鳥の巣の不思議—鳥の巣が教えてくれること」+事例発表(県立図書館共催)	163人

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

○台湾文学講演会

共催：国立台湾文学館 協賛：横浜国立大学

会場=展示館ホール (受講料 800円)

期 日	講 師	内 容	受講者数
21年9月6日(日)	朱 天心	「わたしにとっての日本/日本文学」	42人
9月19日(土)	劉 亮雅 小谷 真理	「台湾のクィア文学と日本のSF、クィア、ファンタジー」	48人
9月20日(日)	紀 大偉	「台湾文学とセクシュアリティ」	43人

○『丸谷才一全集』刊行記念講演会(兼：文字・活字文化の日記念行事)

会場=展示館ホール (受講料 無料)

期 日	講 師	内 容	受講者数
25年10月26日(土)	三浦雅士(講演)、 湯川豊、松家仁之(対談)、辻原登(挨拶)	講演会「作家の秘密・文学の謎」 対談「丸谷さん・その肖像」	130人

○「装幀=菊地信義とある『著者50人の本』展」イベント

会場=エントランス/中会議室 (受講料 無料)

期 日	出 演	内 容	参加者数
26年5月31日(土)	菊地信義、稲川方人、水戸部功(オペレーション)	オープニングイベント「装幀ライブ『ページ=本』の誕生」	134人
8月10日(日)	印刷博物館 印刷の家インストラクター	「活版印刷体験とマイノートづくり」	22人

○飯島耕一没後1年記念事業(共催)

会場=展示館ホール (受講料 無料)

期 日	講師・出演	内 容	受講者数
26年9月14日(日)	八木 忠栄 新倉 俊一 八木忠栄、新倉俊一 暮尾淳、井川博年、 八木幹夫	講演「飯島耕一・人と作品」 講演「飯島耕一とアメリカ」 対談 朗読と鼎談「詩人飯島耕一の詩の魅力を語る」	98人

○戦後70年講演会

会場=展示館ホール (受講料 1,000円)

期 日	講 師	内 容	受講者数
27年8月15日(土)	保阪 正康	「戦争と文学—大岡昇平の作品は何を伝えているか」	175人

○「100年目に出会う 夏目漱石」展 小型記念日付印 押印イベント

会場=展示館ホール (参加料 無料)

期 日	協 力	内 容	参加者数
28年5月3日(火・祝)	横浜港郵便局(窓口営業部)	漱石展開催記念小型記念日付印 押印イベント	199人

○大佛次郎生誕120年記念講演会

共催：大佛次郎記念館

会場=エントランス/中会議室 (受講料 1,000円)

期 日	講 師	内 容	受講者数
29年6月18日(日)	鹿島 茂	「フランス第三共和政と大佛次郎」鹿島茂の直球勝負!!～今、民主主義とは何かを問う	223人
10月9日(月・祝)	辻原 登	「物語作者大佛次郎」	159人

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

○講演会「日本文学 あの名場面」連載記念講演会

共催：神奈川県新聞社

会場=エントランス/中会議室 (受講料 1,000円)

期 日	講 師	内 容	受講者数
30年2月24日(土)	平野啓一郎	「個人の一生と世界史～林京子の文学」	118人

○朗読とシンポジウムの集い『赤い鳥』を語る

共催：『赤い鳥』創刊100年記念事業実行委員会

会場=エントランス/中会議室 (受講料 1,000円)

期 日	講 師	内 容	受講者数
30年9月23日(日・祝)	山根基世(朗読)、佐藤宗子、矢崎節夫、松本育子(パネリスト)、宮川健郎(コーディネーター)	朗読「『赤い鳥』掲載の作品から 有島武郎「一房の葡萄」、シンポジウム「『赤い鳥』が目指したこと」	204人

【文学セミナー】

○文学散歩と湘南国際村・講演会 共催：湘南国際村協会 協賛：三井不動産

会場=湘南国際村センター (参加費 6,000円(18年度)、1,000円(19年度))

期 日	講 師	内 容	受講者数
19年2月25日(日)	新井 満	「いのちについて」(講演と文学散歩)	127人
20年2月10日(日)	養老 孟司	「私の鎌倉・葉山」(講演)	189人

○立命館大学文学部創設90周年・文学部校友会設立10周年立命館京都文化講座「文学の地平—

京都と横浜の物語」 共催 立命館大学文学部

会場 立命館東京キャンパス 参加費(一回)2,000円

期 日	講 師	内 容	受講者数
29年6月17日(土)	中川 成美	「文学を旅する —京都と横浜の物語」(講演)	20人
7月 1日(土)	辻原 登	「『人類』はファンタジー —白川静、文字と文学の世界」(講演)	36人

○立命館京都文化講座「文学の地平—京都と横浜の物語」

期 日	講 師	内 容	受講者数
7月15日(土)	長谷川 権	「文学部で読む日本国憲法」(講演)	29人
7月29日(土)	富岡幸一郎	「京都と横浜—大佛次郎『天皇の世紀』を通して<動乱の時代>を考える」(講演)	27人

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

【文芸朗読会・朗読コンサート・講談会等】

○文芸朗読会／朗読教室

会場=展示館ホール (受講料 1,000円)

期 日	朗 読 者	内 容	入場者数
18年12月24日(日)	篠田 三郎	志賀直哉「網走まで」「或る朝」ほか	227人
19年 6月30日(土)	久米 明	井上靖『敦煌』から (井上靖生誕100年記念文芸朗読会)	231人
20年 9月13日(土)	久米 明	国木田独歩「武蔵野」 (没後100年記念国木田独歩朗読会)	164人
21年 8月16日(日)	平田 満	大岡昇平「野火」から (大岡昇平生誕100年記念文芸朗読会)	192人
21年10月2日(金)	野村万作、野村万之介 野村萬斎、石田幸雄 藤原道山(尺八)	「狂言師、敦を語り読む。」『悟浄出世』 『悟浄歎異』(共催：中島敦の会、学校 法人横浜学園/会場=横浜能楽堂)	456人
22年10月23日(土)	佐野 史郎	「耳なし芳一のはなし」ほか	248人
23年10月8日(土)	紺野美沙子 北村 文典(ゲスト)	林芙美子「放浪記」から +対談「放浪記」が伝えるもの	181人
10月22日(土)	五大 路子	林芙美子「晩菊」「骨」 (兼：文字・活字文化の日記念行事)	207人
24年10月20日(土)	藤村 志保	島崎藤村「ある女の生涯」	234人
25年10月19日(土)	水谷八重子	泉鏡花「義血俠血」	189人
26年 3月15日(日)	小林 大輔	菊池寛「恩讐の彼方に」	184人
28年 1月31日(日)	小林 大輔ほか	宮沢賢治作「よだかの星」 「セロ弾きのゴーシュ」	226人
29年2月23日～3月16 日のうち4日間/3月 26日(日)(発表会)	小林 大輔(講師) ほか	小林大輔朗読教室(会場=中会議室) 「正岡子規 その作品と生涯」(小林大輔 作)、「坊っちゃん」(夏目漱石作)「セロ弾き のゴーシュ」	28人 119人 (発表会)

○高校生限定トークイベント

共催：県高等学校文化連盟図書専門部 協力：県学校図書館員研究会 会場=展示館ホール (受講料 無料)

期 日	講 師	内 容	参加者数
27年12月21日(日)	三上 延	高校生限定トークイベント「三上延『ビブリア古書堂の事件手帖』を語る」	205人
28年12月18日(日)	ヨシタケシンスケ	「高校生による、高校生のためのヨシタケシンスケ・トークイベント」(協力：株式会社PHP研究所、株式会社ブロンズ新社)	171人
29年12月16日(土)	深緑 野分	「高校生による、高校生のための深緑野分トークイベント」(協力：東京創元社、双葉社)	97人
30年12月22日(土)	向井 湘吾	「高校生による、高校生のための向井湘吾トークイベント」(協力：ポプラ社、講談社)	121人

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

○講談会

会場=展示館ホール (受講料 800円)

期 日	朗 読 者	内 容	入場者数
24年1月29日(日)	神田 蘭	「越の海勇蔵出世相撲」「小松姫」ほか	82人
8月12日(日)	神田 蘭	「四谷怪談」「樋口一葉・にぎりえ」	149人
25年8月24日(土)	神田 蘭	林芙美子原作「下町」 三遊亭円朝原作「怪談乳房榎」	133人
26年12月13日(土)	神田 蘭	長谷川伸原作「験の母」 「忠臣蔵」より (長谷川伸生誕130年記念事業)	171人
27年12月12日(土)	神田 蘭	「豊竹呂昇」(長谷川時雨作『近代美人伝』から)「南部坂雪の別れ」(「忠臣蔵」から)	152人
28年11月26日(土)	神田 蘭	「刺青奇偶」(長谷川伸原作)「大高源吾 両国橋の別れ」(「忠臣蔵」から)	129人
29年10月7日(土)	神田 蘭	山本周五郎展のイベント欄に記載	162人
31年2月16日(土)	神田 蘭	泉鏡花原作「琵琶伝」「三代目沢村田之助とへボン先生」	189人

○朗読コンサート (共催: 語りと音楽「花音」)

会場=展示館ホール

(入場無料)

期 日	出 演 者	内 容・会 場	入場者数
18年10月25日(水)	語りと音楽「花音」	「俳句その魅力展」俳人たちの作品からほか (会場:文学館ホール)	135人
19年9月9日(日)	語りと音楽「花音」	「だれも知らない小さな国」ほか (会場:文学館ホール)	138人
20年2月16日(土)	語りと音楽「花音」	「食道楽」から ほか (会場:文学館ホール)	120人
8月19日(火)	語りと音楽「花音」	「だるまちゃんとてんぐちゃん」ほか (会場:川崎市中野島こども文化センター)	12人
8月20日(水)	語りと音楽「花音」	「だるまちゃんとてんぐちゃん」ほか (会場:鎌倉市生涯学習センター)	16人
8月27日(水)	語りと音楽「花音」	「だるまちゃんとてんぐちゃん」ほか (会場:小田原・鈴鹿かまぼこの里 鈴の音ホール)	50人
11月2日(日)	語りと音楽「花音」	「だるまちゃんとてんぐちゃん」ほか (会場:秦野市立図書館)	80人
9月15日(月・祝)	語りと音楽「花音」	「だるまちゃんとてんぐちゃん」ほか (会場:文学館ホール)	235人
21年8月22日(土)	語りと音楽「花音」 藤村俊介(チェロ)	「セロひきのゴーシュ」ほか (会場:文学館ホール)	194人
10月25日(日)	語りと音楽「花音」 久保寺敏郎(チェロ) 後藤暦(特別ゲスト)	「セロひきのゴーシュ」ほか (共催: 語りと音楽「花音」、秦野市立図書館) (会場:秦野市立図書館)	72人
22年8月7日(土)	語りと音楽「花音」	「汽笛」 ほか	248人

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

○朗読コンサート（共催：語りと音楽「花音」） 会場=展示館ホール（入場無料）

期 日	出 演 者	内 容・会 場	入場者数
23年8月6日(土)	語りと音楽「花音」	「口語訳 即興詩人」ほか	142人
9月24日(土)	森 ミドリほか	「安野先生と私」	240人
24年8月11日(土)	語りと音楽「花音」	「おしゃべりなたまごやき」ほか	145人
25年8月10日(土)	語りと音楽「花音」	「注文の多い料理店」ほか	137人
26年10月4日(土)	語りと音楽「花音」	須賀敦子「塩一トンの読書」ほか	108人
28年7月18日(月・祝)	語りと音楽「花音」	茨木のり子「根府川の家」「歳月」ほか	185人
29年7月22日(土)	語りと音楽「花音」	「魔女の宅急便」ほか	88人
30年9月22日(土)	語りと音楽「花音」	「ノンちゃん雲に乗る」ほか	214人
元年9月21日(土)	語りと音楽「花音」	「わたしのワンピース」ほか	205人

○コンサート及び演奏会、レコード鑑賞等 会場=中会議室／展示館ホール（600～1000円）

期 日	講 師	内 容	入場者数
20年8月2日(土)	漢唐楽府	趁賞花燈、梅花操（会場：ホール） （共催：台湾文学館、台湾行政院文化建設委員会）	94人
21年5月30, 31日 (土, 日)	横浜市立横浜商業高等学校	「横浜市歌」ほか （会場：港の見える丘公園）	819人
24年12月1日(土)	庄司 達也	「蓄音機、SPレコードで聴く 一芥川龍之介が愛でた音楽たち」 （芥川龍之介生誕120年記念イベント）	49人
25年1月26日(土)	都 一中	「芥川龍之介の一中節」 一知られざる名曲『恋路の八景』 （芥川龍之介生誕120年記念イベント）	194人
3月17日(日)	なぎら健壺	なぎら健壺トーク&ライブ ～明治・大正演歌の魅力～	245人
4月6日(土)	土取 利行	「土取利行・語りと弾き唄い ～啞蟬坊・知道演歌の底流にあるもの～」	213人
6月30日(日)	庄司 達也	講座「蓄音機、SPレコードで聴く一 中原中也が愛でた音楽たち」	70人

○連句会

共催：東海大学文学部文芸創作学科 後援：月刊「望星」 会場=展示館ホール（無料）

期 日	出 演	内 容	入場者数
26年11月 1日(土)	小島ゆかり、辻原登、 長谷川權	「まっ逆さまの巻 歌仙で遊ぼう！」（開館30周年記念連句会）	110人
27年10月25日(日)	同 上	「失はれた手袋の巻 歌仙で遊ぼう！」	90人
28年10月23日(日)	同 上	「ドローン、北京の空を飛ぶの巻」	87人
29年11月 4日(土)	同 上	「ほめられず苦にもされないナマコの巻」	76人
30年12月16日(日)	同 上	「小脇に新書の巻」	77人
元年12月21日(土)	同 上	「ドラゴン退治の巻」 （協力：東海大学文化社会学部文芸創作学科）	114人

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

【かなぶんキッズクラブ事業】

○夏休み子ども映画会の開催

会場=展示館ホール（入場無料）

期 日	上 映 作 品	入 場 者 数
18年7月27日（木）	「森のおじいさんと3つのものがたり」 「リトルツインズ」	65人
7月28日（金）	「プーさんと大あらし」「三ねん寝太郎」	90人
7月29日（土）	「オバケちゃん」「ふたりのローラ」	39人
19年8月16日（木）	「ひろしまのエノキ」「赤毛のアン」	25人
8月17日（金）	「トビウオのぼうやはびょうきです」 「ぼくは王さま」ほか	37人
8月18日（土）	「雪の女王」ほか	30人
20年8月21日（木）	「からすのパンやさん」ほか	213人
8月22日（金）	「だるまちゃんとてんぐちゃん・ だるまちゃんとかみなりちゃん」ほか	187人
8月23日（土）	「だるまちゃんとだいこくちゃん」ほか	72人
21年8月12日（水）	「ピーターと狼」ほか	56人
8月13日（木）	「生きているってすばらしい」ほか	44人
8月14日（金）	「やさしいライオン」ほか	71人
22年8月12日（木）	「つりばしわたれ」ほか	112人
8月13日（金）	「ひろしまのエノキ」ほか	81人
23年8月11日（木）	「みにくいあひるの子」ほか	164人
8月12日（金）	「はだかの王様」ほか	143人
24年3月24日（土）	「かしのきホテル」ほか	33人
3月25日（日）	「こぎつねコンとこだぬきポン」ほか	50人
8月16日（木）	「王さまでかけましよう」ほか	194人
8月17日（金）	「王さまライオンとカエル」ほか	180人
25年3月30日（土）	「じごくのそうべえ」ほか	70人
3月31日（日）	「7ひきの子やぎ」ほか	70人
8月16日（金）	「注文の多い料理店」ほか（当日2回上映）	306人
8月17日（土）	「セロひきのゴーシュ」ほか	111人
26年3月29日（土）	「オバケちゃん」ほか	72人
3月30日（日）	「狼森とざる森、ぬすと森」ほか	66人
8月22日（金）	「ねずみくんのチョッキ」ほか（当日2回上映）	343人
8月23日（土）	「またまた！ねずみくんのチョッキ」ほか	152人
27年3月21日（土・祝）	「ライオンそらをとぶ」ほか	93人
3月22日（日）	「ムーミン ぼくは王様だ！！」ほか	63人
8月20日（木）	「がんばれスイミー」ほか（当日2回上映）	272人
8月21日（金）	「はれときどきぶた」ほか	81人
28年3月20日（日）	「やまなし」ほか	93人
7月27日（水）	「こぎつねコンとこだぬきポン」ほか	157人
7月28日（木）	「ことりのふえ」「腹ぺこ童子」ほか	134人
29年3月30日（木）	「しあわせの王子」ほか	151人
8月3日（木）	「魔女の宅急便」（角野栄子原作）	208人
8月4日（金）	「うかれバイオリン」「オバケちゃん」ほか	180人

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

○夏休み子ども映画会の開催

会場=展示館ホール (入場無料)

期 日	上 映 作 品	入 場 者 数
30年3月28日(水)	「とらねこめいたんてい」「双子の星」ほか	150人
8月15日(水)	「プーさんとはちみつ」ほか	117人
8月16日(木)	「ピーターうさぎのおるすばん」ほか	132人
31年3月27日(水)	「空をとんだポウさん」ほか	120人
元年8月21日(水)	「トッピーと森の仲間たち」ほか	113人
8月22日(木)	「おかあさんのふえ」ほか	166人

○「紙芝居がはじまるよ！」の開催

会場=展示館中会議室 (入場無料)

期 日	出 演	内 容	入場者数
18年3月31日(土)	山下 康	「北風のくれたテーブルかけ」ほか	48人
19年8月12日(日)	山下 康	「つくえのうえのうんどうかい」ほか	40人
20年8月17日(日)	山下 康	「なくなかわいおさとちゃん」ほか	54人
22年3月28日(日)	山下 康	「おいの森とざる森、ぬすと森」ほか	43人
8月22日(日)	紙芝居文化推進協議会	長崎源之助作品から	32人
23年8月21日(日)	山下 康	「人魚ひめ」ほか	83人
24年3月20日(火・祝)	山下 康	「もちもちの木」ほか	63人
25年3月23日(土)	山下 康	「三つのたから」ほか	50人
8月25日(日)	山下 康	「なめとこ山のくま」ほか	50人
26年3月23日(日)	山下 康	「ふうたのはなまつり」ほか	38人
8月17日(日)	山下 康	「ほのいたいおまわりさん」ほか	77人
27年3月28日(土)	山下 康	「はるがくる」ほか	50人
8月12日(水)	山下 康	「これ なあに」ほか	69人
28年3月19日(土)	山下 康	「どんぐりとやまねこ」ほか	49人
7月30日(土)	横浜紙芝居普及会	かなぶんひろば 紙芝居 「ありのえんそく」ほか	58人
8月13日(土)	横浜紙芝居普及会	〃	59人
8月19日(金)	山下 康	「ぶたさん おでかけ」ほか	90人
29年3月20日(月・祝)	山下 康	「おかあさんのはなし」ほか	38人
8月18日(金)	山下 康	「あしあとだあれ」ほか	51人
30年3月30日(金)	山下 康	「ふしぎないしのおの」ほか	54人
8月 8日(金)	山下 康	「ほしのおひめさま」ほか	29人
31年3月29日(金)	山下 康	「となりのさくら」ほか	53人
元年8月 8日(木)	山下 康	「くれよんさんのけんか」ほか	70人

○読み聞かせ会「絵本であそぼ!」、ワークショップほかの開催 会場=展示館ホール/中会議室 (入場無料)

期 日	出 演	内 容	入場者数
18年8月26日(土)	よこはま文庫の会	「11ぴきのねこ」ほか	57人
19年8月25日(土)	よこはま文庫の会	「そらいろのたね」ほか	37人
20年8月30日(土)	よこはま文庫の会	「だるまちゃんとてんぐちゃん」ほか	102人
21年9月5日(土)	よこはま文庫の会	「茂田井武関連作品ほか」ほか	23人
22年8月28日(土)	よこはま文庫の会	「きつねのはぶらし」ほか	43人
23年8月27日(土)	よこはま文庫の会	「安野光雅作品ブックトーク」ほか	53人
24年8月21日(火)	高原香世/アジア 絵本ライブラリー	絵本を読んでもらってから、「王さまの ステンドグラス」を作ろう!	240人

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

○読み聞かせ会「絵本であそぼ!」、ワークショップほかの開催 会場=展示館ホール/中会議室(入場無料)

期 日	出 演	内 容	入場者数
8月22日(水)	和歌山静子/アジア 絵本ライブラリー他	影絵「王さまびっくり」ほか	121人
9月8日(土)	職員	王さまかるた大会	25人
9月15日(土)	よこはま文庫の会	寺村輝夫作品のブックトーク 他	26人
9月22日(土・祝)	職員	王さまかるた大会	37人
25年8月31日(土)	よこはま文庫の会	読み聞かせ、司修作品のブックトーク 他	47人
26年8月10日(日)	職員	「ねずみくんのテーブルモビールをつくろ う!」	75人
8月30日(土)	よこはま文庫の会	読み聞かせ、パネルシアターほか	40人
27年8月29日(土)	よこはま文庫の会	読み聞かせ、大型絵本ほか	75人
28年8月27日(土)	よこはま文庫の会	絵本読み聞かせ ほか	74人
29年8月26日(土)	よこはま文庫の会	読み聞かせ ほか	44人
29年8月の毎水曜日	職員	「世界でひとつだけの缶バッジ」	計78人
30年8月25日(土)	よこはま文庫の会	読み聞かせ ほか	38人
元年8月24日(土)	よこはま文庫の会	読み聞かせ ほか	55人

○夏休み子ども向け行事の開催(ミュージアム・クイズラリーーよこはま 他)

期 間	参加館	来館者数
18年7月17日～8月31日	県立歴史博物館など中区・西区の17館	122人
19年7月14日～9月2日	県立歴史博物館など中区・西区の16館	207人
20年7月19日～8月31日	県立歴史博物館など中区・西区の16館	182人
21年7月18日～9月1日	県博など中区・西区・旭区・金沢区内の21館	81人
22年7月17日～8月31日	県博など中区・西区・旭区・金沢区内の16館	136人
23年7月16日～8月31日	県博など中区・西区・旭区・金沢区内の15館	219人
8月12日(金)	よこはま2011『昭和30年代を探しに』関連行事ミュージアム ツアー 第1回 山手・山下コース	6人
24年7月20日～8月31日	県博など中区・西区・旭区・金沢区内の15館	219人
8月11日～8月31日	寺村輝夫の王さまとアフリカ 岩崎博物館、横浜人形の家との3館スタンプラリー	641人
25年7月13日～9月1日	県博など中区・西区・旭区・金沢区内の15館	214人
8月2日(金)	よこはま2012 ミュージアム・クイズラリーー関連行事 ミュージアムツアー神奈川近代文学館～大佛次郎記念館コース	5人
26年7月19日～8月31日	県博など中区・西区内の14館	234人
27年7月18日～8月30日	県博など中区・西区内の11館	258人
28年7月16日～8月31日	ミュージアムミッションー博物館からの挑戦状 中区内の6施設及び団体	598人
29年7月22日～8月31日	ミュージアムミッションー博物館からの挑戦状 中区内の6施設及び団体	263人
30年7月21日～8月31日	ミュージアムミッションー博物館からの挑戦状 中区内の6施設及び団体	73人
元年7月20日～8月31日	ミュージアムミッションー博物館からの挑戦状 中区内の6施設及び団体	185人

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

○夏休み文学館スタンプラリーの開催

期 間	参加館	来館者数
23年8月 9日～8月31日	町田市民文学館ことばらんど、鎌倉文学館との共催夏の文学館スタンプラリー（共通パスポート）	32組/ 3館延126人
24年7月21日～9月23日	町田市民文学館ことばらんど、鎌倉文学館との共催夏の文学館スタンプラリー	132組/3館 延410人
25年7月13日～9月29日	鎌倉文学館、世田谷文学館、町田市民文学館ことばらんどとの共催夏の文学館スタンプラリー	140組/4館 延2,820人
26年7月12日～9月28日	鎌倉文学館、町田市民文学館ことばらんどとの共催夏の文学館スタンプラリー	284人/3館 延べ1,151人
27年7月11日～9月27日	鎌倉文学館、町田市民文学館ことばらんどとの共催夏の文学館スタンプラリー	373人/3館 延べ1,594人
28年7月16日～9月25日	鎌倉文学館、町田市民文学館ことばらんどとの共催夏の文学館スタンプラリー	294人/3館 延べ1,294人
29年7月15日～9月24日	鎌倉文学館、町田市民文学館ことばらんどとの共催夏の文学館スタンプラリー	333人/3館 延べ1,333人
30年7月14日～9月24日	鎌倉文学館、町田市民文学館ことばらんどとの共催夏の文学館スタンプラリー	326人/3館 延べ1,326人
元年7月13日～9月23日	鎌倉文学館との共催夏の文学館スタンプラリー	794人/2館 延べ2,294人

○博物館実習・インターンシップ

各大学及び機関等から、博物館実習生とインターンシップ実習生を受け入れた。

期 間	大学及び機関名	来館者数
18年7月25日～7月30日の6日間	学習院大学、聖心女子大学など9大学	10人
7,8月の11日間	関東学院大学、県立湘南高校職員など2機関	2人
19年7月31日～8月5日の6日間	桜美林大学、関東学院大学など7大学	10人
8月の2日間	関東学院大学	1人
20年8月5日～8月10日の6日間	青山学院大学、国士舘大学など7大学	10人
21年8月4日～8月9日の6日間	お茶の水女子大学など9大学	10人
22年8月2日～8月7日の6日間	専修大学など7大学	10人
23年8月2日～8月7日の6日間	桜美林大学など9大学	10人
24年8月7日～8月12日の6日間	桜美林大学など9大学	10人
25年8月6日～8月11日の6日間	桜美林大学など8大学	9人
8月8日,9日,28日の3日間	県立希望ヶ丘高等学校ほか教員	3人
26年7月29日～8月3日の6日間	桜美林大学など8大学	10人
27年7月21日～7月26日の6日間	学習院大学など10大学	13人
7月28日～7月31日の4日間	学習院大学大学院(アーカイブス実習)	1人
28年7月19日～7月24日の6日間	青山学院大学など6大学	9人
8月5日～9月14日のうち23日間	鶴見大学文学部(インターンシップ)	10人
7月26日～7月28日の3日間	県立大師高等学校ほか教員	2人
29年7月18日～7月23日の6日間	青山学院大学など8大学	9人
5月11日～7月30日のうち21日間	鶴見大学文学部(インターンシップ)	8人
8/2日-8/3,8/8-8/10日	県立平沼高等学校ほか教員	2人
30年7月17日～7月22日の6日間	青山学院大学など8大学	9人
8/2日-8/3,8/8-8/10日	県立平沼高等学校ほか教員	2人
元年7月17日～7月22日の6日間	青山学院大学など8大学	10人
7/23日-8/31/10日	県立横須賀高校ほか教員	5人

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

【文字・活字文化の日記念行事】

○記念対談・講演会の開催

会場=ホール (受講料 1,000円)

期 日	出 演	内 容	入場者数
18年10月27日	荒俣 宏 紀田順一郎	「東西読書文化考」	124人
19年10月28日	荒俣 宏 紀田順一郎	「作家と想像力ー幻想怪奇文学の発見」	101人
20年10月26日	川本 三郎 紀田順一郎	「日付のある随想 ー日記文学の魅力」	62人
21年10月24日	紀田順一郎	「江戸川乱歩と少年探偵の夢」	215人

【ビデオ上映会等】

○ビデオ上映会の開催(林京子講演・インタビュー記録ビデオ)

会場=展示館中会議室 (入場無料)

期 日	上 映 作 品	入 場 者 数
18年8月6日	ビデオ上映会「被爆とわたくし」	9人
19年8月9日	ビデオ上映会「被爆とわたくし」	9人
20年8月15日	ビデオ上映会「被爆とわたくし」	13人
21年8月11日	ビデオ上映会「被爆とわたくし」	8人
22年8月10日	ビデオ上映会「被爆とわたくし」	15人
23年8月9日	ビデオ上映会「被爆とわたくし」	25人
24年8月5日	ビデオ上映会「被爆とわたくし」	10人
25年8月3日	ビデオ上映会「被爆とわたくし」	8人
26年8月9日	ビデオ上映会「被爆とわたくし」	5人
27年8月9日	ビデオ上映会「被爆とわたくし」	37人
28年8月9日	ビデオ上映会「被爆とわたくし」	13人
29年8月9日	ビデオ上映会「被爆とわたくし」	41人
30年8月9日	ビデオ上映会「被爆とわたくし」	13人
元年8月9日	ビデオ上映会「被爆とわたくし」	30人

○記録DVD上映会の開催

会場=展示館中会議室 (入場無料)

期 日	上 映 作 品	入 場 者 数
20年1月6日	「露伴、茂吉、寅彦と小林勇展」	24人
21年10月9, 16, 23日	乱歩歌舞伎「江戸闇妖鉤爪ダイジェスト」	19, 14, 15人
24年6月23日 7月16日	「偲ぶ・中野重治」	27, 56人

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

【文芸映画会及び映画会の開催】

○文芸映画を観る会ほかの映画会

(共催:文芸映画を観る会 *印は単独主催)

会場=展示館ホール (料金 各日600~800円)

期 日	内 容	入場者数
18年7月15日 (土)	「ハラスのいた日々」(中野孝次展記念映画会)	216人
7月16日 (日)	〃	236人
11月30日 (木) *	「或る出版社五十年」ほか(「露伴、茂吉、寅彦と小林勇展」展記念映画会)	36人(200円)
12月1日 (金) *	「教室の子供たちー学習指導への道ー」ほか(同 上)	31人(200円)
12月9日 (土)	「風船」(原作:大佛次郎)	98人
12月10日 (日)	〃	132人
19年3月10日 (土)	「沓掛時次郎」(原作:長谷川伸)	136人
3月11日 (日)	〃	69人
7月14日 (土)	「黒い潮」(原作:井上靖 生誕100年記念井上靖展映画会)	156人
7月15日 (日)	〃	78人
11月10日 (土)	「戦争は終わった」(無限大の宇宙ー埴谷雄高『死霊』展記念映画会)	64人
11月11日 (日)	「白痴」(原作:ドストエフスキー)(同 上)	135人
20年3月15日 (土)	「本日休診」(原作:井伏鱒二)	154人
3月16日 (日)	〃	93人
6月28日 (土)	「珈琲時光」(「台湾文学館の魅力ーその多彩な世界」映画会)	88人
6月29日 (日)	〃	57人
10月18日 (土) *	「風の谷のナウシカ」(堀田善衛展記念映画会)	126人(無料)
11月8日 (土) *	「モスラ」(原作:堀田善衛ほか)(同 上)	55人(無料)
11月9日 (日) *	「風の谷のナウシカ」(堀田善衛展記念映画会)	133人(無料)
21年1月10日 (土)	「時雨の記」(中里恒子生誕100年記念映画会)	203人
1月11日 (日)	〃	126人
4月25日 (土)	「雁」(森鷗外展記念映画会)	107人
4月26日 (日)	〃	144人
5月5日 (火・祝)	「山椒太夫」(森鷗外展記念映画会)	143人
5月6日 (水・祝)	〃	92人
11月7日 (土)	「死の十字路」(大乱歩展記念映画会)	176人
11月8日 (日)	〃	138人
22年1月30日 (土)	「千羽鶴」(第3回「文学の森へ 神奈川と作家たち展」映画会)	179人
1月31日 (日)	〃	116人
23年5月7日 (土)	「私が棄てた女」(遠藤周作展記念映画会)	207人
5月8日 (日)	〃	200人
10月9日 (日)	「稲妻」(林芙美子展記念映画会)	194人
10月10日(月・祝)	〃	157人
24年2月4日 (土)	「宮本武蔵総集版」(原作:吉川英治 作家と万年筆展記念映画会)	136人
2月5日 (日)	〃	66人
9月1日 (土)	「痴人の愛」(原作:谷崎潤一郎)	141人
9月2日 (日)	〃	116人
10月9日 (日)	「夜明け前」(島崎藤村展記念映画会)	254人
10月10日(月・祝)	〃	242人

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

○文芸映画を観る会ほかの映画会

期 日	内 容	入場者数
25年2月23日(土)	「トロッコ」(芥川龍之介生誕120年記念イベント)	188人
2月24日(日)	〃	136人
5月4日(土・祝)	「ミラノの奇蹟」(井上ひさし最愛の映画「ミラノの奇蹟」上映会)	259人
5月5日(日・祝)	〃	181人
9月22日(日)	「風の又三郎」(原作:宮沢賢治)	160人
9月23日(月・祝)	〃	144人
11月22日(金)	「婦系図 湯島の白梅」(泉鏡花展記念映画会)	169人
11月23日(土・祝)	〃	170人
26年1月25日(土)	「鞍馬天狗 黄金地獄」(大佛次郎没後40年記念映画会)	108人
1月26日(日)	〃	67人
4月11日(金)	「パンドラの匣」(原作:太宰治)	101人
4月12日(土)	〃	92人
5月16日(金)	「真白き富士の嶺」(原作:太宰治)	125人
5月17日(土)	〃	128人
27年2月13日(金)	「雪の渡り鳥」(長谷川伸原作)	103人
2月14日(土)	〃	75人
8月7日(金)	「陸軍」(火野葦平原作) (戦後70年映画上映会)	84人
8月8日(土)	「真空地帯」(野間宏原作) (戦後70年映画上映会)	79人
28年1月22日(金)	「執炎」(加茂菫子原作)	105人
1月23日(土)	〃	99人
4月22日(金)、23日(土)	「こころ」(夏目漱石原作) (各日2回上映)	計600人
29年3月10日(金)	「全身小説家」(井上光晴展開催記念上映会)	87人
3月11日(土)	〃	71人
30年7月27日(金)	「ノンちゃん雲に乗る」(石井桃子原作/石井桃子展開催記念上映会)	188人
7月28日(土)	〃	83人
8月18日(土)	「子どもに本をー石井桃子の挑戦 I 『ノンちゃん牧場』」 (講師・森英男/石井桃子展記念上映と講演)	177人
11月2日(金)	「草迷宮」(寺山修司監督/寺山修司展開催記念上映会)	183人
11月3日(土・祝)	〃 アフタートーク出演:若松武史、榎戸耕史、田中未知	216人
元年5月5日(日・祝)、 6日(月・振休)	「影なき声」(松本清張原作/松本清張展開催記念上映会)	407人
6月28日(金)、29日(土)	「戦艦大和」(吉田満原作/江藤淳展開催記念上映会)	263人
2年1月17日(金)、18日 (土)	「青春怪談」(獅子文六原作/獅子文六展開催記念上映会)	174人
2月7日(金)、8日(土)	「青空の仲間」(獅子文六原作/獅子文六展開催記念上映会) 〃	174人

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

【図書館等連携事業(巡回パネル文学展等)】

○県内公共図書館及び学校図書室等での巡回パネル文学展等を各施設・学校等と共催 (無料)

年度	巡回展内容・主催及び会場	件数	来場者数
18	「日本の童謡展」他／県立図書館、南足柄市立図など6館／高文連1回	7件	8,193人
19	「夏目漱石展」他／小田原市立、伊勢原市立図など5館	5	7,318
20	「夏目漱石展」他／南足柄市立図など5館、県立逗子高校	6	31,467
21	「夏目漱石展」他／上溝南、逗子など県立高校5校、湯河原町立図	6	7,463
22	「夏目漱石展」他／県立・私立高校7校、秦野市立図など2館	9	31,624
23	「中島敦展」他／県立・私立高校6校、横浜市南図など3館	9	17,034
24	「井上靖展」他／県立・私立高校10校、静岡県立中央図	11	42,017
25	「コロボックル物語展」他／県立・私立高校12校、横浜市都築図	13	30,288
26	「中島敦展」他／公立・私立中・高校11校、横浜読書百貨展など3件	14	11,024
27	「夏目漱石展」他／公立・私立中・高校17校、県立図書館など2件	19	25,396
28	「中島敦展」他／公立・私立中・高校24校、横浜市鶴見図など4件	28	41,812
29	「夏目漱石展」他／公立・私立小・中・高校34校、県立図書館	34	32,325
30	「夏目漱石展」他／公立・私立小・中・高校38校、湯河原町立図書館	39	26,996
元	「夏目漱石展」他／公立・私立小・中・高校31校	31	23,984

※令元は1月末の数値

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

【文学館活用研修会ほか教育機関との連携】

○司書、司書教諭を対象とした文学館利用研修、または県内公立私立の高校、中高一貫校などの国語課教員対象に文学館事業を学課の事業で活用して頂くための研修会、さらに県高文連図書専門部と共催によるビブリオバトル、図書館報コンクールなどを実施しました。

年月日	名 称	主催者	会場	参加者数
平18.7.26 (水)	県立総合教育センター研修講座	同上	同上	—
平19.8.10 (金)	県立総合教育センター研修講座	同上	同上	31人
平20.8.21 (木)	県立総合教育センター研修講座	同上	同上	45
平21.8.25 (火)	県立総合教育センター研修講座	同上	同上	38
平22.2.12 (金)	第1回私立中高一貫校のための文学館活用研修会	(財)神奈川文学振興会	本館特別会議室	27
8.11(水)	県立総合教育センター研修講座	県立総合教育センター	展示館中会議室	37
8.19(木)	第2回私立中高一貫校のための文学館活用研修会	同上	展示館小会議室	6
平23.8.10 (水)	横浜国立大学大学院「教育インターン」ゼミ(協力:同大学院一柳ゼミ)	横浜国立大学大学院一柳廣孝教授ゼミ	本館特別会議室	6
8.11(木)	県立総合教育センター研修講座	県立総合教育センター	展示館中会議室	39
平24.1.18 (水)	第3回文学館活用研修会	(財)神奈川文学振興会	本館特別会議室	27
6.23(土)	平成24年度総会及び第1回生徒研修会	県高等学校文化連盟図書専門部設立準備委員会	展示館中会議室	44
7.26(木) 8.1(水)	学校図書館資料論研修講座	県教育委員会	展示館ホール	138
8.9(木)	県立総合教育センター研修講座	県立総合教育センター	展示館中会議室	34
11.24(土)	第1回図書館報コンクール	県高等学校文化連盟図書専門部設立準備委員会	展示館ホール他	93
平25.2.2(土)	第1回ビブリオバトル	県高等学校文化連盟図書専門部設立準備委員会	同上	71
3.14(木)	第4回文学館活用研修会	(公財)神奈川文学振興会	本館特別会議室	9
6.22(土)	平成25年度総会及び第2回生徒研修会	神奈川県高等学校文化連盟図書専門部	展示館中会議室	46
7.16(火)	県子ども読書活動推進会議	県子ども読書活動推進会議	同上	9
8.13(火)	横浜国立大学大学院「教育インターン」ゼミ(協力:同大学院一柳ゼミ)	横浜国立大学大学院一柳廣孝教授ゼミ	展示館小会議室	4
8.15(木)	県立総合教育センター研修講座	県立総合教育センター	展示館中会議室	37

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

○司書、司書教諭を対象とした文学館利用研修会ほか

年月日	名 称	主催者	会 場	参加者数
9.21(土) ～10.19(土)	「桐蔭文学展 教科書に載った文豪 芥川龍之介」	学校法人桐蔭学園	桐蔭学園ソフ ォ スホール	4705
11.16(土)	第2回図書館報コンクール	県高等学校文化連盟図書 専門部	展示館ホール他	147
平26.2.1(土)	第2回ビブリオバトル&プレpopフ ェスタ	県高等学校文化連盟図書 専門部	同 上	94
3.10(月) ～9.13(土)	第1回神奈川本大賞	神奈川本大賞実行委員会		—
3.26(水)	第5回文学館活用研修会 研究発表 「夏目漱石デジタルアーカイブと新 しい授業づくり」	(公財)神奈川文学振興 会	本館特別会議室	16
6.22(土)	平成26年度第3回総会及び生徒研修 会	神奈川県高等学校文化連 盟図書専門部	展示館中会議室	59
8.6(木)	県立総合教育センター研修講座	県立総合教育センター	展示館中会議室	28
8.8(金)	横浜国立大学大学院「教育インター ン」ゼミ(協力:同大学院一柳ゼミ)	横浜国立大学大学院一柳 廣孝教授ゼミ	本館特別会議室	3
11.15(土)	第3回図書館報コンクール	県高等学校文化連盟図書 専門部	展示館ホール他	87
平27.1.31 (土)	第3回ビブリオバトル&プレpopフ ェスタ	県高等学校文化連盟図書 専門部	同 上	103
6.20(土)	平成27年度第4回総会及び生徒研修 会	神奈川県高等学校文化連 盟図書専門部	展示館中会議室	46
8.4(火)	横浜国立大学大学院「教育インター ン」ゼミ(協力:同大学院一柳ゼミ)	横浜国立大学大学院一柳 廣孝教授ゼミ	本館特別会議室	1
8.7(金)	県立総合教育センター研修講座	県立総合教育センター	展示館中会議室	35
11.14(土)	第4回図書館報コンクール	県高等学校文化連盟図書 専門部	展示館ホール他	66
平28.1.30 (土)	第4回ビブリオバトル&プレpopフ ェスタ	県高等学校文化連盟図書 専門部	同 上	104
3.30(水)	第7回文学館活用研修会 研究発表 「漱石展概要説明&パネル文学展概 要説明」	(公財)神奈川文学振興 会	本館特別会議室	29
5.29(日)	平成28年度総会及び第1回生徒研修 会(ビブリオバトル準備会)	神奈川県高等学校文化連 盟図書専門部	展示館中会議室	46
7.23(土)	第5回ビブリオバトル(全国高校ビブ リオバトル2016 決勝大会神奈川県予 選)	県高等学校文化連盟図書 専門部	展示館ホール他	109
8.2(火)	横浜国立大学大学院「教育インター ン」ゼミ(協力:同大学院一柳ゼミ)	横浜国立大学大学院一柳 廣孝教授ゼミ	本館特別会議室	3
8.10(水)	県立総合教育センター研修講座	県立総合教育センター	展示館中会議室	26
8.27(土)	第2回生徒研修会(図書館報コンク ール準備会)	神奈川県高等学校文化連 盟図書専門部	展示館中会議室	44
11.19(土)	第5回図書館報コンクール	県高等学校文化連盟図書 専門部	展示館ホール他	75
12.18(日)	第4回生徒研修会	神奈川県高等学校文化連 盟図書専門部	展示館中会議室	37

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

○司書、司書教諭を対象とした文学館利用研修会ほか

年月日	名称	主催者	会場	参加者数
平29.3.2 (水)	第8回文学館活用研修会 研究発表 「子規展概要説明&パネル文学展概要説明」	(公財) 神奈川文学振興会	本館特別会議室	18
5.27 (土)	平成29年度総会及び第1回生徒研修会	神奈川県高等学校文化連盟図書専門部	展示館中会議室	55
7.23 (土)	第6回ビブリオバトル(全国高校ビブリオバトル2017 決勝大会神奈川県予選)	県高等学校文化連盟図書専門部	展示館ホール他	107
8.2 (水)	横浜国立大学大学院「教育インターン」ゼミ(協力:同大学院一柳ゼミ)	横浜国立大学大学院一柳廣孝教授ゼミ	本館特別会議室	3
8.17 (木)	県立総合教育センター研修講座	県立総合教育センター	展示館中会議室	31
8.26 (土)	図書館報コンクール準備会	県高等学校文化連盟図書専門部	展示館ホール他	75
10.24 (火)	県立神奈川総合高等学校第1回「エキスパート・レクチャー」	総務課職員	県立総合高校多目的ホール	—
11.18 (土)	第6回図書館報コンクール、講演「本作りの舞台裏—編集者の視点から」(講師:照山朋代)	県高等学校文化連盟図書専門部	展示館ホール他	70
平30.1.27 (土)	平成29年度総会及び第2回生徒研修会	神奈川県高等学校文化連盟図書専門部	展示館中会議室	40
3.28 (水)	第9回文学館活用研修会 研究発表 「与謝野晶子展概要説明&パネル文学展概要説明」	(公財) 神奈川文学振興会	本館特別会議室	12
5.19 (土)	平成30年度総会及び第1回生徒研修会(ビブリオバトル準備会)	神奈川県高等学校文化連盟図書専門部	展示館中会議室	38
7.21 (土)	第7回ビブリオバトル&かながわ高校生POPフェスタ、第2回生徒研修会(全国高校ビブリオバトル2018 決勝大会神奈川県予選)	県高等学校文化連盟図書専門部	展示館ホール他	124
8.2 (木)	県立総合教育センター研修講座	県立総合教育センター	展示館中会議室	30
8.10 (金)	横浜国立大学大学院「教育インターン」ゼミ(協力:同大学院一柳ゼミ)	横浜国立大学大学院一柳廣孝教授ゼミ	本館特別会議室	4
8.25 (土)	第3回生徒研修会(図書館報コンクール準備会)	神奈川県高等学校文化連盟図書専門部	展示館中会議室	20
10.27 (土)	横浜中央図書館平成30年度 第6回ヨコハマライブラリースクール	文学館職員	横浜中央図書館5階第一会議室	19
11.2 (金)	横浜国立大学スクールデー	文学館職員	横浜中央図書館5階第一会議室	11
11.25 (日)	第7回図書館報コンクール、講演「物語のカタチを作る—装幀家という楽しいお仕事」(講師:坂野公一)	県高等学校文化連盟図書専門部	展示館ホール他	79
12.12 (日)	第5回生徒研修会	神奈川県高等学校文化連盟図書専門部	展示館中会議室	33
平31.3.26 (火)	第10回文学館活用研修会 研究発表 「松本清張展概要説明&パネル文学展概要説明」	(公財) 神奈川文学振興会	本館特別会議室	6

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

○司書、司書教諭を対象とした文学館利用研修会ほか

年月日	名 称	主催者	会場	参加者数
令元.5.26(日)	平成31年度総会及び第1回生徒研修会(ビブリオバトル準備会)	神奈川県高等学校文化連盟図書専門部	展示館中会議室	51
7.20(土)	第8回ビブリオバトル&かながわ高校生POPフェスタ、第2回生徒研修会(全国高校ビブリオバトル2019決勝大会神奈川県予選)	県高等学校文化連盟図書専門部	展示館ホール他	94
8.2(金)	県立総合教育センター研修講座	県立総合教育センター	展示館中会議室	31
8.6(火)	横浜国立大学大学院「教育インターン」ゼミ(協力:同大学院一柳ゼミ)	横浜国立大学大学院一柳廣孝教授ゼミ	本館特別会議室	5
8.25(日)	第3回生徒研修会(図書館報コンクール準備会)	神奈川県高等学校文化連盟図書専門部	展示館中会議室	33
11.16(土)	第8回図書館報コンクール、講演「書くことと、読むこと ～小説をもっとおもしろくする～」(講師:大橋崇行)	県高等学校文化連盟図書専門部	展示館ホール他	79
令2.1.25(土)	第4回生徒研修会	神奈川県高等学校文化連盟図書専門部	展示館中会議室	50
3.27(金)	第11回文学館活用研修会 研究発表「大岡昇平展概要説明&パネル文学展概要説明」	(公財)神奈川文学振興会	本館特別会議室	中止

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

■Ⅲ-5(4)資料収集(平成18-令和元)

神奈川県近代文学館の主要業務である県ゆかりの近代文学資料の収集、整理、保存等を実施し、資料の所蔵情報等をインターネットなどを通じて公開することで、近代文学研究の発展に寄与しました。

○資料収集の実績(第1期)

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	年平均
寄贈	図書	5,910冊	10,576冊	3,216冊	6,461冊	12,415冊	7,716冊
	雑誌	5,888冊	4,912冊	4,146冊	8,017冊	7,831冊	6,159冊
	特別資料	3,200件	1,132件	1,440件	1,835件	5,405件	2,602件
	計	14,998件	16,620件	8,802件	16,313件	25,651件	16,477件
	寄贈者	1,076人	1,100人	1,002人	1,116人	1,066人	1,072人
購入	図書	4,331冊	698冊	659冊	662冊	650冊	1,400冊
	雑誌	1,037冊	1,048冊	1,270冊	907冊	1,361冊	1,125冊
	特別資料	5件	5件	4件	376件	11件	80件
	計	5,373件	1,751件	1,933件	1,945件	2,022件	2,605件

○第2期

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	年平均
寄贈	図書	8,787冊	3,638冊	3,306冊	4,374冊	4,265冊	4,874冊
	雑誌	8,305冊	5,283冊	4,612冊	5,360冊	5,044冊	5,721冊
	特別資料	2,300件	5,865件	3,152件	4,842件	7,066件	4,645件
	計	19,392件	14,786件	11,070件	14,576件	16,375件	15,240件
	寄贈者	1,025人	967人	1,001人	990人	978人	992人
購入	図書	666冊	688冊	685冊	887冊	531冊	691冊
	雑誌	1,343冊	1,248冊	835冊	1,246冊	1,812冊	1,297冊
	特別資料	15件	13件	6件	9件	7件	10件
	計	2,024件	1,949件	1,933件	2,142件	2,350冊	2,080件

○第3期

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	年平均※
寄贈	図書	2,832冊	3,300冊	3,060冊	2,470冊	2,916冊
	雑誌	4,763冊	7,964冊	3,808冊	3,686冊	5,055冊
	特別資料	11,551件	3,216件	1,831件	3,442件	5,010件
	計	19,146件	14,480件	8,699件	9,598件	12,981件
	寄贈者	984人	941人	930人	827人	921人
購入	図書	622冊	566冊	402冊	279冊	467冊
	雑誌	943冊	1,148冊	1,252冊	1,282冊	1,156冊
	特別資料	125件	7件	4件	606件	186件
	計	1,690件	1,721件	1,658件	2,167件	1,809件

r元年度は1月までの集計／※h28～h30年度の年平均数値

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

○資料登録の実績（第1期）

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平均
寄贈	図書	12,522冊	5,710冊	7,154冊	5,328冊	6,570冊	7,457冊
	雑誌	8,808冊	9,625冊	7,563冊	7,884冊	8,405冊	8,457冊
	特別資料	11,699件	6,914件	7,352件	4,644件	4,008件	6,923件
	小計	33,029件	22,249件	22,069件	17,856件	18,983件	22,837件
購入	図書	4,331冊	698冊	659冊	662冊	650冊	1,400冊
	雑誌	1,037冊	1,048冊	1,270冊	907冊	1,361冊	1,125冊
	特別資料	5件	5件	4件	376件	11件	80件
	小計	5,373件	1,751件	1,933件	1,945件	2,022件	2,605件
その他		8件	10件	10件	10件	13件	10件
合計		38,410件	24,010件	24,012件	19,811件	21,018件	25,452件
電算入力	図書	16,857冊	6,408冊	8,112冊	6,122冊	7,578冊	9,015冊
	雑誌	9,845冊	10,673冊	8,833冊	8,791冊	9,766冊	9,582冊
	特別資料	15,929件	7,698件	9,712件	8,521件	4,019件	9,176件
	計	42,631件	24,779件	26,657件	23,434件	21,363件	27,773件

○第2期

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平均
寄贈	図書	5,022冊	5,575冊	4,834冊	4,126冊	5,059冊	4,923冊
	雑誌	8,555冊	6,903冊	5,255冊	6,433冊	5,208冊	6,471冊
	特別資料	3,323件	4,493件	3,214件	3,713件	4,723件	3,893件
	小計	16,900件	16,971件	13,303件	14,272件	14,990件	15,287件
購入	図書	666冊	688冊	685冊	887冊	531冊	691冊
	雑誌	1,343冊	1,248冊	835冊	1,246冊	1,812冊	1,297冊
	特別資料	15件	13件	6件	9件	7件	10件
	小計	2,024件	1,949件	1,526件	2,142件	2,350冊	1,998件
その他		8件	6件	9件	7件	6件	7件
合計		18,932件	18,926件	14,838件	16,421件	17,346件	17,293件
電算入力	図書	5,688冊	6,263冊	5,519冊	5,013冊	5,590冊	5,615冊
	雑誌	9,898冊	8,151冊	6,090冊	7,679冊	7,020冊	7,768冊
	特別資料	3,346件	4,512件	3,229件	3,729件	4,736件	3,910件
	計	18,932件	18,926件	14,838件	16,421件	17,346件	17,293件

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

○資料登録の実績（第3期）

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	平均
寄贈	図書	4,517冊	4,806冊	4,482冊	2,269冊	4,019冊
	雑誌	5,137冊	7,525冊	6,205冊	4,417冊	5,821冊
	特別資料	4,685件	3,577件	2,849件	945件	3,014件
	小計	14,339件	15,908件	13,536件	7,631件	12,854件
購入	図書	622冊	566冊	402冊	279冊	467冊
	雑誌	943冊	1,148冊	1,252冊	1,282冊	1,156冊
	特別資料	125件	7件	4件	606件	186件
	小計	1,690件	1,721件	1,658件	2,167件	1,089件
その他		6件	8件	3件	0件	4件
合計		16,035件	17,637件	15,197件	9,798件	14,667件
電算入力	図書	5,139冊	5,372冊	4,884冊	2,548冊	4,486冊
	雑誌	6,080冊	8,673冊	7,457冊	5,699冊	6,977冊
	特別資料	4,816件	3,592件	2,856件	1,551点	3,204件
	計	16,035件	17,637件	15,197件	9,798件	14,667件

r元年度は1月までの集計／※h28～h30年度の年平均数値

○資料利用の実績

第1期

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平均
閲覧室利用者数	2,584人	2,762人	2,804人	2,908人	4,449人	3,101人
資料利用者数	894人	763人	784人	802人	650人	779人
図書利用冊数	3,389冊	2,940冊	3,657冊	2,881冊	2,230冊	3,019冊
雑誌利用誌数	1,979誌	1,948誌	2,302誌	2,143誌	2,395誌	2,153誌
雑誌利用冊数	22,651冊	17,393冊	23,619冊	20,048冊	18,956冊	20,533冊
特別資料利用件数	118件	145件	197件	132件	119件	142件
同 利用点数	4,946点	4,631点	5,049点	3,440点	4,350点	4,483点
OPAC（外部）利用	22,754件	21,999件	25,666件	38,147件	42,624件	30,238件
資料複写件数	1,034件	908件	1,016件	844件	835件	927件
同 枚数	43,712枚	33,648枚	32,887枚	29,676枚	29,487枚	33,882枚
館外貸出件数	21件	25件	20件	28件	12件	21件
同 点数	625点	664点	487点	856点	1,190点	764点
レファレンス件数	296件	216件	203件	199件	256件	234件

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

第2期

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平均
閲覧室利用者数	6,748人	5,225人	4,913人	6,630人	6,353人	5,974人
資料利用者数	659人	706人	570人	532人	613人	616人
図書利用冊数	2,036冊	2,766冊	2,475冊	2,180冊	2,568冊	2,405冊
雑誌利用誌数	1,957誌	1,920誌	1,744誌	1,288誌	1,375誌	1,657誌
雑誌利用冊数	20,546冊	23,372冊	16,793冊	9,576冊	13,829冊	16,823冊
特別資料利用件数	266件	168件	216件	167件	170件	197件
同 利用点数	10,431点	5,244点	8,800点	6,140点	6,566点	7,436点
OPAC（外部）利用	53,973件	34,387件	37,579件	61,746件	62,095件	49,956件
資料複写件数	763件	784件	734件	648件	653件	716件
同 枚数	29,892枚	23,822枚	21,713枚	21,144枚	20,839枚	23,482枚
館外貸出件数	23件	22件	17件	14件	22件	20件
同 点数	281点	384点	273点	211点	435点	317点
レファレンス件数	213件	224件	231件	232件	264件	233件

第3期

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	平均
閲覧室利用者数	6,301人	6,356人	5,711人	5,481人	5,962人
資料利用者数	656人	613人	577人	454人	575人
図書利用冊数	2,035冊	2,831冊	1,780冊	1,092冊	1,935冊
雑誌利用誌数	1,428誌	1,501誌	1,353誌	1,166誌	1,362誌
雑誌利用冊数	13,069冊	13,642冊	13,655冊	7,971冊	12,084冊
特別資料利用件数	169件	207件	213件	111件	175件
同 利用点数	8,279点	9,092点	17,470点	6,761点	10,401点
OPAC（外部）利用	52,204件	45,614件	60,028件	67,428件	56,319件
資料複写件数	639件	672件	679件	525件	629件
同 枚数	22,205枚	21,884枚	22,536枚	15,124枚	20,437枚
館外貸出件数	19件	24件	19件	14件	19件
同 点数	161点	334点	611点	324点	358点
レファレンス件数	250件	247件	234件	188件	230件

r元年度は1月までの集計／※h28～h30年度の年平均数値

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

【閲覧室ミニ展示及び展覧会関連読書コーナー】

会場=閲覧室 (入場無料)

2005年から閲覧室利用の促進を図るため、閲覧室内に展示ケースを設置し、時期に応じたテーマを考えて特集しました。また、2010年度からは閲覧室に企画展示と連携した書籍の閲覧コーナーを設け、展覧会に出品された書籍や関連する書籍等を直接手に取って閲覧できるようにしました。

○ミニ展示

	ミニ展示名	会 期 等	閲覧室利用者数	1日平均
1	文字・活字文化の日記念展示	17年10月27日～11月13日 (14日間)	214人	15人
2	特集・クリスマスの本	11月15日～12月27日 (35日間)	536	15
3	特集・「犬」の本	18年1月5日～2月26日 (35日間)	472	13
4	特集・「桜」をめぐって	3月1日～4月27日 (48日間)	597	12
5	特集・「音楽と文学」	4月29日～6月29日 (52日間)	565	11
6	夏休み子ども特集・「スポーツと文学」	7月1日～8月30日 (52日間)	479	9
6	当館の稀観本から 明治大正期の稀観詩集・詩雑誌	9月1日～10月29日 (52日間) (文字活字文化振興事業)	418	8
7	特集・「忠臣蔵」	11月1日～12月27日 (48日間)	347	7
8	特集・「お正月」	19年1月5日～2月27日 (38日間)	300	8
9	特集・「豆本」	3月1日～4月26日 (48日間)	401	8
10	特集・「薔薇」をめぐって	4月28日～6月28日 (53日間)	607	11
11	特集・日本の怪奇幻想文学	6月30日～8月30日 (53日間)	600	11
12	特集・食と文学Ⅰ	9月1日～10月30日 (53日間) (文字活字文化振興事業)	426	8
13	特集・冬物語	11月1日～12月27日 (49日間)	377	7
14	特集・食と文学Ⅱ	20年1月5日～2月28日 (39日間)	340	8
15	装幀の美 特集・橋口五葉	3月1日～4月29日 (50日間)	466	9
16	特集・桃太郎の世界－滑川道夫文庫資料を中心に－	5月1日～6月26日 (48日間)	551	11
17	特集・夏休み	6月28日～8月28日 (53日間)	543	10
18	特集・明治大正期の稀観本(小説)	8月30日～10月30日 (55日間) (文字活字文化振興事業)	469	9
19	特集・日本近代文学と源氏物語	11月1日～12月25日 (48日間)	439	9
20	特集・文人俳句	12月27日～21年3月29日 (64日間)	557	9
21	装幀の美Ⅱ 特集・恩地孝四郎	21年4月1日～6月28日 (76日間)	943	12
22	特集・翻訳児童文学の源流を訪ねて	7月1日～9月29日 (78日間)	678	9
23	昭和期の稀観本(小説)	10月1日～12月24日 (73日間) (文字活字文化振興事業)	688	9
24	装幀の美Ⅲ 特集・小村雪岱	12月26日～22年3月30日 (67日間)	597	9

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

○ 閲覧コーナー

	閲覧コーナー名	年	会 期 等	閲覧室利 用者数	1日平均
1	二葉亭四迷展	22年	4月1日～4月18日（16日間）	155人	10人
2	城山三郎展		4月20日～6月6日（41日間）	579	14
3	開高健展		6月8日～8月1日（47日間）	876	19
4	長崎源之助展		8月3日～9月26日（48日間）	848	18
5	小泉八雲展		9月28日～11月14日（52日間）	993	19
6	三島由紀夫コーナー		11月16日～23年1月10日（40日間）	471	12
7	中山義秀展	23年	1月11日～2月27日（31日間）	311	10
8	荻原井泉水と「層雲」100周年記念展		3月1日～4月17日（42日間）	495	12
9	遠藤周作展		4月19日～6月5日（41日間）	1,247	30
10	「漱石と文人たちの書画」展		6月7日～7月31日（47日間）	849	18
11	安野光雅展		8月2日～9月25日（48日間）	2,225	46
12	林芙美子展		9月27日～11月13日（41日間）	776	19
13	司修『本の魔法』コーナー		11月15日～24年1月9日（41日間）	403	10
14	作家と万年筆展	24年	1月10日～2月26日（32日間）	690	22
15	太宰治関連書籍コーナー		1月29日～3月29日（41日間）	741	18
16	中藪英助展		2月28日～4月22日（44日間）	660	15
17	斎藤茂吉展		4月24日～6月10日（41日間）	1,010	25
18	中野重治の手紙—『愛しき者へ』展		6月12日～8月5日（47日間）	578	12
19	寺村輝夫『ぼくは王さま』展		8月7日～9月30日（47日間）	1,240	26
20	島崎藤村展		10月2日～11月18日（42日間）	824	20
21	福田恆存資料展		11月20日～25年2月24日（69日間）	725	11
22	添田啞蟬坊・知道展	25年	2月26日～4月14日（40日間）	665	17
23	井上ひさし展		4月16日～6月9日（48日間）	1,584	33
24	『中原中也の手紙』展		6月11日～8月4日（47日間）	653	14
25	賢治＋司修 注文の多い展覧会		8月6日～9月29日（48日間）	822	17
26	泉鏡花展		10月1日～11月24日（49日間）	701	14
27	大佛次郎没後40年記念コーナー		11月26日～26年1月26日（47日間）	409	9
28	黒岩重吾展	26年	1月28日～3月30日（44日間）	518	12
29	太宰治展		4月1日～5月25日（48日間）	1,384	29
30	菊地信義展		5月27日～7月27日（53日間）	787	15
31	なかえよしを・上野紀子展		7月29日～9月28日（53日間）	1,928	36
32	須賀敦子展		10月1日～11月24日（49日間）	1,460	30
33	太宰治展		11月25日～27年1月25日（46日間）	477	10
34	寺田透展	27年	1月27日～3月29日（44日間）	594	14
35	谷崎潤一郎展		4月1日～5月24日（47日間）	1,139	24
36	中勘助展		5月26日～7月20日（47日間）	946	20
37	佐野洋子と「ねこ」展		7月21日～9月27日（59日間）	2,079	35
38	柳田國男		9月29日～11月23日（48日間）	839	18
39	星の王子さま展	28年	11月24日～28年1月24日（47日間）	656	14
40	富士川英郎展		1月26日～3月21日（39日間）	468	12
41	夏目漱石展		3月22日～5月22日（53日間）	2,231	42

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

○ 閲覧コーナー

	閲覧コーナー名	年	会 期 等	閲覧室利 用者数	1日平均
42	鮎川信夫と「荒地」展		5月24日～7月18日(47日間)	834	18
43	西村繁男展		7月19日～9月25日(59日間)	1,249	21
44	安岡章太郎展		9月27日～11月27日(53日間)	1,005	19
45	夏目漱石展		11月29日～29年1月22日(40日間)	485	12
46	井上光晴展	29年	1月24日～3月20日(38日間)	549	14
47	正岡子規展	29年	3月21日～5月21日(53日間)	1,581	30
48	宇野千代展		5月27日～7月17日(43日間)	796	19
49	角野栄子展		7月22日～9月24日(55日間)	1,331	24
50	山本周五郎展		9月30日～11月26日(50日間)	814	16
51	久生十蘭展		12月9日～30年1月21日(32日間)	437	14
52	山川方夫展	30年	1月27日～3月11日(28日間)	504	18
53	与謝野晶子展		3月17日～5月13日(49日間)	1,382	28
54	ポール・クローデルと日本展		5月19日～7月16日(49日間)	817	17
55	石井桃子展		7月22日～9月24日(56日間)	1,300	23
56	寺山修司展		9月29日～11月25日(50日間)	1,312	26
57	広津和郎展		12月8日～31年1月20日(33日間)	375	11
58	花田清輝展	31年	1月26日～3月10日(39日間)	383	14
59	松本清張展		3月16日～5月12日(51日間)	1,519	30
60	江藤淳展	元年	5月18日～7月15日(49日間)	891	18
61	西巻茅子展		7月20日～9月23日(57日間)	1,421	25
62	中島敦展		9月28日～11月24日(49日間)	1,029	21
63	獅子文六展	2年	12月7日～2年3月3日[中断](59日間)	949	16
64	大岡昇平展		3月20日～3月31日(臨時休館)	—	—

■ Ⅲ-5(5) 維持管理事業

文学館施設の維持運営及び管理に関する各種業務を実施し、円滑な文学館事業活動が実施可能な環境作りを行いました。

管理物件の維持管理業務

神奈川県立神奈川近代文学館（以下「文学館」という）の維持管理業務にあたっては「神奈川県立神奈川近代文学館の管理に関する基本協定書（以下「基本協定書」）」の仕様書に示された水準に従い、管理物件の維持保全及び人命の尊重に十全の注意を払い、良好に施設の管理し、管理業務を遂行しました。業務の詳細は以下のとおりです。

1. 管理施設の保守点検に関する業務

電気事業法その他の法令に基づき、文学館の電気設備、空調、給排水衛生、昇降機等の各種設備及びこれらに付帯する設備の日常運転及び保守点検を行い、これらの設備が常に円滑に使用できるよう最良の状態に保ちました。また、建築物における環境衛生の確保に努め、常に良好な状態を維持しました。文学館は不特定多数の来館者が訪れる公共施設であり、貴重な近代文学資料を取り扱う施設であることを考慮し、環境の維持に努めました。

この件に関しての来館者からの苦情等はありません。

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

(業務内容)

- ①原則として、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「建築保全業務共通仕様書」最新版を参考とし実情に沿った形で管理業務を実施。
- ②機器の運転・操作については、法令で定められている場合はその定める所により実施し、資料の長期保全に向け必要な措置を施しました。
- ③機器の管理にあたっては、主として目視による日常点検を実施するが、必要に応じ計器等を用いた定期点検や注油など各種整備を実施し、施設の維持保全に努めました。
- ④運転管理にあたって、関連する機器類の運転状態の把握及び制御を適切に行い、効果的・効率的な運転を行うことによりランニングコストの低減を図るよう努めました。
- ⑤建築物における衛生的環境の確保に関する法律等に基づく建築物環境衛生管理技術者を選任し、法令に定める管理業務を実施しました。

(従事者の選任)

- ①従事者については、内容に応じて必要な知識及び技能を有する者を選任し、法令により業務を行う資格が定められている場合は、当該資格を有する者が業務を行いました。

2. 管理施設の清掃に関する業務

文学館の施設内及び周辺の適切な清掃業務を日常的に行うことにより、快適な環境状態を保ち、美観の維持に努めるとともに、施設の維持保全を図りました。

この件に関しての来館者からの苦情等はありません。

(業務の内容)

- ①国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「建築保全業務共通仕様書」最新版を原則とし、実情に合わせて清掃作業を実施しました。
- ②清掃業務に使用する洗剤等の材料は、品質、効能及び環境配慮に留意して選定しました。
- ③清掃業務の実施にあたっては、時間、範囲及び頻度について来館者の妨げにならないよう留意し、静粛かつ丁寧に行いました。
- ④不用品の処分は、廃棄物に関する関係法令等を遵守し、資源の有効活用に努めました。

3. 管理施設の保安警備に関する業務

文学館の施設内及び周辺の監視、管理、災害の予防等に努めるとともに、災害の発生等の緊急時に、来館者の安全の確保及び管理物件の保全のために必要な措置を講じることにより、秩序の維持に努めました。

(業務の内容)

- ①防災・緊急体制
 - ・防災（消防）計画を定め、緊急時の連絡体制及び人的配備体制等の確保に努めました。
 - ・定期的に訓練を実施し、緊急時対応の習熟と意識啓発を図りました。
- ②常駐方式による保安警備
 - ・建物内外を定期的に巡回警備し、近代文学館周辺の監視及び入退館者の管理等を行うことにより、災害の防止及び初期の発見に努めました。
- ③機械設備の活用による保安警備
 - ・警報受信装置を監視し、巡回警備者と常に緊密な連絡を保持して異常事態に備えました。
 - ・警報受信装置により災害による異常を確認したときは、速やかに急行し、事態を確認するとともに被害の拡大防止に努めました。今年度は緊急事態は発生はありませんでした。

4. 管理施設の受付・案内に関する業務

文学館の来館者等に対し、受付、案内及び誘導等の必要な業務を行うことで、円滑な運営とイメージの向上に努めました。

(業務の内容)

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

- ①来館者の受付、案内、誘導及び展示等催事の説明を行いました。
- ②受付・案内業務の遂行に当たっては、常に来館者の立場に立ち、親切かつ丁寧な対応を心がけました。来館者に限らず、電話、ファックス又はインターネット等における業務の遂行時にも同様に対応しました。

5. 管理施設で使用する備品類の管理・調達

管理物件の維持管理業務の遂行に当たり、必要な備品類を適正に管理し、また用途に適した調達を行うことにより、円滑な文学館の運営を行いました。

(業務の内容)

- ①備品類の管理等は、基本協定書第 32 条の各号に基づき実施しました。
- ②備品類を調達するときは、用途、品質及び環境配慮しました。
- ⑤備品類を更新又は処分する際の不用品の取扱いは、廃棄物に関する関係法令等を遵守するとともに資源の有効活用に努めました。

管理施設の運営に関する業務

文学館が「公の施設」であることを踏まえ、住民の平等利用を確保するとともに、文学館の設置目的を踏まえて適切な運営に努めました。常に利用者の立場に立ち、誠意ある対応を行うことでサービスの向上に努めました。業務の詳細は以下のとおりです。

1. ホール及び会議室の利用受付、承認に関する業務

ホール等の利用の受付及び承認に関する業務では、利用者の利便を図り、広報に努め、利用率の向上を図りました。e-kanagawa公共施設利用予約システムに参加しています。

(業務の内容)

- ①ホール等の利用の受付及び承認に関する業務は、条例第11条、第17条及び規則第4条に基づき実施しました。
- ②ホール等の利用の受付及び承認に関する業務は、知事の承認を得て定める利用規程に基づき遂行し、公平性の確保に努めました。
- ③e-kanagawa公共施設利用予約システムを用いて、ホール等の利用の受付及び承認に関する業務を行いました。ただし、予約システムに不慣れな利用者に対しては個々の業務において、利用者側のニーズに合わせた対応を行い、より快適な利用環境の提供を心がけました。

2. 管理施設の利用案内に関する業務

管理施設の利用案内に関する業務では、利用者の立場に立った情報の提供を心がけ、利便性の向上に努めました。

(業務の内容)

- ①適正な人的配置を行い、掲示、ホームページ及びその他広報媒体を活用して情報の提供に努めました。併せて、基本協定書第57条に基づく県民への周知を徹底しました。

3. 管理施設の利用に伴う備品類の貸出しに関する業務

管理施設の利用に伴う備品類の貸出しに関する業務では、常に利用者の要望の把握に努め、利便性の向上に努めました。

(業務の内容)

- ①貸出しに供する備品類は、利用者のニーズに応じて、適切な管理及び調達に努め、常に安全且つ簡易に使用できる状態を保ちました。来館者からの苦情等は寄せられておりません。

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

4. ホール等施設及び展示室観覧の利用料金徴収に関する業務

ホール等の施設利用料金及び展示室の観覧利用料金の徴収については事故防止に努めました。また、利用者に対して十分な説明責任を果たし、誠意ある応対を心がけました。

(業務の内容)

- ①利用料金の額は、周辺施設及び類似施設の料金額等を参考に、条例別表に定める額の範囲内において、知事の承認を得て決めました。
- ②利用料金の減免については、条例第 13 条の規定に基づき、知事の承認を得て定める基準に基づき適正かつ公正に実施しました。

5. その他の管理施設の運営に関する業務

休館日及び開館時間については条例第9条及び第10条の規定に基づき、適切に定め、実施しました。またその内容を利用者に掲示、チラシ配布、ホームページ等への掲示により周知しました。

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

■Ⅲ-5(6)自主事業(管理費)＝財団本部事業

財団本部の主宰する自主事業である友の会活動等を通じて、文学館事業活動の支援を図り、各種行事等の開催により、活性化を果たしました。

機関誌「神奈川近代文学館」の刊行

文学館事業の広報と活動報告、資料集情報等を掲載した機関誌を年4回のペースで刊行、配布しました。

年度	発行月	刊行内容	部数
18	4, 7, 10月、19年1月	第92号から第95号	各3,000部
19	4, 7, 10月、20年1月	第96号から第99号	各3,000部
20	4, 7, 10月、21年1月	第100号から第103号	各3,000部
21	4, 7, 10月、22年1月	第104号から第107号	各3,000部
22	4, 7, 10月、23年1月	第108号から第111号	各3,000部
23	4, 7, 10月、24年1月	第112号から第115号	各3,000部
24	4, 7, 10月、25年1月	第116号から第119号	各3,000部
25	4, 7, 10月、26年1月	第120号から第123号	各3,000部
26	4, 7, 10月、27年1月	第124号から第127号	各3,000部
27	4, 7, 10月、28年1月	第128号から第131号	各3,000部
28	4, 7, 10月、29年1月	第132号から第135号	各3,000部
29	4, 7, 10月、30年1月	第136号から第139号	各3,000部
30	4, 7, 10月、31年1月	第140号から第143号	各3,000部
元	4, 7, 10月、2年1月	第144号から第147号	各3,000部

友の会の活動

友の会の集い、文学講座、文学散歩などを開催し、文学館事業活動の活性化を図りました。

年度	会員数	活動内容
2006 (平成18)	956名	友の会の集い 6月4日(日)「古書の世界から見る日本の近代文学」(講師:東原武文)参加42人 5月17日(水)、26日(金)文学散歩「吉屋信子展記念本郷」参加96人 6月15日(木)、16日(金)文学散歩<近隣博物館>参加23人 8月19日(土)文学講座「私が会った作家たち」(講師:鈴木健次)参加52人 11月2日(木)、8日(水)文学散歩<俳句>参加82人
2007 (平成19)	883名	5月10日(木)、25日(金)文学散歩「中原中也と富永太郎展記念武蔵野」参加99人 友の会の集い 6月2日(日)「大岡昇平『武蔵野夫人』と富永家」(講師:富永一矢)参加52人 6月20日(水)、22日(金)文学散歩<近隣博物館>参加29人 12月9日(日)文学講座「鷗外文学と都市空間」(講師:小泉浩一郎)参加40人 2月23日(土)、29日(金)文学散歩「村井弦斎展記念 平塚・茅ヶ崎」参加90人
2008 (平成20)	808名	5月15日(木)、21日(水)、23日(金)文学散歩「澁澤龍彦展記念鎌倉」参加106名 友の会の集い 6月21日(土)「『坊っちゃん』-『顔』から見えてくるもの」(講師:秋山豊)参加42人 7月9日(水)、11日(金)文学散歩<近隣博物館>参加66名 11月12日(水)、20日(木)文学散歩<津久井・城山>参加76名 2月7日(土)、8日(日)文学講座「今読むプロレタリア文学」(講師:林淑美)参加62名
2009 (平成21)	879名	5月27日(水)、6月5日(金)文学散歩「森鷗外展記念谷根千」参加96名 友の会の集い 6月27日(土)「横浜開港と近代新聞の歩み」(講師:張宝芸)参加23人 6月19日(金)、7月3日(金)文学散歩<近隣博物館>参加46名 10月14日(水)、20日(火)乱歩歌舞伎観劇<国立劇場>参加88名 12月5日(土)、12日(土)文学講座「長谷川時雨展記念連続講座」(講師:尾形明子)参加130名 2月24日(水)、26日(金)文学散歩<近隣博物館・三溪園>参加39名

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

年度	会員数	活動内容
2010 (平成22)	896名	5月19日(水)、26日(水)、28日(金)文学散歩「大人の社会科見学:日本経済の中心・日本橋を歩く」参加118人/友の会の集い 6月19日(土)「ルポと文学の狭間—『ずばり東京』からベトナム戦争への疾走」(講師:永山義高)参加77人 11月17日(水)、26日(金)「秋の文学散歩」参加144人 2月5日(土) 中山義秀展友の会文学講座「峻烈の生と文学魂」(講師:清原康正)参加45人 2月19日(土)「絶筆『芭蕉庵桃青』の周辺」(講師:春名徹)参加46人 2月23日(水)「中山義秀展レクチャーと馬の博物館訪問」参加9人 3月31日(木)「荻原井泉水と『層雲』100周年記念展レクチャーと馬の博物館訪問」参加11人
2011(平成23)	952名	4月20日(水)、27日(水)文学散歩「生誕100年 TARO 散歩」参加64人 6月18日(土)友の会の集い 朗読会「中勘助『銀の匙』を読む」(朗読:南谷朝子)参加136人 11月19日(土)、25日(金)、30日(水)「新宿文学散歩」参加114人 2012年3月23日(金)、28日(水)文学散歩〈近隣博物館〉参加39人
2012(平成24)	888名	7月4日(水)、6日(金)、11日(水)文学散歩「田端・根岸文学散歩」参加86人/友の会の集い 7月14日(土)講座「中野重治の昭和十年代『愛しき者へ』の時代」(講師:林淑美)参加67人 10月18日(木)「藤村散歩関連ギャラリートーク」参加:40人 10月24日(水)、11月2日(金)、9日(金)、15日(木)文学散歩「藤村散歩」参加121人 2013年3月6日(水)、8日(水)文学散歩〈近隣博物館〉参加19人
2013(平成25)	930名	5月30日(木)、6月4日(火)、7日(金)文学散歩「江戸川文学散歩」参加103人/友の会の集い6月16日(日)講座「人間・安原喜弘とその時代」(対談:安原喜秀、中原豊)参加119人/11月6日(水)、8日(金)、20日(水)文学散歩「逗子文学散歩」参加67人 2014年1月23日(木)、2月20日(木)、3月4日(火)文学散歩〈近隣博物館〉参加70人
2014(平成26)	1,001名	友の会の集い5月24日(土)講座「戦時下の太宰—浪漫的完成への道」(講師:鳥居邦朗)参加212人/6月13日(金)、18日(水)文学散歩「山梨文学散歩」参加62人/11月21日(金)、26日(水)文学散歩「三島・沼津文学散歩」参加89人 2015年3月6日(金)、11日(水)、13日(金)文学散歩〈近隣〉参加49人
	1,001名	5月30日(木)、6月4日(火)、7日(金)文学散歩「江戸川文学散歩」参加103人 友の会の集い 6月16日(日)講座「人間・安原喜弘とその時代」(対談:安原喜秀、中原豊)参加119人 11月6日(水)、8日(金)、20日(水)文学散歩「逗子文学散歩」参加67人 1月23日(木)、2月20日(木)、3月4日(火)文学散歩〈近隣博物館〉参加70人
2015(平成27)	1,002名	6月9日(火)、11日(木)、18日(木)文学散歩「熱海・小田原文学散歩」参加60人/友の会の集い7月11日(土)朗読会「『銀の匙』を読む」(出演:南谷朝子)参加144人/11月13日(金)、17日(火)、18日(水)文学散歩「布川・我孫子文学散歩」参加70人 2016年3月1日(火)、2日(水)文学散歩〈近隣博物館〉参加66人
2016(平成28)	1,038名	5月12日(木)、17日(火)、25日(水)文学散歩「古河文学館・田山花袋記念文学館訪問」参加90人/友の会の集い7月2日(土)講座「鮎川信夫という謎—詩と生のありか」(出演:樋口良澄、上村佑)参加118人/11月16日(水)、25日(金)、30日(水)文学散歩「横須賀文学散歩」参加58人 2017年2月17日(金)、28日(火)文学散歩〈近隣博物館〉参加43人
2017(平成29)	1,039名	5月12日(金)、17日(水)、31日(水)文学散歩「子規庵と明治の文豪ゆかり散歩」参加69人/友の会の集い6月24日(土)講座「しなやかな抵抗の人・宇野千代の文学」(講師:尾形明子)参加152人/11月10日(金)、22日(水)、29日(水)文学散歩「市川・浦安文学散歩」参加71人 2018年2月9日(金)、14日(水)文学散歩〈近隣博物館〉参加48人
2018(平成30)	994名	5月9日(水)、11日(金)、29日(火)文学散歩「馬込文士村文学散歩」参加66人/友の会の集い7月8日(日)ポール・クローデル展ギャラリートーク参加69人、周辺散策参加15人(いずれも解説:根岸徹郎)/10月18日(木)、26日(金)文学散歩「軽井沢文学散歩」参加40人 2019年2月22日(金)、27日(水)文学散歩〈近隣博物館〉参加45人
2019(令和元)	1,052名	文学散歩「駒場散歩」4月19日(金)、5月10日(金)、17日(金)参加83人/友の会の集い7月13日(土)講座「生誕110年 太宰と清張、中島敦と芥川賞」(講師:鶴飼哲夫)参加179人/「山手・元町文学散歩」10月30日(水)、11月6日(水)、20日(水)参加66人/「明治神宮外苑・信濃町文学散歩」2020年3月24日(火)、25日(水)中止

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

支援する会の活動

財団本部事業活動への資金援助及び指定管理事業への助成並びに広報活動支援等を受けました。

第1期

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平均
会員数	108人	115人	118人	119人	116人	115人
会費口数	119口	131口	135口	141口	134口	132口

第2期

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平均
会員数	110人	109人	111人	112人	113人	111人
会費口数	130口	132口	132口	135口	139口	134口

第3期

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度		平均
会員数	113人	112人	109人	111人		111人
会費口数	141口	136口	132口	133口		135口

主な収益事業

財団本部の収益事業としてミュージアムグッズ事業、資料複写・貸出事業、展覧会パッケージの提供による企画編集事業などを実施しました。収益事業による収入を原資として財団の公益目的事業活動を展開しました。

○自主収益事業の実績

第1期

単位＝千円

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平均
グッズ販売	1,644	2,276	1,950	5,034	3,554	2,892
資料複写	2,611	2,749	2,813	2,746	2,675	2,719
企画編集	1,768	3,045	2,341	2,825	763	2,148
計	6,023	8,070	7,104	10,605	6,992	7,759

第2期

単位＝千円

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平均
グッズ販売	5,363	2,985	3,670	5,541	5,611	4,634
資料複写	2,359	2,226	2,099	1,855	2,615	2,231
企画編集	2,367	1,831	620	1,974	1,916	1,742
計	10,089	7,041	6,389	9,370	10,142	8,606

第3期

単位＝千円

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度		平均
グッズ販売	8,969	6,333	7,086	6,556		7,236
資料複写	3,049	2,197	1,713	1,539		2,125
企画編集	350	901	1,258	1,712		1,055
計	12,368	9,431	10,057	9,807		10,416

※令元は2月末の数値

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

他館等への後援・協力

○横浜山手へフト祭（主催：横浜山手へフト祭実行委員会、横浜交響楽団、社団法人横浜演劇研究所、岩崎博物館）（共催：横浜・演劇の会 後援：大佛次郎記念館、当館 協賛：キリンビール株式会社）

	期 間	会 場
第35回	18年5月20日(土)	横浜外国人墓地、山手ゲーテ座
第36回	19年5月26日(土)	横浜外国人墓地、山手ゲーテ座
第37回	20年5月25日(日)	横浜外国人墓地、山手ゲーテ座
第38回	21年5月24日(日)	横浜外国人墓地、山手ゲーテ座
第39回	21年5月23日(日)	横浜外国人墓地、山手ゲーテ座
第40回	23年5月29日(日)	横浜外国人墓地、山手ゲーテ座
第41回	24年5月26日(土)	横浜外国人墓地、山手ゲーテ座
第42回	25年5月25日(土)	横浜外国人墓地、山手ゲーテ座
第43回	26年5月24日(土)	横浜外国人墓地、山手ゲーテ座
第44回	27年5月24日(日)	横浜外国人墓地、山手ゲーテ座
第45回	28年5月21日(土)	横浜外国人墓地、山手ゲーテ座

○子ども読書活動推進フォーラム

（主催：神奈川県子ども読書活動推進会議、神奈川県教育委員会、財団法人はまぎん産業文化振興財団）

期 間	講演内容	会 場
19年4月19日(土)	事例発表、講演(講師：戸田和代)	展示館ホール
20年10月13日(土)(協力)	詩の朗読、講演(講師：矢崎節夫)	はまぎんホールヴィアマーレ
21年10月3日(土)(協力)	群読体験、講演(講師：浜尾朱美)	かながわ県民センター
22年10月30日(土)(協力)	群読体験、講演(講師：西巻茅子)	かながわ県民センター
23年11月5日(土)(後援)	群読体験、講演(講師：小風さち)	かながわ県民センター
24年10月27日(土)(後援)	群読体験、講演(講師：清水眞砂子)	かながわ県民センター

※当初h18～h19は共催、その後h24まで後援、h25から再び当館共催に復す。

○横浜山手芸術祭

（主催：横浜山手芸術祭実行委員会、財団法人横浜市緑の協会、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、横浜市市民活力推進局横浜市中区役所）

	期 間	会 場
第2回	20年2月1日～3月2日	山手西洋館ほか21団体
第3回	21年2月1日～3月8日	山手西洋館ほか21団体
第4回	22年2月1日～3月7日	山手西洋館ほか21団体
第5回	23年1月29日～3月6日	山手西洋館ほか21団体
第6回	24年1月29日～3月4日	山手西洋館ほか21団体
第7回	25年1月26日～3月3日	山手西洋館ほか20団体
第8回	26年2月1日～3月2日	山手西洋館ほか21団体
第9回	27年2月1日～3月1日	山手西洋館ほか21団体
第10回	28年1月31日～2月28日	山手西洋館ほか21団体
第11回	29年1月29日～2月26日	山手西洋館ほか21団体
第12回	30年1月28日～2月25日	山手西洋館ほか20団体
第13回	31年1月27日～2月24日	山手西洋館ほか20団体
第14回	2年1月25日～2月24日	山手西洋館ほか20団体

Ⅲ 団体の業務遂行能力について

○かながわ子ども・子育て支援月間

(主催：県福祉子どもみらい局子どもみらい部次世代育成課)

	期 間	参加内容
第1回	20年8月9日～9月28日	かこさとし展+かなぶんキッズクラブ
第2回	21年8月8日～9月27日	茂田井武展+かなぶんキッズクラブほか
第3回	22年8月7日～9月26日	長崎源之助展+かなぶんキッズクラブほか
第4回	23年8月6日～9月25日	安野光雅展+かなぶんキッズクラブほか
第5回	24年8月11日～9月30日	寺村輝夫展+かなぶんキッズクラブほか
第6回	25年8月10日～9月29日	賢治+司修展+かなぶんキッズクラブほか
第7回	26年8月2日～9月28日	なかえよしを展+かなぶんキッズクラブほか
第8回	27年7月25日～9月27日	佐野洋子展+かなぶんキッズクラブほか
第9回	28年7月23日～9月25日	西村繁男展+かなぶんキッズクラブほか
第10回	29年7月22日～9月24日	角野栄子展+かなぶんキッズクラブほか
第11回	30年7月21日～9月24日	石井桃子展+かなぶんキッズクラブほか
第12回	元年7月20日～9月23日	西巻茅子展+かなぶんキッズクラブほか

提携事業

(18～令和元年度)

○交通広告等の支援協力

特別展および企画展のポスター、チラシ等について駅貼り、設置の支援を受けました。
東急電鉄(株)、相模鉄道(株)、京浜急行電鉄(株)、横浜高速鉄道(株)、小田急電鉄(株)の
協賛、協力により県民への一層の周知を図りました。

(19, 24, 30, 令和元年度)

○所蔵資料紹介のための刊行提携事業

提携刊行事業として以下の書籍の制作・監修・資料協力等に関わり、刊行を行いました。

神奈川近代文学館蔵『夏目漱石落款集成』(発行：雄松堂書店)頒価：28,000円

『中島敦「李陵・司馬遷」定本篇／凶版篇』(発行：中島敦の会)頒価：2,500円

『中島敦「李陵・司馬遷」注解篇』(発行：中島敦の会)頒価：1,700円

『中島敦の絵はがき—南洋から愛息へ』(発行：中島敦の会)頒価：1,500円